

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報) <植物>

【国外由来の外来種】

対策優先度の要件は緊急対策外来種・重点対策外来種のみ記入

2015.03.26

No.	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件			科名	和名(別名・流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目											原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等								
			被害の深刻度	実効性・実行可能性	特定外来種/旧要注意						定着可能性	生態系被害	分布拡大・拡散			重要地域	特に問題となる被害	逸出・拡散		生物	導入										競争	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続	重要地域
定着を予防する外来種(定着予防外来種)																																						
侵入予防外来種																																						
1	未定着	侵入予防外来種				イネ	ピーチグラス	<i>Ammophila arenaria</i>	海岸砂丘																		ヨーロッパ沿岸地域原産。北米東部、オーストラリア南部、ニュージーランド、南アフリカ、チリに導入。		12m、多年草	砂丘の砂留めに栽植される。	日本でも販売される可能性がある。海外では、砂丘の砂留めに栽植される。一部の地域では、家屋の屋根、籠、椅子の座布などに利用される。	海外で侵略的な外来種とされており、生態系を改変するおそれがあり、海水で分布拡大すること等から、特に日本の沿岸等の生態系に影響を及ぼすおそれのある場所には、持ち込まない。			海外：ISSG	有用		
その他の定着予防外来種																																						
2	未定着	その他の定着予防外来種				カバノキ	ヨーロッパハンノキ(オウシュウクロハンノキ)	<i>Alnus glutinosa</i>	湿地																			ヨーロッパ、コーカサス、シベリア西部原産。オーストラリア、カナダ、ニュージーランド、南アフリカ、合衆国等に導入。		20m、落葉高木	湖沼、自然林、植林地、河川敷、市街地、荒地、湿地に生育する。日当たりの良い、湿った土壌を好むが、乾燥にも耐える。窒素固定を行う。	青森県、岩手県で植栽。海外では、浸食防止、土壌改良、観賞用に植栽される。	海外で侵略的な外来種とされていることから、特に生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。			海外：ISSG	便宜、有用、園芸書、JF	
3	未定着	その他の定着予防外来種				クワ	フランスゴムノキ(コバノゴムビワ)	<i>Ficus rubiginosa</i>																				オーストラリア原産。ヨーロッパや北アメリカに導入。		30m、常緑高木	自然林、植林地、川岸、低木林、市街地、環境への適応の幅は広い。	日本で観賞用に販売されている。海外では、日陰樹等として広く植えられられる。	種特異的な受粉者がいないと種子をつけない。同じイチジク属のガジュマルは、小笠原問題になっている。			海外：ISSG	JF	
4	未定着	その他の定着予防外来種				ベンケイソウ	クラスラ・ヘルムシー	<i>Tillaea helmisii</i>	湿地																			オーストラリア、ニュージーランド原産。ヨーロッパ、合衆国、ロシアに導入。		0.2m、多年草	湿地や水辺を好んで生える。水槽内での栽培の難易度は普通。	日本でもアクアリウムで利用される。	海外で侵略的な外来種とされており、水により断片が散布されること等から、自然水域に持ち込まない。			海外：ISSG	水草、勝山委員	
5	未定着	その他の定着予防外来種				カエデ	ノルウェーカエデ(ヨーロッパカエデ)	<i>Acer platanoides</i>																			ヨーロッパからカフカス地域の原産。北米の自然林に侵入し、侵略的。		28m、落葉高木	海岸、自然林、植林地、攪乱地、市街地に生育する。湿潤な温帯地域に生育する。生長が早く、様々な土壌環境に適応する。耐陰性や耐干性があり、病気への耐性があり、海岸にも生育する。	庭園樹、街路樹、公園樹に利用。葉が周年暗紅色の園芸品種も育成。日本でも流通しており、近年庭木等として用いられている。	海外で侵略的な外来種とされており、風により種子が散布され、浅く張った根茎が在来種の生育を阻害し、葉から土壤微生物に影響を及ぼし、在来種の生育を阻害する毒素を放出する。北アメリカでは下層植生の衰退が報告されている。冷温な地域において、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	日本にはカエデ属の種類が多いことから、定着する可能性が高いと考えられる。日本での栽培成績からは、少なくとも暖地では非常に弱い。雌雄同株。			海外：ISSG	有用、JF、日本造園学会	
6	未定着	その他の定着予防外来種				カエデ	アメリカハナノキ(ベニカエデ)	<i>Acer rubrum</i>	ハナノキの生育地の周辺																		米国北部、カナダ原産。		40m、落葉高木	沼沢地や川岸に生える。	庭木、公園樹、並木として利用される。	絶滅危惧種(NU)の遺伝的攪乱を引き起こすことから、ハナノキの生育場所の周辺には持ち込まないが、花粉の散布を防止する配慮が必要である。	絶滅危惧種(VU)のハナノキの遺伝的攪乱を引き起こしている。	その他：勝木委員	樹木、日本生態学会第60回全国大会(2013)講演要旨			
7	未定着	その他の定着予防外来種				グミ	ホソグミ(ロシアンオリーブ)	<i>Elaeagnus angustifolia</i>	湿地や河原																			ヨーロッパ南部から西アジア原産。合衆国で河川を中心に急速に増加。		9m、低木	農耕地、氾濫原、川岸、水路、湿地に生育する。実生には耐陰性があり、貧栄養な環境を含み、様々な土壌、水分条件に生育する。他の低木や木本の競争に耐え、萌芽生長により広がる。	日本でも、観賞植物として、販売されている。海外では、果実は食用にされ、栽培されることもある。中国西部では薬用にする。	海外で侵略的な外来種とされており、窒素固定能力があるとともに、水や鳥、小型哺乳類により種子が散布される。自然水域や生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	日本にはグミ属の在来種が数多くあることから、定着する可能性が高いと考えられる。			海外：ISSG	有用、Ylist
8	未定着	その他の定着予防外来種			(旧要注意)	ギョリュウ	タマリクス属雑種(ギョリュウ)	<i>Tamarix x hybrid</i>	湿地や河原																		ギョリュウ属は南ヨーロッパ、北アフリカ、アジアに分布。		7m、落葉低木	農業地域、沿岸地帯、荒地、河口、湖岸、河川、攪乱地、市街地、水路、湿地に生育する。	日本では、通称名ギョリュウで種名不明なものも流通している。	海外で侵略的な外来種とされており、水辺の生物や水利用への影響が大きいことから、自然の河川等や生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	<i>T. ramosissima</i> (Worst100)に要注意外来種と <i>T. chinensis</i> ギョリュウを両親または片親とするすべての雑種。	要注、W100: IUCN、海外：ISSG、その他：藤井委員	JF、J. F. Gaskin and B. A. Schaal. 2002. Hybrid Tamarix spread in U.S. invasion and undetected in native Asian range. PNAS 99:11256-11259. 園芸			
9	小笠原・南西諸島/未定着	その他の定着予防外来種			旧要注意	ヤルマ	ヤツデグワ	<i>Cecropia peltata</i>																				熱帯アメリカ原産。		20m、常緑高木	森林の低地に多いが、攪乱地、岩岩層、森林のギャップ、植林地などに生育する。	沖繩等の暖地や温室などで観賞用に栽培される。果実は甘くて海外では食用にされる。薬用になる。	海外で侵略的な外来種とされており、鳥により種子が運ばれて森林に侵入すること等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	旧分類のイラクサ科。種子は果実食の鳥に運ばれる。			海外：ISSG	藤井委員
10	小笠原・南西諸島/未定着	その他の定着予防外来種				ヤルマ	ケクロビア・シュレベリアナ	<i>Cecropia schreberiana</i>																				コスタリカ、ジャマイカ等が原産。ポリネシア等に導入。		20m、高木	日当たりの良い肥沃地を好む。自然林、植林地、草地、川岸、攪乱地に生育する。	日本では温室での栽培例がある。	海外で侵略的な外来種とされており、鳥により種子が運ばれて森林に侵入すること等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	旧分類のイラクサ科。種子は果実食の鳥やコウモリに運ばれる。			海外：ISSG	藤井委員
11	小笠原・南西諸島/未定着	その他の定着予防外来種				トベラ	シマトベラ(トウソゴ)	<i>Pittosporum undulatum</i>																			オーストラリア東部原産。台湾で野生化。	小笠原で野生化する。	12m、低木	関東の無加温温室で越冬。自然林、草地、河川敷、攪乱地、低木林に生育する。	日本でも栽培されている。海外では、防風のために植えられ、ゴルフクラブや薪炭に利用され、観賞用としても利用、ミツバチの蜜源にもなる。	海外で侵略的な外来種とされており、鳥により種子が散布されること等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	有毒物質のサポニンを含み、他の植物の生育を阻害する。			海外：ISSG	園芸書典	
12	小笠原・南西諸島/未定着	その他の定着予防外来種				フトモモ	タチバナアデク(ピタンガ)	<i>Eugenia uniflora</i>																			ブラジル原産。熱帯アメリカに分布。アジア、オーストラリア、ヨーロッパ、北アメリカにも導入。		10m、常緑の低木または小高木	自然林、植林、草原、低木林、海外では、果樹として栽培されたものが野生化。	日本でも流通している。果樹として熱帯各地で栽培される。海外では薬用にされる。	海外で侵略的な外来種とされていることから、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。			海外：ISSG	有用、Ylist、JF		

No.	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件		特定外来/旧要注意	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目											原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等					
			被害の深刻度	実効性・実行可能性							定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散			重要地域	特に問題となる被害	逸出・拡散														
											生物	導入	競合	交雑	変異	散布	繁殖	気候													永續	人体	経済産業	利用	付着混入
13	小笠原・南西諸島/未定着	その他の定着予防外来種				フトモモ	ムラサキフトモモ(ヨウミヤクアデク、メシグラク、ムレザキフトモモ)	<i>Syzygium cumini</i>																	インドからマレーシア原産。東南アジア、オーストラリア北部に分布。		30m、高木	自然林に生育する。熱帯および亜熱帯気候の広い環境条件下で生育する。洪水や干ばつにも耐える。	各地で紫色の果実を食用にするために栽培される。インドネシアでは薬用、種なしの品種もある。日本でも流通している。	海外で侵略的な外来種とされていることから、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。			海外:ISSG	有用、Ylist、JF	
14	小笠原・南西諸島/未定着	その他の定着予防外来種			旧要注意	ノボタン	アメリカカサノボタン	<i>Clidemia hirta</i>																	熱帯アメリカ原産。太平洋諸島やインド洋に導入。		2m、低木	自然林、草原、水辺、攪乱地、低木林に生育する。	海外では観賞用等に栽培される。日本では植物園の温室で栽培される。温室の鉢物により。	海外で侵略的な外来種とされ、鳥、人、車などによって分布拡大することなどから、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	軟弱そうに見えるが、丈夫で、年中花が咲き実がつく。増殖は実生で行い、発芽もよい。挿し木もできる。南西諸島や小笠原は、大きな脅威になる可能性がある。			要注意、W100:UCN、海外:ISSG、その他:藤井委員	園芸事典、藤井委員
15	小笠原・南西諸島/未定着	その他の定着予防外来種				ウコギ	シェフレラ・アクチノフィラ(ブラッサイア、オクトバスツリー)	<i>Schefflera actinophylla</i>																	オーストラリア、ニューギニア原産。ハワイなど太平洋諸島で侵略的。		30m、高木	自然林、攪乱地、市街地に生育する。	観賞用に栽培される。日本でも流通している。	海外で侵略的な外来種とされ、鳥により種子が運ばれて分布拡大することなどから、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。			海外:ISSG	JF、IPSW	
16	小笠原・南西諸島/未定着	その他の定着予防外来種			旧要注意	ヤブコウジ	コウトウチバナ(セイロンマンリョウ)	<i>Ardisia elliptica</i>																	アジア原産。合衆国、インド洋諸島、ハワイ諸島等に分布。		5m、常緑低木	熱帯の泥湿海岸地域の海岸や湿潤な森林等に生育する。	観賞用に利用される。日本でも流通している。	海外で侵略的な外来種とされ、耐陰性があり、鳥により種子が運ばれて分布拡大することなどから、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。			要注意、W100:UCN、海外:ISSG	Ylist、JF、外来生物、IPSW	
17	小笠原・南西諸島/未定着	その他の定着予防外来種				ガガイモ	オオバナアサガオ(インドコムカズラ)	<i>Cryptostegia grandiflora</i>																	マダガスカル原産とされるが原産地ははっきりしない。北アメリカ、南アメリカに分布。オーストラリアで侵略的。		2m、常緑のつる性木	農耕地、自然林、植林、氾濫原、河岸、攪乱地、低木林、水路、湿地、海岸に生育する。	観賞用としてフェンスに這わせたり、生垣として用いる。日本でも栽培される。沖縄の石垣島では支柱仕立てで庭木としている。刈りこめは低木状になる。茎からは良質の繊維がとれる。乳液からはゴムが採取される。第二次大戦のときにはゴム原料植物として栽培された。	海外で侵略的な外来種とされ、風や水により種子が散布されることなどから、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	強健種で比較的栽培は簡単。潮風に強いので海浜地の植栽に適する。多湿地を嫌い、排水の良い砂質土壌を好む。繁殖は実生(取り播き)、取木、散布による分布拡大:拡散もないので、播種には当たらないと考える(日本造園学会)。			海外:ISSG	有用、熱帯花木、園芸事典、JF、IPSW、日本造園学会
18	小笠原・南西諸島/未定着	その他の定着予防外来種				ノウセンカズラ	トラノツメ(ネコノツメ)	<i>Macfadyena unguis-cati</i>																	メキシコ、ガマラ、ブラジル、アルゼンチン原産。オーストラリア、合衆国南東部、アフリカ南部で侵略的。		20m、つる性の常緑多年草	自然林、植林、草原、攪乱地、市街地に生育する。若い時は耐陰性がある。	海外では観賞用に栽培されるほか、薬用にも利用される。苗木入手容易。近年トラノツメという名で市場に出ている。近年広く栽培されている。	海外で侵略的な外来種とされ、風や水により種子が散布されることなどから、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	<i>Macfadyena-Dolichandra</i> 、案外に耐寒性がある。軽い霜では害をうけず、日本の中部以西の暖地ならばよく戸外で生育し、つるは長く伸びる。挿し木で簡単に発根し、よく生長する。			海外:ISSG	有用、熱帯花木、園芸事典、IPSW、JF
19	小笠原・南西諸島/未定着	その他の定着予防外来種				キツネノマゴ	ベンガルヤハズカズラ(ウリバローレルカズラ)	<i>Thunbergia grandiflora</i>																	インド-東南アジア原産。オーストラリアやハワイで特に問題。		10m、つる性の常緑植物	自然林、植林地、攪乱地、川岸、海岸に生育する。日本では、関東南部、横浜などで近年、路地での越冬がみられる。	観賞用に栽培される。苗木入手容易。斜面、フェンスや網目格子を簡単に覆ってしまう。海外では、薬用にも利用される。	海外で侵略的な外来種とされ、水により茎や根茎の断片が散布されること等から、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	寒さで傷みやすいが、回復も早い。小笠原では近縁種の <i>T. laurifolia</i> が野生化している。海外では牧草地にも侵入している。			海外:ISSG	有用、熱帯花木、園芸事典、JF、IPSW、Ylist
20	小笠原・南西諸島/未定着	その他の定着予防外来種				リュウゼツラン	アツパチトセラ(サンスベリア)	<i>Sansevieria trifasciata</i>																	熱帯西アフリカ原産。ハワイで野生化。オーストラリアでは環境雑草、台湾で侵略的。		1m、多肉の多年草	海外では栽培された場所から逃げ出している。越冬には12-15℃必要だが、乾燥に強いので、水を控えれば0℃近い低温にも耐える。	観葉植物として栽培され、多くの園芸品種がある。株分けで繁殖する。アフリカでは葉から繊維を採取。	海外で侵略的な外来種とされ、近縁種が小笠原で繁茂していること、鳥や動物による分布拡大があること等から、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	近縁種のチトセラ <i>S. nilotica</i> が小笠原の父島、母島、弟島、姉島、姪島などに野生化。耐陰性がある。			海外:ISSG	有用、園芸事典、JF、PIER、GCW
21	小笠原・南西諸島/未定着	その他の定着予防外来種				イネ	ダイサンチク(タイサンチク)	<i>Bambusa vulgaris</i>																	東南アジアから太平洋諸島まで広く分布。	日本の暖地では露地でどうにか越冬できるが、遅く出た筈は先が枯れる。	15m、高木	自然林、植林地、川岸、攪乱地、水路に生育する。湿気のある低地を好むが、気候や土壌条件への耐性は広い。土手、道端など開けた場所に生育する。	庭園観賞、製紙、建築用、防風用に栽培される。若いだけの食用にされる。建築など各種の用途に用いられる。	海外で侵略的な外来種とされ、除去の際に根茎の断片が散布されること等から、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	近縁種のホウライチク <i>B. multiplex</i> 、インドシナ原産説と九州、琉球野生説がある。			海外:ISSG	有用、園芸事典、Ylist、JF、木本
22	小笠原・南西諸島/未定着	その他の定着予防外来種				ヤシ	シマケンチャヤシ(ユスラヤシモドキ)	<i>Archontophoenix cunninghamiana</i>																	オーストラリア島北部原産。ブラジル、ニュージーランド等で侵略的。	露地栽培の北限は九州南端で、栽培は可能である。	20m、高木	海岸、自然林、河岸、攪乱地、市街地に生育する。ある程度の耐寒性と耐陰性がある。	優美な姿を観賞するために栽培される。カリフォルニアや地中海沿岸の温暖な地域では野外で栽培できる。	海外で侵略的な外来種とされ、耐陰性があり、水や鳥により種子が散布されること等から、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。			海外:ISSG	有用、園芸事典、JF	

総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種)

緊急対策外来種																														
23	分布拡大期-まん延期	緊急対策外来種			特定外来(一部)	アカウキクサ	外来アゾラ類	<i>Azolla</i> spp.	アカウキクサやオオアカウキクサの生育地周辺															世界各地に分布。本州、四国、九州に分布する。現在各地で広がっているものの大半は、雑種アゾラと呼ばれてきたアイオアウキクサ <i>Azolla cristata</i> × <i>filiculoides</i> である。	3cm、浮遊植物	湖沼、水田、溝、水路など日当たりのよい浅い水域に生育する。	合鴨農法の中で、アイガモの飼料として各地に配布されたが、アゾラ・クリスタータについては特定外来生物に指定され、利用は規制されている。	アゾラ・クリスタータは特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。アゾラ・クリスタータ(アメリカオオアカウキクサ) <i>Azolla cristata</i> 、各県:愛知はアゾラ・クリスタータとオオアカウキクサ大和型(ニシノオオアカウキクサ)との人工雑種アイオアウキクサ <i>Azolla cristata</i> × <i>filiculoides</i> 、各県:千葉はこれら2種、ISSGは <i>A. pinnata</i> 。	特定外来、対策:H20<4、H23<4、専門家:水生34、各県:千葉・兵庫・愛知・愛媛、海外:ISSG	雑草、角野(2013)、写真図鑑、角野
24	分布拡大期-まん延期	緊急対策外来種			特定外来	ヒユ	ナガエツルノゲイトウ	<i>Alternanthera philoxeroides</i>	池沼や湿地															南アメリカ原産。熱帯アジア、オーストラリア、北アメリカに分布。1989年に渡来し、関東-沖縄の一部に分布。	長さ1m以上、多年草	湖沼、河川、水路、水田に生育する。	本種は特定外来生物に指定され、利用は規制されている。		特定外来、村中:B、対策:H20<4、H23<6、専門家:水生28、各県:千葉・兵庫、河川:1,1,5、海外:ISSG	便覧、写真図鑑、帰化植物、IPSW、角野

No.	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件		特定外来/旧要注意	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目													原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
			被害の深刻度	実効性・実行可能性							定着可能性	生物	導入	生態系被害			分布拡大・拡散			重要地域	特に問題となる被害	逸出・拡散										
														観合	交雑	変異	散布	繁殖	気候				永續									
25	分布拡大期～まん延期	緊急対策外来種			特定外来	ウリ	アレチウリ	<i>Sicyos angulatus</i>	河原の固有種の生育地		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	北アメリカ原産。南アメリカ、ヨーロッパ、アジア、オセアニア、太平洋諸島に分布。	1952年に静岡に渡来。近年は飼料に混入し、北海道～九州に分布。	数m、つる性の一年草	林縁、荒地、道端、原野、樹園地、造林地等に生育する。河川敷飼料畑に大群落。日当たりの良い肥沃な環境を好む。	本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。規制以前にも、利用に関する情報はなかった。		果実に刺がある。	特定外来、W100:日本、村中:A、対策:H20:51、H23:33、専門家:草原47、各県:青森・栃木・埼玉・千葉・京都・兵庫・愛知・広島、河川:44,78,84	便覧、写真図鑑、外来生物、世継		
26	定着初期/限定分布	緊急対策外来種			特定外来	アカバナ	オオバナミズキンバイなどを含むルドウィギア・グランディフロラ	<i>Ludwigia grandiflora (L. grandiflora ssp. grandiflora)</i>	湖沼		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	南米及び北米南部原産。ヨーロッパや北米北部で野生化。	オオバナミズキンバイが、2007年に兵庫県のため池で確認。2009年の冬期に琵琶湖湖南湖への侵入が確認された。その後はますます強い勢いで分布を拡大し、2012年末に南湖のほぼ全域まで分布を広がった。ウスグオオバナミズキンバイ <i>ssp. hexapetala</i> は2009年に鹿児島で確認された。	0.8m、浮葉～抽水～湿性の多年草	湖沼、湿地、ため池、湖沼、水路、河川に生育する。コンクリートの護岸でも生育できる。	本種の可能性のある類似種が、観賞水草として日本で流通している。水質浄化やビオトープ用の植物として利用されたと考えられる。本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。	ヨーロッパやアメリカで侵略的な外来種とされ、琵琶湖南湖では急速に分布を拡大している。河川や湖沼への水草の導入は、基本的に行うべきでない。	ナガエツルノゲイトウと同様あるいはそれ以上に除草困難である。近縁の絶滅危惧種のミズキンバイの遺伝的攪乱を引き起こすことも危惧される。	その他:藤井委員	水草研究会誌89号、藤井委員、GCW、水草、角野		
27	分布拡大期～まん延期	緊急対策外来種			特定外来	アリノトウグサ	オオフサモ	<i>Myriophyllum aquaticum</i>	池沼や湿地		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	南アメリカ原産。ヨーロッパ、アジア、オーストラリア、北アメリカ、ハワイ諸島に分布。	大正年間に渡来。北海道～九州、琉球で分布。	1m、抽水性の多年草	湖沼、ため池、河川、水路に群生する。	観賞用の水草として導入されたいたが、特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。		種子は作らない。	特定外来、W100:日本、村中:A、対策:H20:11、H23:15、専門家:水生35、各県:栃木・埼玉・千葉・京都・愛知・兵庫・広島・佐賀・宮崎、河川:23,29,46、海外:ISSG	雑草、便覧、写真図鑑、IP5W、角野		
28	定着初期/限定分布	緊急対策外来種			特定外来	セリ	ブラジルチドメグサ	<i>Hydrocotyle ranunculoides</i>	池沼		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	南アメリカ原産。	1998年頃に野生化が確認。九州南部と岡山に分布。	長さ1m以上、浮葉～抽水性の多年草	湖沼、河川、水路に生育する。	本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。			便覧、写真図鑑、角野			
29	分布拡大期～まん延期	緊急対策外来種			特定外来	ゴマノハグサ	オオカワヂシャ	<i>Veronica anagallis-aquatica</i>	カワヂシャが生育する河原や湿地		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	ヨーロッパ～アジア北部原産。南アメリカ、ニューギニア、オーストラリア、南アメリカに分布。	渡来年代不明。本州、四国、九州に分布。	1m、抽水性の多年草	湿地、河川、水田、水路に生育する。	本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。		絶滅危惧種のカワヂシャとの交雑が確認されている。	特定外来、村中:A、対策:H20:4、H23:6、専門家:交雑24、各県:栃木・愛知・京都・兵庫・広島・佐賀、河川:6,17,36	便覧、写真図鑑、外来生物、角野		
30	分布拡大期～まん延期	緊急対策外来種			特定外来	キク	オオキンケイギク	<i>Coreopsis lanceolata</i>	河原の固有種の生育地		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	北アメリカ原産。世界各地で利用。	明治中期に渡来。北海道～九州、琉球、小笠原に分布。	0.7m、多年草	河川敷、道沿い、海岸などに大群落を作る。	園芸植物として渡来。ワイルドフラワー緑化等に使用されていた。本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。		愛知県でも、カワラサイコやカワラハハコを圧迫している。	特定外来、W100:日本、村中:C、対策:H20:22、H23:27、専門家:河原42、草原40、各県:千葉・兵庫・愛知・鳥取・広島・佐賀、河川:19,58,86	便覧、写真図鑑、帰化植物、外来生物		
31	分布拡大期～まん延期	緊急対策外来種			特定外来	キク	ミズヒマワリ	<i>Gymnocoronis spilanthoides</i>	池沼		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	中央～南アメリカ原産。アジア、オーストラリア、太平洋諸島、ヨーロッパに導入。	1995年渡来。関東～四国、九州に分布。	1m、抽水性の多年草	湖沼、河川、水路の水中や水際で繁茂する。	観賞用に利用された。本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。		治水や水利用の障害になっている。	特定外来、村中:B、対策:H20:8、H23:5、専門家:水生26、各県:栃木・埼玉・千葉・愛知・兵庫・佐賀、河川:0,0,2、海外:ISSG	便覧、写真図鑑、角野		
32	分布拡大期～まん延期	緊急対策外来種			特定外来	キク	オオハンゴンソウ	<i>Rudbeckia laciniata</i>	湿原や林床		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	北アメリカ原産。世界各地で利用。	園芸植物として明治中期に渡来。北海道～九州、琉球に分布。	3m、多年草	路傍、荒地、河原、湿原など、肥沃で湿った環境に生育する。国立公園の湿原や森林といった自然度の高い環境に繁茂する。	本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。		ハナガサギク(ヤエギクオオハンゴンソウ)(広島、H23:1)含む。国立公園等、各地の重要地域で駆除が行われている。	特定外来、村中:B、対策:H20:18、H23:2、専門家:草原40、高山20、各県:北海道・青森・栃木・千葉・愛知・兵庫・鳥取・広島、河川:18,32,35	便覧、写真図鑑、帰化植物、外来生物		
33	分布拡大期～まん延期	緊急対策外来種			特定外来	キク	ナルトサワギク	<i>Senecio madagascariensis</i>			/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	アフリカ(マダガスカル)原産。	1976年渡来。本州、四国、九州に分布。	0.7m、一年～多年草	海辺の埋め立て地や空き地などに生育する。	本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。		急性中毒は引き起こさないが、肝毒性や発がん性を有するピロリジニアルカロイドが乳汁へ移行するという報告もあり、非意図的に人的被害をもたらす危険性もある。コウベギクやカシュウボロギクの名での報告がある。	特定外来、対策:H20:4、H23:1、専門家:草原18、各県:千葉・愛知・兵庫、河川:0,0,5	http://www.narofaffrc.go.jp/org/niah/disease_poisoning/fireweed.html		

No.	定着段階 / 限定分布	カテゴリ	対策優先度の要件		特定外来 / 旧 重要注意	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目														原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等						
			被害の深刻度	実効性・実行可能性							定着可能性	生物	導入	生態系被害		分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散																
34	定着初期 / 限定分布	緊急対策外来種			特定外来	イネ	スバルティナ属	<i>Spartina</i> spp.	干潟																					北アメリカ、ヨーロッパ、北アフリカで15～16種類が知られる。	スバルティナ・アルテルニフロラ(ヒガタシ) <i>S. alterniflora</i> が愛知県と熊本県で分布拡大中。	3m. 汽水性の多年草	海岸近くの河口域、塩沼地、干潟に生育する。	海外では塩沼地の回復や、土壌の浸食防止に利用される。本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。	海外で侵略的な外来種とされており、植物体の断片により分布を拡大し、干潟の生態系や水利用に悪影響を及ぼしている。日本でも希少種が生育する貴重な生態系である干潟への影響が危惧されている。河川や干潟等の自然水域には、持ち込まない。	北アメリカ原産の <i>S. alterniflora</i> が導入されたイギリスで <i>S. maritima</i> と交雑して不稔雑種の <i>S. × townsendii</i> を形成し、それが倍数化して <i>S. anglica</i> が生まれた。スバルティナ・アングリカは特定で IUCN フォールスト100、ISSGには <i>S. anglica</i> , <i>S. alterniflora</i> , <i>S. densiflora</i> が掲載。	特定外来、W100、IUCN、対策:H23.1、専門家:塩沼10、各県:愛知、海外:ISSG、その他:藤井委員		Neira, Carlos, Levin, L A and Grosholz, E D. 2005. Benthic macrofaunal communities of three sites in San Francisco Bay invaded by hybrid Spartina, with comparison to uninvaded habitats. Marine ecology progress Series 292:111-126.
35	分布拡大期 - まん延期	緊急対策外来種			特定外来	サイモ	ポタンウキクサ	<i>Pistia stratiotes</i>	暖地の池沼や湿地																					南アフリカ原産。アジア、オーストラリア、北アメリカ、南アメリカ、インド洋諸島、ハワイ諸島に分布。	昭和初期に渡来。本州(関東以西)、四国、九州、琉球、小笠原に分布。	0.3m. 浮遊性の多年草	池沼、河川、水田、水路など日当たりの良いところに生育する。	本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。	在来の水生植物に深刻な影響を及ぼす。	特定外来、W100、日本、村中:A、対策:H20.6、H23.7、専門家:水生36各県:千葉・愛知・京都・兵庫・広島・滋賀・佐賀・宮崎、河川:H21.24、海外:ISSG		外来生物、便覧、角野、IPSW	
36	小笠原・南西諸島	緊急対策外来種			旧要注意	キク	ツルヒヨドリ(ツルギク、ミカニア・ミクランサ)	<i>Mikania micrantha</i>																						熱帯アメリカ原産。熱帯アジア、北アメリカ、南アメリカ、インド洋諸島、太平洋諸島に分布。	1984年に沖縄県うるま市の天願川河口付近で発見。本島中部一帯で繁茂し、西表島にも侵入した。周年にわたって開花する。	20m以上、つる性の多年草	畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地などに生育する。イネ、牧草、ゴム、チャなどのプランテーションで問題になる。日陰地でも日当たりのよい所と同様に生育がよい。	インドでは第二次大戦後、飛行機の離着陸場のカモフラージュに利用され、侵入した。日本での栽培は未確認。	写真図鑑の引用文献の学名はいずれも <i>M. cordata</i> だが、 <i>M. micrantha</i> として記述。日本に定着しているのは本種との植村氏の私信もあり。 <i>M. scandens</i> との混同が多く、ともにツルギク、ツルヒヨドリの名で呼ばれる(写真図鑑)。	要注意、W100、IUCN、海外:ISSG、その他:植田委員		世雑、藤井委員、横田委員、写真図鑑、IPSW	
37	小笠原・南西諸島	緊急対策外来種			旧要注意	キク	アメリカハマグルマ(ミツバハマグルマ)	<i>Sphagneticola trilobata</i>	隆起珊瑚礁など海岸砂地や岩場、林縁																					フロリダ南部～熱帯アメリカ原産。アフリカ南部、熱帯アジア、太平洋諸島に分布。	沖縄には1970年代初期に渡来した。香川、宮崎、琉球、小笠原に分布。	0.2m. 多年草	農耕地、海岸、自然林、植林地、草原、河原、低木林、市街地に生育する。日向を好むが耐陰性もある。日本では、南西諸島の隆起珊瑚礁で猛繁殖。畑地の雑草となっている。	法面等の被覆用やつり鉢に利用される。	海外で侵略的な外来種とされ、日本でも南西諸島や小笠原諸島等で繁茂している。生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	要注意、IUCN、村中:C、専門家:砂浜5、各県:小笠原・奄美・ISSG、その他:藤井委員		便覧、写真図鑑、園芸事典、JF、外来生物	
重点対策外来種																																							
38	定着初期 / 限定分布	重点対策外来種				ハマミズナ	バクヤギク(エデュリス、黄邪菊)	<i>Carpobrotus edulis</i>	海岸砂浜																					南アフリカのカープ地方が原産。ヨーロッパ、オーストラリア、合衆国西部等で侵略的。	愛知県の渥美半島先端部の砂浜に一時かなり広がった。	1m. 多肉の多年草	海岸や撈乱地にマット状に生育する。水はけの良い土壌と、日当たりが良い環境を好む。	浸食防止、観賞用、被覆植物として利用される。食用や薬用にもされる。日本でも、流通、市販されている。	海外で侵略的な外来種とされており、海浜の生態系への影響が大き。動物により種子が散布されること等から、こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	ハギクソウやハマウツボへの影響が懸念。カルボブロス属は丈夫で、動物により種子が散布されるかなかなか着花しないが、春に地植えすると夏頃に咲く。土壌のpHや養分条件を変える。	各県:愛知、海外:ISSG	JF、園芸事典、IPSW	
39	分布拡大期 - まん延期	重点対策外来種			(旧要注意)	サボテン	ウチワサボテン属	<i>Opuntia</i> spp.	海岸砂浜や河原																					アメリカ大陸の広範囲に250種が知られる。	長野県にヒラウチワ(単刺団扇) <i>vulgaris</i> 、沖縄県北大東島にセンニンサボテン <i>O. stricta</i> 、香川県などに種小名不明のものが分布。	数mの木になるものもある。	種類によっては耐寒性があり、暖地では野外で生育する。在来の海浜植物を圧迫。	海外では産業的に重要な種が多く、果実、若い莖節を食用の目的で栽培されるほか、家畜の飼料として、庭の植え込みに利用する。日本でも、単刺団扇 <i>O. vulgaris</i> や赤島帽子 <i>O. rufida</i> のように漢字の園芸名がつけて栽培されるものが多数ある。	海外で侵略的な外来種とされており、鳥により種子が散布される。日本では、剪定した枝や不要になった株が野外に投棄されて逸出したと考えられる。海浜植物や人への悪影響が懸念されることから、生物多様性の保全上重要な、特に海浜や河川環境に侵入することのないよう、植物体や果実を放置しない等の適切な管理が必要である。	サボテン科の中で最大の属、種類が多く同定困難。センニンサボテンが要注意で IUCN フォールスト100、ISSGは <i>O. cochenillifera</i> , <i>O. ficus-indica</i> , <i>O. monacantha</i> 。愛知県では沿岸域における移入種として、ウチワサボテン属が条例の規制の対象となっている。	要注意、W100、IUCN、対策:H20<4、海外:ISSG	観葉、便覧、園芸事典、JF	
40	分布拡大期 - まん延期	重点対策外来種			旧要注意	スイレン	ハゴロモモ(フサジュンサイ、カモンバ)	<i>Cabomba caroliniana</i>	ため池、湖沼																					北アメリカ東南部原産。ヨーロッパやアジアで野生化。	1929年に導入。1950年に野生化が確認。本州、四国、九州に分布。	2m. 沈水の多年草	湖沼、ため池、河川、水路などに生育する。水質がやや汚濁した環境にも生育する。	観賞用水草として利用。	海外で侵略的な外来種とされており、断片の水散布により分布が拡大し、水生の希少種への影響も危惧されること等から、自然水域には持ち込まない。	愛知県では、ガガバやヒシなどの在来水草を圧迫している。ハゴロモモ(ジュンサイ)科 CABOMBACEAE に分類されるようになった。	要注意、村中:C、FAO:8、専門家:水生36、各県:愛知・愛媛、4.9.12、海外:ISSG	便覧、写真図鑑、磯化植物、外来生物、Ylist、角野	
41	分布拡大期 - まん延期	重点対策外来種				スイレン	園芸スイレン	<i>Nymphaea</i> cv.	ため池、湖沼																					約40種類が熱帯から温帯にかけて広く分布。	明治時代末期から園芸植物として渡来した。北海道、本州、四国、九州、沖縄で栽培され、野生化、各地で生育しているが、外来種との認識がうすく、逸出と植栽の境界が明確でない。	浮葉性の多年草	湖沼、水路、人里近くのため池などに多い。	観賞用に交配された多数の園芸品種が観賞用に池や温室で利用される。熱帯性と耐寒性に大きく分けられる。日本のヒツジグサと交配した品種も多い。種子や根茎はデンプンを多く含み、食用にされることもある。根茎は薬用にも利用される。	海外で様々な種類が侵略的な外来種とされており、日本でもしばしば旺盛に繁殖して水面を覆い、絶滅危惧種を含む水生生物への悪影響を及ぼすため、駆除が行われている。自然水域には、持ち込まない。	愛知県は在来種のヒツジグサを除くスイレン属、名古屋市では耐寒性の外来スイレンの駆除が行われている。神奈川県相模原市の池でも駆除。海外では、ニオイヒツジグサ <i>N. odorata</i> が侵略的にされている(ISSG)。ヨーロッパで <i>N. alba</i> が、スリナムで <i>N. Amazonum</i> が、ローデシアで <i>N. caerulea</i> が、パキスタンで <i>N. lotus</i> が、インドで <i>N. sterilata</i> が重要な雑草とされる。その他にも様々な種類が雑草化している。	対策:H20<4、専門家:水生31、各県:愛知、海外:ISSG	有用、便覧、園芸事典、GAWW、GCW、JF、http://www.bdnagoya.jp/introduction/activities/water_lily.html / 角野	
42	定着初期 / 限定分布	重点対策外来種				モウセンゴケ	ナガエモウセンゴケ(ナガエノモウセンゴケ、ドロセラインターメディア)等の外来モウセンゴケ類	<i>Drosera intermedia</i> , <i>Drosera</i> spp.	湿地																					北アメリカ、ヨーロッパ原産。	岡山県等で問題になっている。	15cm. 多年草	ミズゴケ類が育つような湿地に生育する。	観賞用に利用されている。	在来種の遺伝的な攪乱を引き起こし、貴重な生態系である湿地への影響も大きいことから、自然環境には、持ち込まない。	重要湿地への移植が問題。在来種のモウセンゴケ <i>D. rotundifolia</i> との自然交雑が確認されている。本種の除去作業は、湿地生態系への影響も大きい。日本と同じ気候帯に分布しているため、露地栽培でよく育つ。モウセンゴケ属は多数の種子を散布し、栄養繁殖も盛ん。	対策:H20<4、H23.3、専門家:湿地21、各県:千葉、(けが) (イモゴケ)・岡山・愛媛	便覧、写真図鑑、園芸事典	

No.	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件		特定外来/旧要注意	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目													原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等	
			被害の深刻度	実効性・実行可能性							定着可能性	生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害	逸出・拡散												
												生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖			気候	永續	人体										経済産業
43	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種			旧要注意	アブラナ	オランダガラシ(クレソン)	<i>Nasturtium officinale</i>	池沼や溪流																ヨーロッパ、中央アジア原産。南北アメリカ、オセアニアに分布。	1870年頃渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球で栽培、逸出。	0.6m。抽水性。多年草	水田、河川、溝、水路、流れのある沼、湖畔から山間の溪流の水辺から水中に群生する。日当たりの良いところを好む。低水温で生育しやすい。	食用に広く利用される。薬用に利用されるほか、水質浄化を目的に導入されることがある。種子を葉用に	河川で分布を拡大するとともに、湧水のあるような清冽な水域にも生育するため、こうした環境に生育する希少種等と競合し、駆逐するおそれがある。農業被害も生じることから、こうした影響を及ぼす水域には持ち込まない。	農業用排水路の水流を妨げる雑草等としても駆逐される。世界的に温帯地域の水路で問題になる雑草である。茎節から容易にひげ根を発生して繁殖する。種子の発芽力は4～5年持続する。群馬県では絶滅危惧種のカワヂシャと生育場所が重なることが確認された。	要注意、村中・B、FAO.9、対策:H23.1、専門家:水生12、河川:40.75.86	世雄、便覧、帰化植物、外来生物、園芸辞典
44	定着初期/限定分布	重点対策外来種				マメ	ナガバアカシア	<i>Acacia longifolia</i>																オーストラリア、タスマニア原産。ニュージーランド、南アフリカ、スペイン、ポルトガル、ブラジルで侵略的。	本州(山口)で逸出。南房総で越冬。	8m。常緑小高木	温帯性。暖地では野外で越冬する。窒素を固定する。海岸部の山火事が起き易い場所に生育し、河川敷、低木林、草原、森林にもみられる。年間降水量550mm以上は必要とする。潮風に耐える。	觀賞用や砂丘の安定化のために栽培される。いくつかの変種がある。苗木入手やや難。	海外で侵略的な外来種とされており、動物や水により種子が散布されること等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	本種には、いくつかの変種がある。	海外:ISSG	便覧、有用、園芸事典、JF、熱帯花木	
45	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種			旧要注意	マメ	モリシマアカシア	<i>Acacia mearnsii</i>	蛇紋岩地や草原															オーストラリア南東部タスマニア原産。ヨーロッパ等に分布。アフリカ南部で侵略的。	本州(愛知、大阪、兵庫、広島、山口)、四国(愛媛県)で逸出。	20m。常緑高木	草原、水辺、撈乱地、市街地、水路に生育する。乾燥した温帯地域から湿潤な熱帯地域まで生育する。愛知県田原市の笠山では、蛇紋岩地に侵入し草地植生が消滅。大阪でも越冬するがやや弱い。	觀賞用に栽培される。日本の暖地で緑化樹、肥料樹、樹皮に含まれるタンニンの採取のために導入。	海外で侵略的な外来種とされており、鳥やげっ歯類により種子が散布され、窒素固定により環境を改変し、アレロパシ作用もある。国内でも貴重な生態系の消失が報告されていること等から、こうした環境へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	従来、園芸的に <i>A. mollissima</i> という名前で栽培されてきたものは、本種であることが多い。	要注意、W100:UC.N、各県:愛知、海外:ISSG	便覧、有用、園芸事典、熱帯花木、IPSW、JF	
46	定着初期/限定分布	重点対策外来種				マメ	メラノキシロンアカシア(ブラックウッドアカシア)	<i>Acacia melanoxylon</i>																オーストラリア原産。アフリカ、アジア、ヨーロッパ、インド洋、太平洋、南アメリカ、アメリカ合衆国内に分布。	岡山県の王子ヶ岳では、山林火災の跡地に治山植栽された。斜面下部では、同時に植栽されたクスギやコナラなどを被陰してほぼ純林を形成している。	35m。常緑高木	農耕地、沿岸地帯、河口、自然林、植林地、草原、河岸、撈乱地、低木林、市街地、湿地、常緑のアカシアの中では比較的低温に耐えるので関東以西の沿岸部などの気温が低下しにくい場所では越冬できる。寒さにかなり耐える。東京でも越冬。	岡山県の王子ヶ岳では、山林火災の跡地に治山植栽された。暖地では、マツクイムシの被害跡地などの植栽に有望とされる。原産地では建築材として利用。	海外で侵略的な外来種とされており、動物や水により種子が散布され、日本で既に侵略的になりつつあること等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	海外:ISSG	園芸事典、熱帯花木、岡山理科大学生物地球学部生物地球学科植物生態学研究室(波田研) http://had0.big.ous.ac.jp/plants/dic/angiosperm/ae/dicotyledoneae/choripetalae/leguminosae/melanoxylon/melanoxylon.htm		
47	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種			旧要注意	マメ	イタチハギ(クロバナエンジュ)	<i>Amorpha fruticosa</i>	河川敷、海岸、亜高山帯、リンゴ園周辺															北アメリカ原産。ヨーロッパ、アジアに分布。	1912年に渡来。1940年代以降に本格的に導入。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。	4m。落葉低木	荒地、路傍、崩壊地、土手、河原、海岸、自然度の高い亜高山帯にも定着し、生育する。	庭園樹、砂防用、生垣用に導入。蜜・花粉ともに多いことから、蜂が好んで訪花する。また、養蜂業においては蜜源として利用されている。河川を中心に分布を拡大しており、河原の在来植物と競合、駆逐する等の理由で、多くの都道府県で侵略的な外来種とされている。河川により種子が拡散される場所には、持ち込まない。	H24に改正された養蜂振興法第6条では、「蜜源植物を植栽、除去、又は伐採しようとする者は、その目的に反しない限りにおいて、蜜源植物の増大を旨としてこれを行わなければならない」とされ、国・地方公共団体に蜜源植物の保護・増殖に対する必要な施策を講ずることが求められている。	要注意、W100:日本、村中・B、FAO.7、専門家:河原19、各県:青森、埼玉、京都、兵庫、広島、愛知、愛媛、佐賀、河川:37.78.93、三省:国都・国道	便覧、写真図鑑、農林水産省・林野庁、外来生物		
48	定着初期/限定分布	重点対策外来種				マメ	シュッコルビナス(ルビナス、タヨウハウチワマメ、ノボリフジ)	<i>Lupinus polyphyllus</i>	自然草原															北アメリカ、カナダ原産。ヨーロッパ、南オーストラリア、ニュージーランドで侵略的。	渡来年代不明。北海道で逸出した。	1.5m。多年草	草原、林縁、森林、農耕地、撈乱地、荒地に生育する。	園芸植物として栽培。花色別の園芸品種がある。飼料や緑肥にもされる。	海外で侵略的な外来種とされており、日本では草原への影響が問題とされていること等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	専門家の回答はルビナス。北海道ではシュッコルビナスはA3、キバナルビナス <i>L. luteus</i> はD、志賀高原で対策が行われている。	対策:H20<4、専門家:草原28、海外:ISSG	便覧、写真図鑑、有用、園芸事典、IPSW	
49	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種				ニガキ	ニワウルシ(シンジュ)	<i>Ailanthus altissima</i>	河川敷、二次林															中国の北～中部原産。ヨーロッパ、南北アメリカ、オーストラリアに分布。	1880年頃に渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球で逸出。	10～25m。落葉高木	路面間隙、舗道の割れ目、河川敷、荒地、土手、丘陵の林縁、耕作放棄地に生育する。日当たりの良いところを好む。	庭木、公園樹、街路樹として栽培。群馬県では、第二次世界大戦前までエリサンという輸入蚕の飼料として利用されていた。高温、乾燥、寒気、公害に強く、寒冷地や煙害の強い工場地帯での利用が多い。	海外で侵略的な外来種とされ、日本でも河川等で密林を形成して、分布を拡大するとともに、雑木林への侵入も危惧されている。自然環境には、持ち込まない。	根萌芽により密林の個体群を形成し、水流阻害、洪水誘発を起こす危険性がある。雌雄異株。生長が速い。種子は風や水により散布される。横に伸びる根から出芽する根萌芽で増殖する。ウルシ科ではないので、触れてもかぶれることはない。	村中・C、専門家:雑木13、各県:埼玉、広島、群馬県、河川:37.68.70、海外:ISSG	便覧、写真図鑑、有用、帰化植物、園芸事典、農部	
50	定着初期/限定分布	重点対策外来種			旧要注意	アカバナ	アメリカミズキノシタ(ルドウィジア・レベンス)	<i>Ludwigia repens</i>	池沼や湿地															北アメリカ～メキシコ～西インド諸島原産。	1970年頃渡来。神奈川、京都府(深泥池)で野生化。	長さ0.5m。抽水性。多年草	湖沼、ため池、休耕田、水路、湿地に生育する。	アクアリウム用の觀賞植物として栽培。	ヨーロッパやアメリカでは侵略的な外来種とされており、日本では湿地への影響が危惧されていること等から、自然環境には、持ち込まない。	要注意、村中・B、対策:H20<4、H23.1、専門家:水生12、河川:0.0.1	便覧、写真図鑑、GCW、角野		
51	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種			旧要注意	アカバナ	コマツヨイグサ	<i>Oenothera laciniosa</i>	海岸砂浜															北アメリカ東部原産。温帯～亜熱帯に分布。	1910年に渡来。北海道～九州、琉球、小笠原に分布。	0.5m。多年草	道端、荒地、市街地、畑地、樹園地、海岸や河原などの砂地に生育する。鳥取砂丘で問題になっている。	本種の利用に関する情報は得られなかった。		要注意、村中・B、専門家:砂浜31、各県:愛知、河川:52.84.89、その他:藤井委員	便覧、帰化植物、外来生物		
52	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種				セリ	ウチワゼニクサ(タテバチドメグサ)	<i>Hydrocotyle verticillata</i> var. <i>triradiata</i>	池沼や湿地															北アメリカ原産。南北アメリカ、オーストラリア、アフリカに分布。	1960年頃に渡来。千葉、神奈川、兵庫、琉球などに分布。	0.4m。抽水性。多年草	湖沼、ため池、水路、水田、湿地などに生育する。	觀賞用に栽培される。ピオトープに導入されている可能性がある。	日本では湿地への影響が懸念されており、水散布により分布が拡大する可能性が高いことから、自然水域には、持ち込まない。	1件はウチワゼニクサとなっていた。USDAでは <i>H. prolifera</i> の別学名とされている。	対策:H23.2、各県:愛知	便覧、写真図鑑、帰化植物、USDA、角野	

No.	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件		科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目											原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等					
			被害の深刻度	実効性・実行可能性						特定外来/旧要注意	定着可能性				生態系被害			分布拡大・拡散												重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散	
											生物	導入	競合	交雑	変異	散布	繁殖	気候	永續	人体											経済産業	利用	付着混入	
53	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種			旧要注意	モクセイ	トウネズミモチ	<i>Ligustrum lucidum</i>	暖地の河川敷、二次林、湿地														中国中南部原産。オーストラリア、ニュージーランド、南アフリカ、アメリカ合衆国南等で侵略的。	明治初年に渡来、関東～九州に分布。	10m、常緑小高木	農耕地、沿岸地域、自然林、河岸、撓乱地、湿地に生育する。乾燥した場所から湿った場所に生育する。日本では、近畿地方では河川敷に樹林が形成されるなど、河川で急速に分布を拡大、里山二次林などに侵入。	大気汚染に強く、耐湿性、耐陰性があり、移植が容易で生長が早いので、街路樹や公園樹としてよく植栽される。花が少なくなった梅雨前後に咲くことから、養蜂業においては初夏の有力な蜜源として利用されている。また、生産される蜂蜜も高品質である。干した果実が漢方薬で利用される。中国ではろうそくの原料となるイボタロウムシ培養樹として広く利用される。	海外で侵略的な外来種とされている。日本でも大量に熟す果実が鳥により散布されて河川等に広く逸出し、雑木林や植林への侵入も危惧されている。防除対策が実施されている。生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所では、利用を控える等の配慮が必要である。	観測の条例では、生態系に著しく悪影響を及ぼすおそれのある移入種として指定されている。H24に改正された養蜂振興法第6条では、「蜜源植物を植栽、除去、又は伐採しようとする者は、その目的に反しない限りにおいて、蜜源植物の増大を旨としてこれを行わなければならない。」とされ、国・地方公共団体に蜜源植物の保護・増殖に対する必要な施策を講ずることが求められている。	要注意、村中：C、対策：H20<4、H23-1、専門家：雑木、34、極相21、各県：愛知・兵庫・愛媛、河川：5.30.46、海外：ISSG	便覧、写真図鑑、農林水産省、JF、有用、園芸事典、橋本ら(2003、2005)			
54	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種				キョウチクトウ	ツルニチニチソウ	<i>Vinca major</i>	二次林林床、草原、海岸砂浜														南ヨーロッパ原産。アメリカ南部、南アメリカ、大西洋諸島に分布。オーストラリア、ニュージーランド、合衆国西部で侵略的。	明治時代に渡来、北海道、本州九州、四国、琉球に分布。	2m、つる性の多年草	観賞用に栽培されたものがしばしば逸出し、人家付近から杉林の林床まで、様々な場所に生育する。積雪地帯での生育も旺盛で、半日蔭でも良く育つ。	花が綺麗であることから、野生状態でも容認されることが多い。しかし海外で侵略的な外来種とされ、日本でも河川で分布拡大傾向にあり、草原の植物への影響も懸念されている。さらに耐陰性があることから、林床でも繁殖するので、在来植物への影響は大きい。生物多様性の保全上重要な地域だけでなく林縁や草原に接する環境には、持ち込まない。	種子はあまりつらない。	専門家：草原27、各県：愛媛、河川：13.26.50、海外：ISSG	便覧、写真図鑑、有用、帰化植物、園芸事典、JF、IPSW				
55	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種				ヒルガオ	外来ノアサガオ類	<i>Ipomoea</i> spp. (<i>Pharbitis</i> spp.)	海岸や林縁														アサガオ類は、熱帯アメリカや熱帯アジアに分布。ノアサガオはヨーロッパ南部、オーストラリア、ニュージーランドで侵略的。	アサガオ類は、熱帯アメリカや熱帯アジアに分布。ノアサガオはヨーロッパ南部、オーストラリア、ニュージーランドで侵略的。	10m以上、つる性の一年～多年草	アメリカアサガオは、畑地、樹園地、牧草地、荒地などに生育する。土壌環境に対する適応性が大きく耐陰性もあり、海外では畑地雑草となっている。ノアサガオは熱帯、樹園地、牧草地、荒地などに生育し、世界的な畑地雑草となっている。耐寒性が強いものが多く、各地で栽培されたものが逸出している。ノアサガオは、畑地、樹園地、牧草地、荒地などに生育し、畑地雑草となっている。オオバアメリカアサガオは海岸や人里近くの道端、林縁などに生える。	イリモテアサガオ、オーシャンブルー'Ocean Blue'、宿根アサガオ、クリスタルブルー、琉球アサガオなどと呼ばれるノアサガオの外来系統の園芸品種が盛んに栽培され、逸出している。1975年に作出されたアサガオとマルバアサガオの交雑品種のヨウジュアサガオ(<i>Ipomoea nil</i> x <i>I. purpurea</i>)など、様々な園芸品種が流通、利用されている。オオバアメリカアサガオは海岸や人里近くの道端、林縁などに生える。	アサガオ属 <i>Pharbitis</i> は、ヒルガオ属(<i>Ipomoea</i>)に含める文献が多いので、ここではアサガオ類とした。オオバアメリカアサガオはノアサガオの外来系統を区別したものの、宮崎はオオバアメリカアサガオ <i>I. leani</i> 、ソライロアサガオ <i>I. tricolor</i> をセイヨウアサガオまたはアメリカアサガオと呼ぶことがあるので混同しないよう注意が必要。栄養繁殖系栽培品種はいずれも自家不和合性で種子はできないが、葉柄近くから発根して根付く。	各県：愛媛・宮崎、河川：アサガオ12.29.26、マルバアサガオ5.13.20、マルバアサガオ13.24.24	世雑、便覧、写真図鑑、JF、園芸事典、帰化植物、IPSW				
56	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種			旧要注意	クマツツラ	シチヘンゲ(ランタナ)	<i>Lantana camara</i>	暖地の海岸														北アメリカ南部～熱帯アメリカ原産。ヨーロッパ南部、アフリカ、アジア、オーストラリア、北アメリカ、南アメリカ、大西洋諸島、インド洋諸島、太平洋諸島に分布。	江戸時代末期(1865年)に園芸植物として渡来、本州(関東以西)、四国、九州、琉球、小笠原で逸出。	3m、半つる性の低木	市街地、道端、牧草地、畑地、荒地、海岸、河原、低木林、自然林、二次林、原野、湿地等に生育する。日当たりを好むが、多少の日陰でも生育する。	コバノランタナ <i>L. montevidensis</i> との交雑等により、草丈や花の色が多様な園芸品種や、棘がない種類や結実しない種類が多く作出されている。暖帯域では路地、温帯では温室の鉢植えや夏の花壇に使われている。果実は黒熟し、少し甘味があるので、海外では食用や香料に利用する。ブラジルでは葉を茶の増量材にした。中国では薬用に用いる。	海外で侵略的な外来種とされ、日本でも野生化している。園芸品種の中には結実しない種類もあるため、温暖な重要地域では、こうした種類を用いる。	土壌中に窒素を蓄積する。自家受粉も受粉も行い、淡紅色系統のものも果実を良くつける。果実は鳥によって運ばれる。繁殖は挿木または実生による。棘がある。	要注意、W100:UCN、村中：C、FAO:8、専門家：海洋鳥28、各県：愛知・愛媛・小笠原・奄美、海外：ISSG	世雑、便覧、熱帯花木、外来生物、有用、JF、IPSW			
57	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種				アワゴケ	イケノミズハコベ	<i>Callitriche stagnalis</i>	湧水河川、水路														ヨーロッパ原産。北アメリカ、オーストラリア、ニュージーランドに分布。	1996年渡来、福島、栃木、群馬、千葉、神奈川、山梨に分布。ミズハコベを駆逐しながら急速に分布を拡大している可能性がある。	0.6m、沈水～浮葉性の多年草	水田、用水路、小規模の河川のほか、水際の湿地では陸生型となって生育する。関東北部のクレスン栽培地が多い。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	湿地性の在来植物に悪影響。在来種のミズハコベと誤認されている場合が多い。	対策：H20<4、各県：栃木・群馬、河川：0.0.1	便覧、帰化植物、写真図鑑、GCW、角野				
58	定着初期/限定分布	重点対策外来種				ナス	ダイオウナスビ	<i>Solanum mauritianum</i>	二次林														熱帯アメリカ原産。ヨーロッパ南部、アフリカ、オーストラリア、大西洋諸島、インド洋諸島、太平洋諸島に分布。	静岡県伊豆町で、分布を拡大中。	10m、小高木	農耕地、沿岸、自然林、植林地、河岸、撓乱地、市街地に生育する。国内では、谷沿いのモウソウチク林に生育する。二次林内であるが、樹林内に広がりが、種子繁殖している。	農業試験場で栽培されていた可能性がある。	全草が有毒だが、特に果実が人間にとって有毒。	海外：ISSG、その他：勝山委員	大西・勝山(2011)Jpn. Bot 86:253-255. 勝山委員、IPSW				
59	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種				フジウツギ	フサフジウツギ(ニシキフジウツギ、チチフジウツギ、ブuddleア)	<i>Buddleja davidii</i>	河原														中国西部原産。合衆国西部に分布。ヨーロッパ、オーストラリア、ニュージーランドで侵略的。	園芸植物として渡来するが、渡来年代不明。北海道、本州、九州で逸出。兵庫県六甲山では沢沿い、堰堤の堆積地、林縁、造成地などの明るく開けた場所に群生している。長野県長谷村の三峰川支流の黒川や戸台川河川敷で、広範囲で繁殖を続け、アシ原やヤナギを駆逐している。	2m、半常緑低木	自然林、河岸、崩壊地、草原、撓乱地、市街地、水路、湿地に生育する。排水の良い向陽地を好み、寒さに強い。路面隙間雑草の性質が強く、舗道の割れ目やコンクリートブロックの間でも生長。山地の崩壊地や道路法面で優占群落を形成し、分布を拡大している。	多数の園芸品種があり、日本でブuddleアとして観賞用に栽培される。切り花にもされる。中国では薬用にされる。	海外で侵略的な外来種とされ、風により種子が散布され、草原を森林化する事等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	繁殖は種子によるが、挿木でもできる。洪水で流され易く、川岸が浸食しやすくなる。ニュージーランドでは林業被害を引き起こしている。	村中：C、各河川：0.6.6、海外：ISSG	便覧、写真図鑑、有用、JF、園芸事典、IPSW、大窪(2005)、伊藤ら(2001)、http://www.kkr.mlit.go.jp/rokkon/rokkon/vegetation/sp/184/index.html			
60	定着初期/限定分布	重点対策外来種				ゴマノハグサ	ハビコリハコベ(グロソスティグマ)	<i>Glossostigma elatinooides</i>	池沼や湿地														オーストラリアの北部、ニュージーランド、アフリカの一部が原産。北アメリカに野生化。	2008年に愛知県豊川用水で確認。	1cm、沈水～湿性の多年草	水生の絶滅危惧種への影響が危惧される。	日本人が世界に広めたアクアリウムプランツである。	シラタマホシクサのような希少種が生育する貴重な生態系である湿地への影響が危惧されていることから、自然環境には持ち込まない。	各県：愛知	写真図鑑、角野				
61	定着初期/限定分布	重点対策外来種				タヌキモ	オオバナイトタヌキモ(ウトリクアラギギッパ)	<i>Utricularia gibba</i>	湿地														北アメリカと中部アメリカ原産。東南アジア、オーストラリア、アフリカに分布。	1930年代にアメリカから観賞用に輸送して侵入、食虫植物ニアによる栽培から逸出、水草類の隣伴種としても侵入、兵庫県で野生化。	0.2m、浮遊性の一年草	愛知県では希少種のみカタタヌキモの生育地への持ち込みが危惧されている。	観賞用に市販、流通している。	海外で侵略的な外来種とされており、希少種のみカタタヌキモとの競合・駆逐等が危惧されていることから、自然環境には持ち込まない。	在来種のイトタヌキモssp. <i>cxoleta</i> の基本種で、種別しない見解もある。食虫植物。	各県：愛知、海外：ISSG	便覧、写真図鑑、JF、角野			

No.	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件			科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目													原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等									
			被害の深刻度	実効性・実行可能性	特定外来/旧要注意						定着可能性						生態系被害			分布拡大・拡散													重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散					
											生物	導入	競合	交雑	変遷	散布	繁殖	気候	永續	重要地域	人体	経済産業	利用											付着	混入						
62	定着初期/限定分布	重点対策外来種				タヌキモ	エフクレタヌキモ	<i>Utricularia inflata</i>	湿地																									北アメリカ東部原産。	1990年に静岡県磐田市で野生化したものは、その後消失した。それ以前から兵庫県、大阪府でも野生化が確認。	長さ1m、浮遊性の多年生	湖沼、ため池、湿地に生育する。	観賞用に利用されている。タヌキモ属は、種名が不明なものも含めて、近縁種が多数栽培されている。	希少種のタヌキモ類や、貴重な生態系である湿地への影響が大きいため、自然環境には持ち込まない。	専門家：湿地8、環境部、角野委員	便覧、写真図鑑、帰化植物、環境部、角野委員、角野
63	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種			旧要注意	キク	オオブタクサ(クワモドキ)	<i>Ambrosia trifida</i>	湿地や河原				x																			北アメリカ原産。ヨーロッパ、アジアに分布。	1952年渡来、北海道～九州、琉球に分布。	1～6m、一年草	畑地、牧草地、空地、堤防、鉄道線路沿い、河原など、やや湿り気のある場所に大きな群生する。	花粉対策用にブタクサ茶が販売されている。種子や苗の流通、市販や栽培に関する情報は得られなかった。	埼玉ではヨシやスゲ類など湿性草原の植物を駆逐、愛知県でも低湿地の植物への影響が懸念、飼料穀物や豆類に混入して侵入。	要注意、W100:日本、村中:A、FAO:8、対策:H20:4、H23:5、専門家:草原48、各県:埼玉・千葉・愛知・京都・兵庫・鳥取・広島・滋賀・愛媛・宮崎、河川:41,79,86	世雄、花粉、便覧、写真図鑑、外来生物		
64	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種			旧要注意	キク	セイタカアワダチソウ(セイタカアキノキリンソウ)	<i>Solidago altissima</i>	湿原・湿地																							北アメリカ原産。ヨーロッパ、アジアに分布。	観賞用植物として明治時代(1897年頃)に渡来、大正末期から野生化、戦後、急速に分布拡大。北海道、本州、四国、九州、琉球、小笠原に分布。	2.5m、多年草	路傍、空地、河川敷、土手、原野、休耕地に大群落を作る。造成によって攪乱された環境が増えると思われる。	現在は一般的に栽培される種類ではないが、流通はある。	湿原、草原、河川敷、奄美地域など、生物多様性の保全上重要な環境や地域、または農業上問題となる場所では、対策の対象となっている。こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	花粉の飛散量は少なく、花粉症の影響は小さいとの説あり、湿原や草原に侵入して駆除の対象となっている。戦前は、近縁種のカナダアキノキリンソウ <i>S. canadensis</i> と混同された。	注意、W100:日本、村中:A、FAO:8、対策:H20:17、H23:11、専門家:草原48、各県:北海道、青森・栃木・埼玉・愛知・京都・鳥取・広島・滋賀・愛媛・宮崎、河川:71,110,111	雑管、花粉、便覧、写真図鑑、帰化植物、JF、園芸辞典、GCW	
65	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種			旧要注意	キク	オオアワダチソウ	<i>Solidago gigantea var. leiophylla</i>	湿原・湿地																							北アメリカ原産。	明治中期(1880年頃)渡来、北海道～九州に分布。	1.2m、多年草	原野、道端や、河川敷に発生。北海道ではセイタカアワダチソウより多い。	園芸植物として渡来、現在の本種の利用に関する情報は得られなかった。	愛知県では今のところ自然生態系への影響は深刻ではない。 <i>Solidago gigantea</i> ssp. <i>serotina</i> 、北海道では、知床国立公園、ウナイ湖、礼文島等で駆除が行われている。	注意、W100:日本、村中:B、対策:H20<4、各県:北海道、愛知、河川:28,42,47	便覧、写真図鑑、帰化植物、Ylist		
66	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種			旧要注意	キク	外来性タンポポク群	<i>Taraxacum officinale</i> 、 <i>T. spp.</i>	自然草原や高山																							ヨーロッパ原産。世界中に分布。	セイヨウタンポポト <i>T. officinale</i> は1940年に北海道に渡来、北海道～九州、琉球、小笠原に分布。	0.4m、多年草	市街地、道端、空地、畑地、牧草地、芝地、樹園地、川岸、山地、高山の駐車場まで生育する。	セイヨウタンポポトがカントウタンポポトが流通している、野菜として利用される。	海外で侵略的な外来種とされ、国内では草原や高山等にも侵入し、在来のタンポポトとの交雑が大きな問題とされている。こうした問題を引き起こす可能性がある場所には、持ち込まない。	注意、W100:日本、村中:A、FAO:6、対策:H20:14、専門家:草原45、高山23、交雑42、各県:北海道、青森・埼玉・愛知・京都・鳥取・広島・滋賀・愛媛、河川:66,105,115、海外:ISSG	雑管、花粉、便覧、写真図鑑、帰化植物、外来生物、JF、園芸辞典		
67	定着初期/限定分布	重点対策外来種				オモダカ	ヒロハオモダカ(ジャイアントサジタリア)	<i>Sagittaria platyphylla</i>	河川や湿地				()																			北アメリカ原産。太平洋諸島やヨーロッパに分布。	1998年大阪府牧方市で初めて採集。	1.5m、抽水性の多年草	河川、水路、湖沼、湿地に生育する。豊かな環境を好む。	海外では観賞用に栽培される。日本でも近縁種のナガバオモダカ <i>S. graminea</i> として、またはジャイアントサジタリアの名前で利用されている可能性がある。	海外で侵略的な外来種とされており、近縁種のナガバオモダカは既に日本で侵略的となっている。種子が水で散布されることから、自然水域には持ち込まない。	日本では当初はナガバオモダカ <i>S. graminea</i> と考えられていた。別学名 <i>S. graminea</i> var. <i>platyphylla</i> 水路の水の流れを悪くし、洪水の危険性を増加させる。	海外:ISSG	志賀隆、大阪市立自然史博物館淀川水系調査グループ研究会誌、Vol.93、pp.13-22(2010)、水草・角野	
68	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種			旧要注意	オモダカ	ナガバオモダカ(ジャイアントサジタリア)	<i>Sagittaria weatherbiana</i>	湿地や池沼																							北アメリカ原産。世界各地で栽培。	1975年頃に渡来、千葉、神奈川県、東京、京都、和歌山、岡山で野生化。	0.6m、抽水性の多年草	湖沼、ため池、水路、河川に生育する。天然記念物の京都の深泥池で繁茂する。	ジャイアント・サジタリアの名でアクアリウムで栽培。	国の天然記念物の深泥池で繁茂するなど、水辺に生育する希少種と競合し、駆逐することから、自然水域には持ち込まない。	2010年に <i>S. graminea</i> の学名から変更された。雌雄異株で日本には雌株のみ。	注意、W100:日本、村中:B、FAO:9、対策:H20<4、各県:水19、各県:愛知、河川:0,1,1	便覧、写真図鑑、帰化植物、角野	
69	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種			旧要注意	トチカガミ	オオカナダモ(アナカリス)	<i>Egeria densa</i>	池沼				x																			南アメリカ原産。ヨーロッパ、アフリカ南部、アジア、オーストラリア、北アメリカ、ハワイ諸島に分布。	大正時代に渡来、本州～九州、琉球で野生化。京都の深泥池で繁茂。	1m、沈水性の多年草	湖沼、河川に生育する。日当たりの良い、浅い、停滞水域を好む。	観賞用に販売、利用される。魚の飼育、植物生理の実験材料に利用される。	海外で侵略的な外来種とされ、日本の河川でも分布を拡大しており、水生生物への影響が懸念される。各地で問題のある外来植物とされ、駆除の対象となっている。茎葉の断片で繁殖することから、自然水域には持ち込まない。	日本にあるのは雄株のみで、種子繁殖はしていない。	注意、W100:日本、村中:A、FAO:9、対策:H20<4、H23:1、専門家:水生41、各県:埼玉・愛知・兵庫・鳥取・広島・滋賀・愛媛、河川:30,60,70、海外:ISSG	世雄、便覧、外来生物、JF、IPSW	
70	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種			旧要注意	トチカガミ	コカナダモ	<i>Eloдея nuttallii</i>	池沼や溪流				x																			アメリカ北東部原産。ヨーロッパ、東アジアに分布。	昭和の初めに入り、本州、四国に分布。尾瀬沼などで繁茂する。	1m、沈水性の多年草	湖沼、河川、池、溝、水路に生育する。日当たりの良い、流水～停滞水域、浅水を好む。	魚の飼育、植物生理の実験材料に利用、観賞用の水草として利用されることがある。	河川で分布を拡大しており、水生生物への影響が懸念される。各地で問題のある外来植物とされ、駆除の対象となっている。茎葉の断片で繁殖することから、自然水域には持ち込まない。	日本にあるのは雄株のみで、種子繁殖はしていない。	注意、W100:日本、村中:A、FAO:9、対策:H23:1、専門家:水生40、各県:埼玉・各県:愛知・鳥取・広島・滋賀・愛媛、河川:25,55,62	世雄、雑管、便覧、JF、園芸事典、外来生物、角野	

No.	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件		特定外来/旧要注意	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目														原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等			
			被害の深刻度	実効性・実行可能性							定着可能性				生態系被害				分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害										逸出・拡散		
											生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永續	人体	経済産業	利用		付着混入												
71	定着初期/限定分布	重点対策外来種				トチカガミ	クロモドキ(ラゴシフォン・マヨール)	<i>Lagarosiphon major</i>	湖沼や河川																		南アフリカ原産。ヨーロッパに分布。ニュージーランドやマスカリン諸島で侵略的。	近年、岡山県で野生化が確認。	1m、沈水性の多年草	湖沼、河川、水路、湿地に生育する。	観賞用に販売、利用される。海外では飼料としての利用も検討されている。	海外で侵略的な外来種とされており、生態系や水利用に悪影響を及ぼしている。植物体の断片により分布が拡大すること等から、自然水域には持ち込まない。	<i>Elodea crista</i> と呼ばれ、アナカリスと同属とされていた。弱アルカリ性と強酸性を好む。(水体内での育成は)むしる難しい点がある。茎から分枝した新葉を摘み取り育てると、適応性があり、うまく育つ。	対策:H23-1、海外:ISSG	水草、片山久、狩山俊植(2012)しぜんし(と)しき90号、IPSW、角野	
72	定着初期/限定分布	重点対策外来種				トチカガミ	アマゾントチカガミ(アマゾンフロッグビット、リムノビウム・ラエビガータム)	<i>Limnobium laevigatum</i>	温暖地の池沼や湿地																	熱帯アメリカ(アルゼンチン)原産。	1973年以前に渡来。大阪、琉球で逸出。	浮遊性の多年草	湖沼、ため池、河川の淀みや水路等に生育する。	観賞用に販売、利用される。	種子や植物体の断片により分布が拡大すること等から、自然水域には持ち込まない。	和歌山新宮市の国指定天然記念物「浮島の森」で駆除が行われた。繁殖は種子と繁殖茎で行う。	対策:H23-2	便覧、水草、角野		
73	分布拡大期-まん延期	重点対策外来種				トチカガミ	外来セキショウモ(オオセキショウモ(ジャイアントバリスネリア)、セイヨウセキショウモに類似した外来種)	<i>Vallisneria gigantea</i> , <i>Vallisneria</i> spp.	池沼や溪流																	オオセキショウモ、栃木県佐野市、栃木・群馬県境の才川、滋賀県草津市、熊本県白水村に定着。セイヨウセキショウモに類似した外来種。千葉県松戸市、愛知県、岐阜県境の木曾三川下流域、岐阜県大垣市、三重県鈴鹿市、大阪府淀川水系、佐賀県佐賀市、鹿児島県東串良町での定着が確認されている。		沈水性の常緑の多年生	湖沼、河川など日当たりの良い水域に生育する。	オオセキショウモ;アクアリウムプラントとして販売されている。セイヨウセキショウモに類似した外来種。アクアリウムプラントとしてセイヨウセキショウモの呼称で販売されているが、セイヨウセキショウモとは異なる分類群である(早稲倉ほか、未発表)。	水辺に生育する希少種と競合し、駆逐するおそれがあること等から、自然水域には、持ち込まない。	定着場所では両種とも一面の優占群落を形成し、侵略的な状況を呈している。長良川では少なくとも5km以上にわたって大繁殖し、冬季には大量の切れ葉が川岸に漂着する。千葉県松戸市坂川と佐賀県佐賀市での聞き取りによれば、「繁殖して侵略的」との認識がなされている。常緑であるため、落葉性の在来種(セキショウモやコウガイモ)よりも繁殖力が高いと思われる。両分類群とも国内での有性繁殖は確認されていない。この項の文章は藤井ほか(未発表)による。在来種はセキショウモ <i>V. nsatans</i> とコウガイモ <i>V. denserrulata</i> 。セイヨウセキショウモ <i>V. spiralis</i> とバリスネリア・ナナ <i>V. nana</i> はISSGに掲載。	海外:ISSG、その他:藤井委員	水草、藤井、牧、未発表、早稲倉ほか、未発表、角野		
74	定着初期/限定分布	重点対策外来種				リュウゼツラン	アソバキミガヨラン	<i>Yucca gloriosa</i>	海岸砂浜																	北アメリカの海岸地域原産。オーストラリアやヨーロッパ等に分布。ニュージーランドでは環境雑草。	園芸植物として1961年以前に渡来。千葉県、静岡県で逸出。愛知県ではハギクソウなどの希少種の群落近く(に侵入している。三重県では天然記念物の和具大島で繁殖し、駆除の対象となっている。	2.5m、低木	海岸の砂浜に侵入し、大きな株となるため、在来の海岸植物の生育を妨げている。寒さには強いので、中部以南であれば戸外で越冬する。日本には花粉を運ぶ昆虫がいないので、自然環境下では結実しないとされている。株や地下茎が海流によって流され、分布が広がると考えられている。	日本では本属の中で、庭園樹や岩石園に最も多く植栽されている。	海浜植物群落に侵入し、在来種の脅威となるとともに、景観上も問題となっている。ハギクソウのような希少種が生育する貴重な生態系である海岸砂地への影響が危惧されている。そのため、こうした環境に侵入するおそれのある場所には持ち込まないか、種子や植物体の逸出を防止する等の配慮が必要である。	愛知の条例では、生態系に著しく悪影響を及ぼすおそれのある移入種として指定されている。かつてはユリ科に含められていた。葉先に鋭い刺がある。地際の小株を分けて増やす。	対策:H20<4、5、各県:千葉、愛知	便覧、観葉、有用、園芸事典、GCW、半田(日本緑化工学会31(4)450)		
75	分布拡大期-まん延期	重点対策外来種			旧要注意	ミスアオイ	ホテイアオイ(ウォーターヒヤシンス)	<i>Eichhornia crassipes</i>	池沼や湿地																	熱帯アメリカ原産。ヨーロッパ南部、アフリカ、熱帯アジア、オーストラリア、北アメリカ、大西洋諸島、インド洋諸島、太平洋諸島に分布。	明治年間(一説では江戸時代)に渡来。本州、四国、九州、琉球に分布。	0.8m、浮遊性の多年草	喜栄養化の進んだ湖沼、ため池、河川、水路などの水面に生育する。	観賞用として渡来。ビオトープや水質浄化にも利用される。	海外で侵略的な外来種とされ、日本の河川でも分布を拡大しており、水生生物への影響が懸念される。各地で問題のある外来植物とされ、駆除の対象となっている。茎葉の断片が繁殖することから、基本的には自然水域へ持ち込まないだけでなく、利用する場合には逸出しないよう適切に管理する。	走出枝を伸ばして娘株を増やす。種子ができない場所も多い。	要注意、W100:日本、日本村中:A、FAO:12、対策:H20-6、H23-4、専門家:水生38、各県:千葉、愛知、兵庫、広島、滋賀、愛媛、佐賀、宮崎、奄美、河川:22,34,51、海外:ISSG	雑管、便覧、帰化植物、外来生物、園芸事典、IPSW、角野		
76	分布拡大期-まん延期	重点対策外来種			旧要注意	アヤメ	キシヨウブ	<i>Iris pseudacorus</i>	池沼や湿地																	ヨーロッパからアジア原産。オーストララシア、北アメリカ、南アメリカ、大西洋諸島に分布。	1897(明治30)年頃に渡来。北海道、本州、四国、九州で逸出。	1.2m、多年草	湖沼、ため池、河川、水路、水田湿った畑地、林縁など周辺で繁殖し、湿原や草地にも侵入する。水湿地を好むが、やや乾燥にも強く、池畔に適する。	園芸植物として渡来。民家や公園に植栽される。花が綺麗なため水辺に植えられることが多い。様々な園芸品種がある。水湿地を好むが、やや乾燥にも強く、池畔に適するとされる。	花が美しいので水辺に植えられ、海外で侵略的な外来種とされ、日本でも河川等で分布を拡大している。近縁の絶滅危惧種のカキツバタ等の遺伝的攪乱や、これらを含む水辺や草原の在来植物との競合、駆逐が危惧されている。こうした影響を及ぼすおそれのある場所には、持ち込まない。	地下に横には太い根茎があり、分枝して繁殖する。	要注意、W100:日本、日本村中:B、FAO:10、対策:H23-2、専門家:水生16、草原38、各県:北海道、青森、埼玉、愛知、広島、佐賀、河川:54,88,98、海外:ISSG	世雑、帰化植物、外来生物、園芸植物、JF、IPSW		
77	分布拡大期-まん延期	重点対策外来種				イグサ	コゴメ	<i>Juncus</i> sp.	イグサなどが生育する河川敷や湿地																	ヨーロッパ産の <i>J. inflexus</i> に似るが別種である。	1990年渡来。本州の一部に分布。各地の河川敷に急速に分布を拡大。	1.5m、多年草	沿海地、河川敷、湿地に生育する。	本種の利用状況に関しては不明であるが、イグサ属の植物は種小名が不明なものを含めて、複数種が流通、利用されている。近縁種のイグサは、畳表の材料にするために栽培されるほか、薬用等にも利用する。	湿地に生育する在来種のイグサが消失するなど、水辺に生育する在来種と競合し、駆逐するおそれがあること等から、こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	近年、各地の水湿地で在来種イグサが消失し、本種に置き換わっている。原因は不明だが、競合(繁殖干渉か)などの問題が懸念される。在来種の <i>J. effusus</i> var. <i>decipiens</i> は茎の髄が連続しているが、本種は隔壁構造をしているので区別できる。	河川:0.0.6、その他:藤井委員	便覧、帰化植物、藤井委員、JF		
78	分布拡大期-まん延期	重点対策外来種			旧要注意	ツククサ	ハハカカラクサ(トキウツクサ、トラデスカンティア・フルミネシス)	<i>Tradescantia fluminensis</i>	二次林林床																	南アメリカ原産。アジア、太平洋諸島に分布。ヨーロッパ南部、オーストララシア、北アメリカ南部で侵略的。	昭和初年に渡来。本州、四国、九州で逸出。	長さ1m、多年草	石垣、崖地、路傍、林床などや湿った日陰に生育する。	園芸品種を含めて、観葉植物として利用。	海外で侵略的な外来種とされ、日本でも分布を拡大している。耐陰性があるため、雑木林や植相林の林床や水辺への侵入が、確認または危惧されている。こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。		要注意、専門家:雑木23、植相21、各県:千葉、愛知、広島、徳島、宮崎、河川:14,37,51、海外:ISSG	便覧、帰化植物、外来生物、有用、JF、園芸事典、IPSW		
79	分布拡大期-まん延期	重点対策外来種				イネ	オオハマギヤ(アメリカハモニク、アメリカカイガソウ)	<i>Ammophila breviligulata</i>	海岸砂浜																	北アメリカ原産。ヨーロッパに分布。	1955年頃から日本各地の飛砂防止に植栽。1976年に静岡で野生化が確認。青森、秋田、山形、宮城、新潟、石川、千葉、鳥取に分布。	1m、多年草	沿岸地域に生育する。	北米では砂止めに利用されている。北日本や日本海側を中心に、飛砂防止に植栽される。	近縁種が海外で侵略的となっており、本種も根や株で分布を拡大し、生態系を改変するおそれがある。日本の海岸の生態系に影響を及ぼすおそれのある場所には、持ち込まない。	近縁種のビーグラス <i>A. arenaria</i> は侵略的な植物にあげられている。海岸植物への影響を及ぼすおそれのある場所には、地下茎により栄養繁殖。	各県:千葉、河川:0.2.2	便覧、帰化植物、有用、ISSG、GCW、USDA		

No.	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件		特定外来/旧要注意	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目												原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
			被害の深刻度	実効性・実行可能性							定着可能性	生態系被害			分布拡大・拡散			重要地域	特に問題となる被害	逸出・拡散											
												生物	導入	競合	交雑	変換	散布			繁殖	気候	永續									
80	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種			旧要注意	イネ	シナダレスズメガヤ(ウイピングラブグラス、セイタカカゼクサ)	<i>Eragrostis curvula</i>	河原、海岸砂浜													アフリカ南部原産、ヨーロッパ、アジア、オーストラリア、北アメリカ、南アメリカ、大西洋諸島に分布。 1959年に四国農業試験場に導入後、各地に導入。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。	1959年に四国農業試験場に導入後、各地に導入。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。	1.2m、多年草	牧草地、路傍、荒地、河原等に生育する。日当たりの良い、砂質土壌を好む。	栽培用に品種改良され、世界的にはやせ地の飼料生産に利用されるが草質が良いため、日本では牧草よりも砂防用に導入され、高速度路や宅地造成地の土どめに利用された。近年は生態系への影響を配慮され、あまり利用されなくなった。	河原や砂丘に侵入して大株となり、在来植物と競合し、駆逐する。砂の堆積を促進することで、生態系の物理的な基礎を変化させる。こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	愛知県ではスキのような大型の植物まで駆逐。河原に生育するカワラノギク(絶滅危惧類(VU))やカラニガナ(準絶滅危惧(NT))への影響が危惧される。	W100:日本 村中:A, FAO:8, 対策:H20<4, 専門家:河原46、各県:埼玉・愛知・兵庫・広島・愛媛・佐賀・奄美、河川:61,104,107, 三省:環・農・林・国都・国道	世維、便覧、外来生物、IPSW	
81	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種				イネ	チクゴズズメノヒエ	<i>Paspalum distichum var. indutum</i>	湿地や池沼												北アメリカ南部原産。 1970年代に福岡県筑後地方で確認。本州、四国、九州、琉球の一部に分布。	北アメリカ南部原産。 1970年代に福岡県筑後地方で確認。本州、四国、九州、琉球の一部に分布。	0.5m、多年草	湿地、水路、水田、湖沼、河川、ため池に生育する。キシウズズメノヒエと分布が重なるが、より水深の深いところに生育する。	本種の利用に関する情報は得られなかった。		キシウズズメノヒエの変種。防除困難な水田雑草。	FAO:C, 対策:H20<4, H23.2, 専門家:水生21、河川:7,9,23	雑草、便覧、写真図鑑、帰化植物、世維、角野		
82	定着初期/限定分布	重点対策外来種				カヤツリグサ	アサハタヤガミグサ	<i>Carex longii</i>	湿地												北アメリカ原産。 1968年に神奈川県横須賀市の米軍基地内、2003年に藤沢市で採集。静岡市の麻機遊水地で定着し、急増中。	北アメリカ原産。 1968年に神奈川県横須賀市の米軍基地内、2003年に藤沢市で採集。静岡市の麻機遊水地で定着し、急増中。	0.6m、多年草	砂質の湿地、湿草地、休耕地やその周辺の溝等、排水の悪い土地に生育する。	本種の利用に関する情報は得られなかった。		その他:勝山委員	勝山(2013)			
83	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種				カヤツリグサ	シュロガヤツリ(カラカサガヤツリ)	<i>Cyperus alternifolius</i>	暖地の池沼や湿地												マダガスカル原産、世界の熱帯に広く分布。 1937年以前に渡来。本州(関東以西)、四国、九州、琉球、小笠原に分布。	マダガスカル原産、世界の熱帯に広く分布。 1937年以前に渡来。本州(関東以西)、四国、九州、琉球、小笠原に分布。	1-2m、多年草	池沼、河川、湿地に生育する。古くから栽培されていたものが暖かい地方で逸出していたが、寒さにはかなり強く、最近では関東南部でも越冬し、野生化するようになった。水温は20-25 にはれば旺盛に生育する。越冬温度は5 くらい。	パピルスに類似した美しい形をしているため、古くから温室で観賞用に栽培される。切り花にも利用される。マダガスカルではむしろやこもを編むのに利用される。小鉢栽培に適した園芸品種シュロガヤツリ(グランクリス)C. alternifolius 'Grancilic'も、流通、栽培される。	小笠原では河床で株となり群落を形成。在来の湿地植物(シダなど)を駆逐し、流水路を狭め、水生生物(魚類、甲殻類、水棲昆虫、クモ、サナギ類)にも影響を与えている。自然水域には、持ち込まない。	Ylistでは本学名は広義とし、C. alternifolius ssp. flabelliformisを標準名としている。別学名C. alternifolius var. obtusangulus C. involucratius、C. alternifolius var. flabelliformis。増殖は株分けが普通であるが、実生もでき、挿木も可能である。	8, 各県:小笠原 9,17,22 専門家:水生8, 河川:9,17,22	便覧、帰化植物、写真図鑑、有用、Ylist、園芸事典、角野		
84	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種			旧要注意	カヤツリグサ	メリケンガヤツリ	<i>Cyperus eragrostis</i>	湿地、河川敷												熱帯アメリカ原産、南北アメリカ、ヨーロッパ、アジア、オーストラリアなど温帯-熱帯に分布。 1959年に渡来。本州(関東以西)、四国、九州、琉球、小笠原に分布。	熱帯アメリカ原産、南北アメリカ、ヨーロッパ、アジア、オーストラリアなど温帯-熱帯に分布。 1959年に渡来。本州(関東以西)、四国、九州、琉球、小笠原に分布。	1m、多年草	河川、畑、溝、湿地などに生育する。日当たりが良く、土壌の湿った所を好む。湛水条件下での生育は良くない。土壌の種類は選ばない。水辺で急速に分布拡大している。水辺の裸地を好むが、強固な根茎を持っていて持続性が高く、植生遷移を急速に進めるおそれがある。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	保護対象の湿地への侵入の可能性もある。水湿地の微小植物にとっては大きな脅威となりうる。愛知県では自然度の高い場所に侵入することは少なく、在来植物への影響は限定的との記載。	要注意、各県:愛知、河川:17,45,52	世維、勝山委員、藤井委員、便覧、写真図鑑			
85	小笠原・南西諸島	重点対策外来種			旧要注意	サンショウモ	オオサンショウモ	<i>Salvinia molesta</i>	暖地の池沼												北アメリカ原産、オーストラリア、東南アジア、中央アメリカ等に広く分布。 1950年ごろ渡来。大阪で野生化。沖縄では1970年中期に渡来。	北アメリカ原産、オーストラリア、東南アジア、中央アメリカ等に広く分布。 1950年ごろ渡来。大阪で野生化。沖縄では1970年中期に渡来。	0.2m、浮遊植物	2006年、恩納村の農業用水ため池を覆い尽くしている状態が確認された。温暖地の池沼や水路に生育する。水温が高いと短期化で異常繁殖を繰り返す。	沖縄で、一部の愛好家により栽培。現在も観賞用に販売、利用されている。	海外で侵略的な外来種とされ、国内でも繁殖が確認されている。近縁種のサンショウモS. natans(絶滅危惧類(VU))との競合、駆逐や、遺伝的攪乱が危惧される。水により胞子が散布されること等から、自然水域には持ち込まない。	別学名S. auriculata。熱帯では水田雑草となる。養魚場の雑草にもなる。近縁種のサンショウモS. natansは絶滅危惧類(VU)。	W100:UCN, FAO:10, 各県:愛媛、海外:ISSG	便覧、写真図鑑、外来生物、世水、JF、世維、角野		
86	小笠原・南西諸島	重点対策外来種				モクマオウ	トクサバモクマオウ(トキワギョリュウ)	<i>Casuarina equisetifolia</i>													オーストラリア原産。アフリカ南部、北アメリカ南東部、カリブ海で侵略的。 琉球には明治初期、小笠原には1879(明治12)年に導入され、野生化。	オーストラリア原産。アフリカ南部、北アメリカ南東部、カリブ海で侵略的。 琉球には明治初期、小笠原には1879(明治12)年に導入され、野生化。	20m、常緑高木	日当たりの良い砂地を好む。種子の生産量、発芽率が高い上に、放線菌と共生して痩せ地でも良く育つ、耐塩性や耐乾性がある。		海外で侵略的とされ、小笠原諸島や奄美地域で問題とされている。生物多様性の保全上重要なこうした地域での利用は、可能な限り控える等の配慮が必要である。	対策:H20<4, 専門家:海洋島29、各県:小笠原・奄美、海外:ISSG	便覧、写真図鑑、IPSW、有用、林野庁			
87	小笠原・南西諸島	重点対策外来種				クワ	バンノキ	<i>Artocarpus altilis</i>	シイ・カシ林												ニューギニアからマラネシア原産。世界各地で栽培。台湾では侵略的。 石垣島の一部の自然林内に多数の実生が確認されている。おそら栽培品から鳥散布で分布域を拡大したものと思われる。	ニューギニアからマラネシア原産。世界各地で栽培。台湾では侵略的。 石垣島の一部の自然林内に多数の実生が確認されている。おそら栽培品から鳥散布で分布域を拡大したものと思われる。	30m以上、常緑高木	世界各地の熱帯地域で栽培される。		台湾では侵略的な外来種とされ、日本でも石垣島では野生化が確認され、西表島への影響も懸念されている。生物多様性の保全上重要な地域に影響を及ぼすおそれのある場所には、持ち込まない。	別学名A. incisus, A. communis。石垣島や西表島のシイ・カシ林には定着する可能性が極めて高く、定着してしまえば植生に多大な悪影響を与え得ると思われるが、鳥散布は観察されていない。海外ではコモリが種子を散布。	その他:横田委員	Ylist, 有用, JF, 園芸事典, 日本造園学会, GCW		
88	小笠原・南西諸島	重点対策外来種				イラクサ	コメミズ(コメバコケミス、ビレア・ミクロフィラ)	<i>Pilea microphylla</i>	陰湿な岩場												南アメリカ原産。ヨーロッパ、アジア、北アメリカ、ハワイ等の太平洋諸島、台湾等に分布。 戦後、沖縄と鹿児島に渡来。1991年に東京、1998年に神奈川県で確認。本州と九州の一部、琉球に分布。	南アメリカ原産。ヨーロッパ、アジア、北アメリカ、ハワイ等の太平洋諸島、台湾等に分布。 戦後、沖縄と鹿児島に渡来。1991年に東京、1998年に神奈川県で確認。本州と九州の一部、琉球に分布。	0.2m、多汁性の一年草	低地の敷石、石垣の間、湿った岩やコンクリートの隙間に生育する。沖縄では通年みられる。	ビレア・ミクロフィラの名前で園芸用に流通、販売されている。	海外で環境雑草などとされ、日本でも南西諸島の陰湿環境に生育する微小植物への影響が懸念される。こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	増殖は挿し木、種子によるが、挿し木で容易に発根するので、通常は挿し木が用いられる。匍匐性の種では、株分けで容易に殖やせる。	その他:藤井委員	便覧、帰化植物、写真図鑑、藤井委員、JF、園芸事典、GCW		
89	小笠原・南西諸島	重点対策外来種				スベリヒコ	ケツメクサ(ヒメマツバボタン、ケツメグサ)	<i>Portulaca pilosa</i>	海岸の隆起サンゴ礁や岩礁												熱帯アメリカ原産、東南アジアなどに分布。 1939年までに渡来。1954年に熊本で採集。本州(関東以西)、四国、九州、琉球、小笠原諸島に分布。	熱帯アメリカ原産、東南アジアなどに分布。 1939年までに渡来。1954年に熊本で採集。本州(関東以西)、四国、九州、琉球、小笠原諸島に分布。	0.3m、多肉質の一年草	乾燥した日当たりのよい道端、敷石の間、畑、砂地に生育する。沖縄県では集落や耕作地に広くみられるだけでなく、海岸の隆起サンゴ礁や岩礁にも生える。	観賞用に栽培されるマツバボタンに比べて花が小さい。一般的には販売や栽培は行われていない。	海岸の岩礁は、固有種オキナワマツバボタンや今年7月に横田委員が記載したアマミツバボタンの生育環境と大きく異なるため、これらの種にとっては競合種となる。繁殖力が強く、水挿しで発根する。別学名Portulaca australis。	その他:横田委員	便覧、写真図鑑、横田委員、Ylist			
90	小笠原・南西諸島	重点対策外来種				ベンケイソウ	セイロンベンケイ(トウロウソウ、セイロンベンケイソウ、ハカラム)	<i>Bryophyllum pinnatum</i>	海岸岩場や石灰岩地												マダガスカル原産。アジア、オーストラリア、アフリカ、南アメリカ、大西洋諸島、インド洋諸島、太平洋諸島に分布。 渡来年代は不明だが、沖縄にはかなり古い時代に渡来。高崎、鹿児島、琉球、小笠原で逸出。	マダガスカル原産。アジア、オーストラリア、アフリカ、南アメリカ、大西洋諸島、インド洋諸島、太平洋諸島に分布。 渡来年代は不明だが、沖縄にはかなり古い時代に渡来。高崎、鹿児島、琉球、小笠原で逸出。	1.2m、多肉性の多年草	海浜地や山地の裸地や路傍に生育する。沖縄では人里近隣の岩場-石灰岩地域の山頂まで侵入し繁殖している。小笠原では岩場で群落を形成し、荒原植物を駆逐している。	観賞用に栽培される。薬用にも利用される。	海外で侵略的な外来種とされ、日本でも南西諸島や小笠原諸島で繁殖して在来種と競合し、駆逐している。1枚の葉からでも繁殖できる植物であるため、温暖な地域では特に、自然環境に持ち込まない。	ISSGではKalanchoe pinnata。その他の別学名B. calycinum。葉を地上に置くだけで、葉腋の末端から不定芽を出して繁殖する。	各県:小笠原、海外:ISSG	便覧、帰化植物、写真図鑑、園芸、有用、JF、園芸事典		
91	小笠原・南西諸島	重点対策外来種				マメ	ソウジュ(タイワンアカシア)	<i>Acacia confusa</i>													フィリピン原産。アジアや太平洋地域で栽培され逸出。ハワイや北アメリカ諸島等で侵略的。 渡来年代不明。広島、琉球、小笠原諸島に分布。	フィリピン原産。アジアや太平洋地域で栽培され逸出。ハワイや北アメリカ諸島等で侵略的。 渡来年代不明。広島、琉球、小笠原諸島に分布。	15m、常緑高木	温暖で湿潤な気候を好み、荒地や撓乱地に生育する。亜熱帯、熱帯では年中開花する。		海外で侵略的とされ、南西諸島や小笠原諸島で野生化している。生物多様性の保全上重要なこうした地域に侵入するおそれのある場所での利用は、可能な限り避けることが望ましい。		便覧、有用、樹木、熱帯花木、JF、園芸事典、琉球弧			

No.	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件		特定外 来/旧 要注意	科名	和名(別名、流通 名)	学名	特に問題となる地 域や環境	選定理由	評価項目														原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等							
			被害の深刻 度	実効性・実 行可能性							生物	導入	生態系被害			分布拡大・拡散				重要 地域	特に問題 となる被害		逸出・拡散																	
													競合	交雑	変容	散布	繁殖	気候	永續		人体	経済 産業		利用										付着 混入						
92	小笠原・南 西諸島	重点対 策外来種			旧要注 意	マメ	ギンネム(ギンゴ カン、タマザキセン ナ)	<i>Leucaena leucocephala</i>																								中央・南アメリカ原 産。ヨーロッパ南 部、アフリカ、アジ ア、オーストラ リア、北アメリカ、太 平洋諸島、インド洋 諸島、大東洋諸島に 分布。	小笠原には江戸時代末期 に樹種の記録があり、明治時代 初期以降に本格的に造林され た。沖縄には明治時代末 期以降にスリランカから導入 された。	10m、常 緑小高 木	亜熱帯から熱帯の日当たりの 良い道端や原野、林縁に生育 する。やせ地でも育つが、土の 浅いところでは樹高1~2mで 止まる。小笠原諸島や沖縄で は、植栽地から周辺の空地や 道路沿いの攪乱地等に侵入 し、放棄された畑や宅地等に 急速に広がった。	緑化、緑肥、飼料、砂防、薪炭材、 バルブ用材として利用。分布域と形 態によりハウイ型またはベルー型と 呼ばれる低木型と、サルバドル型と 呼ばれる高木型に分けられる。生 長の早い中高木になる林業品種が 育成されている。 沖縄県の奨励品種に指定されてい る。	海外で侵略的とされ、小笠原諸島 や奄美地域で在来種との競合 駆逐が危惧されている。生物多様 性の保全上重要な地域に侵入す るおそれのある場所では、 新たな道路整備、農耕地放棄な どで一部復活している。	小笠原諸島でギンネムが侵入し た林は二次遷移が進まず、種の 多様性が低くなった。父島、母島 では返還時の勢力は少ないが、 新たな道路整備、農耕地放棄な どで一部復活している。	要注意、W 100、UCN、C 中、B、FAO、 11、対策、 H20<4、専門 家、海洋島34、 各県、小笠原・奄 美、三省、国 都、国連、海 外、ISSG	便覧、有用、樹 木、農林水産 省、外来生物 園芸事典、JF、 IPSW
93	小笠原・南 西諸島	重点対 策外来種				ツリフネソ ウ	アフリカハウセンカ	<i>Impatiens wallieriana</i>	林床																						東アフリカ、モザン ビーク原産。熱帯 地域の島嶼に分 布。	沖縄へは復帰後導入され、 1980年頃より野生化が散見 されるようになった。現在では 広い範囲で雑草化しつつあ る。	0.7m、多 年草	自然林、植林地、河原、荒地に 生育する。直射日光を避ける のが生育が良いが、最近の園 芸品種は強光も耐える。20 ~25もあれば挿し芽で良根 付くので、繁殖はたやすい。	1964年にオランダで一代交配種 つくられ世界各地に広まった。日本 での本格的な栽培は1970年代に 入ってから、花色も豊富に改良さ れ、様々な園芸品種が鉢植えや花 壇に植えられる。	海外で侵略的な外来種とされ、日本 でも奄美地域で繁茂している場 所がある。耐陰性があるため温暖 な地域では林内に入り込む可能 性もあることから、生物多様性の 保全上重要な地域に侵入するお それのある場所には、持ち込ま ない。	有用では <i>I. sultani</i> 、種子が熟す と、果皮が裂開して飛び散る。	各県、奄美、 海外：ISSG	有用、園芸事 典、写真図鑑、 JF、Ylist	
94	小笠原・南 西諸島	重点対 策外来種			旧要注 意	フトモモ	テリハバンジロウ (キバンジロウ、キ バンザクロ、シマフ トモモ)	<i>Psidium cattleianum</i>	森林																						ブラジル原産。世界 各地で栽培され、 オーストラリア、合 衆国南東部、インド 洋諸島、ハワイ等 では侵略的。	風味が優れた品種であるキミ ノバンジロウ <i>lucidum</i> が、 1909(明治42)年に輸入さ れ、小笠原で栽培されて野生化 した。キミノバンジロウの沖 縄への渡来年代は不明だ が、1940年代後半には栽培 があったと推測される。昭和 初期から栽培されている。	2.5m、常 緑小低 木	農耕地、海岸、自然林、植林地、 草原、川岸、低木林、市街 地、湿地に生育する。耐陰性 がある。日本では父島の畑地 や、屋敷跡等に野生化してい る。	果実を生または加工して食用にす るために栽培される。	海外で侵略的な外来種とされ、日本 でも小笠原諸島では野生化し ている。鳥により種子が散布され ること等から、小笠原諸島等の生 物多様性の保全上重要な地域へ 侵入するおそれのある場所には、 持ち込まない。	別学名 <i>P. littorale</i> 、種子は果実を 食べる動物や鳥により運ばれる。 海外：ISSG	要注意、UC N、専門家、海 洋島22、各県、 海外：ISSG	便覧、写真図 鑑、Ylist、有用、 外来生物、 IPSW、JF	
95	小笠原・南 西諸島	重点対 策外来種				ヒルガオ	モミジバヒルガオ (タイワンアサガ オ、モミジヒルガ オ)	<i>Ipomoea cairica</i>																							熱帯アフリカ原産。 オーストラリア、 北アメリカ、南ア メリカ等に分布。	1933年以前に渡来。栃木、熊 本、宮崎、鹿児島、琉球、小 笠原諸島(賢島)に分布。奄 美大島、徳之島、沖縄島では 既にかなり広がっている。沖 縄島北部の固有林にも定着 し始めた。	数m、つ る性の 多年草	海岸砂丘、断崖、林縁、川岸に 生育する。つるが長く伸びて、 性質強健のため、広い地域に 分布する。	園芸品種があり、花卉として栽培さ れる。熱帯では飢饉時に食用にす る。	海外で侵略的な外来種とされ、つ る性の強健な植物であることか ら、温暖な地域では在来植物との 競合、駆逐が危惧される。生物多 様性の保全上重要な地域に侵入 するおそれのある場所には、持 ち込まない。	奄美地域では、ソコベニヒルガオ <i>I. gracilis</i> など、鹿児島県RDBの 近縁種が複数生育する。アメリ カハマグルマと同様に非常に侵略 的。塊根を持つ。周年開花性であ る。	各県、奄美、 海外：ISSG、そ の他：藤井委員、 横田委員	便覧、写真図 鑑、横田委員、 Ylist、草本、 園芸事典、 IPSW、JF	
96	小笠原・南 西諸島	重点対 策外来種				クマツツ	ヒメイワダレソウ (ヒメイワダレ)	<i>Phyla canescens</i>	河原や草原																						南アメリカ(ペ ルー)原産。	昭和初年(1926年)に渡来。 宮崎、琉球に分布。	0.3m、小 低木	牧草地、草地、水路、氾濫原、 灌漑地域の下水に生育する。 耐陰性は弱い、粗い土壌で乾 燥気味に栽培する。	園芸植物として渡来。本種ととも に、在来種のイワダレソウ <i>Phyla nodiflora</i> (<i>L. nodiflora</i>)またはその交 雑品種(<i>L. nodiflora</i> × <i>L. canescens</i>)が、法面、畦畔、公園 等の緑化に利用される。	日本では影響は報告されてい ないが、海外で侵略的となってい ることから、生物多様性の保全上 重要な地域特に海浜や河原等に 侵入するおそれのある場所には、 持ち込まない。	別学名 <i>Lippia canescens</i> 、 <i>Lippia repens</i> 、1979年頃導入されたヒメ イワダレ(<i>P. incisa</i>) (池原、1989) や、琉球列島で栽培されるヒメイ ワダレソウ <i>Phyla nodiflora</i> cv. <i>Rosa</i> (初島、天野、1994)も本種と思わ れる。オーストラリア等の海外で、 環境雑草等とされている。植物体 の断片で繁殖するので、増殖は 株分け、挿し芽で容易である。種 子でも繁殖する。	各県、奄美、 その他：藤井委員	便覧、園芸事 典、池原 (1989)、(初島、 天野、1994)、 GCW	
97	小笠原・南 西諸島	重点対 策外来種				リュウゼツ ラン	アオリリュウゼツ ラン(リュウゼツラン)	<i>Agave americana</i>	海岸岩場																						合衆国西部・メキ シコ原産。ヨーロ ッパ、アフリカ南 部、オーストラ リア、太平洋諸島に 分布。ヨーロッパの南 部と地中海諸島、 アフリカ南部、大西 洋諸島で侵略的。	1879(明治12)年に輸入。静 岡、香川、小笠原、沖縄に分 布。	2.5m、多 肉性の 常緑の 多年草	小笠原では岩場で群落を形成 し、荒原植生を駆逐している。 耐寒性が強く、関東以西では 露地植えが可能である。	初めは繊維原料植物として導入 されたが、後に導入されたサイザ ルアサ <i>A. sisalana</i> に比べて繊維質が 弱いため栽培が中止された。近年 は、様々な斑入り園芸品種が 観賞用に栽培される。メキシコ では発酵酒の原料となる。	海外で侵略的な外来種とされ、日本 でも小笠原諸島では在来種を 駆逐している。生物多様性の保全 上重要な地域では、自然 環境中へ拡散しないように利用す る。	単にリュウゼツランというときは、 葉に斑が入った栽培品種フクリ ンリュウゼツラン' <i>Marginata</i> をさ す。種子は風で散布される。植物 体の断片で繁殖する。	各県、小笠原、 海外：ISSG	便覧、観葉、園 芸事典、JF、IP SW	
98	小笠原・南 西諸島	重点対 策外来種				イネ	モンツキガヤ(アイ ダガヤ、ナンゴク ヒメアブラソウ)	<i>Bothriochloa bladhii</i>	海岸草原																						オーストラリア産 の植物で原記載さ れたが、熱帯アジア からオーストラ リアに分布する。	2005年に沖縄県竹富町、 2000年に東京都小笠原村で 確認。小笠原の父島と兄島で 分布を拡大。	0.6~ 1m、多 年草	路傍、海浜等、直射日光が豊 富に当たる立地で生育する。 水はけのよい土壌を好み、酸 性、乾燥、貧栄養な土壌に生 育する。	海外では、被覆植物として利用され る。暖地では牧草に利用されるこ ともあるが品質は高くない。北ア メリカでは交雑品種もある。日本 での本種の利用に関する情報は得られ なかった。	海外で侵略的な植物とされ、日本 でも小笠原で分布を拡大してい ることから、生物多様性の保全上 重要な地域には、持ち込まない。 、	単にリュウゼツランというときは、 葉に斑が入った栽培品種フクリ ンリュウゼツラン' <i>Marginata</i> をさ す。種子は風で散布される。植物 体の断片で繁殖する。	その他：林野庁	島田、米倉 (2012)、Ylist、 生物多様性セン ター http://www.biod ic.go.jp/center/ hyouton/HP_to p.html、小笠原 植物誌 http://www.oga sawara- syokubutusi.co m/index.htm、 USDA、PIER	
99	小笠原・南 西諸島	重点対 策外来種				イネ	ヨシススキ(サッカ ラム、パープルビ ブルグリーター)	<i>Saccharum arundinaceum</i>																							インド・東南アジ ア原産。熱帯・温 帯アジアに分布。	1935年以前に渡来。琉球で 逸出。	2~5m、 多年草	日当たりの良い所を好み、土 壌の種類を問わず、畑地、樹 園地、路傍、荒地に生育する。	飼料植物や防風垣として渡来した。 サッカラム、パープルビ ブルグリーター' <i>Purple People Greeter</i> という品種が流通、販売されてい る。	大型で強固な株を形成する植物 であることから、在来種の生物多 様性の保全上重要な地域に侵入 するおそれのある場所には、持 ち込まない。外国産のススキに混 入したものをもち込まない注意も必 要である。	別学名 <i>Erianthus arundinaceus</i> 、 サトウキビ <i>S. officinarum</i> の近縁 種。海外から輸入されるススキに 混入している可能性がある。 バイオ燃料製造等を目的に、既 に、九州本土以北では種を結実 しない品種である栽培系エリ アナスが開発されているとともに、 現在、完全に種子をつけない不 稔性の栽培系エリアナスの品 種開発が進められている。	その他：藤井委 員	Ylist、便覧、沖 縄野外、世雄 USDA、写真 図鑑	
その他の総合対策外来種																																								
100	分布拡大 期～まん延 期	その 他の 総合 対策 外来種				ミカツキゼ ニゴケ	ミカツキゼニゴケ	<i>Lunularia cruciata</i>																							地中海沿岸原産。 北アメリカ、オース トラリア、ヨーロ ッパ、東アジアに分 布。	1929(昭和4)年に宮城県仙 台市で見出された。本州、九 州、初めは大都市だけに見ら れていたが、街道沿いに広が り、全国の農村部に広がって いる。	苔類	市街地の道路脇や人家周辺 の遼々とした土や石垣上に群生 する。山地ではみられない。	本種の利用に関する情報は得られ なかった。	雌雄異株だが、日本では雌株は 未発見で、もっぱら無性芽によ って繁殖しているらしい。海外では 農業雑草となっている。	その他：日本 苔類学会	便覧、日本苔 類学会、写真図 鑑、コケ309頁、 有用、Hattori (1944) Bot. Mag. Tokyo 58: 1-7、GCW		

No.	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件		特定外来/旧要注意	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目											原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等			
			被害の深刻度	実効性・実行可能性							定着可能性	生物	導入	生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域										特に問題となる被害	逸出・拡散	
														観合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永續													
101	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				ウキゴケ	ウロコハタケゴケ	<i>Riccia lamellosa</i>																北アメリカ原産。	2000年に埼玉県で確認。近年では関東地方の平地ではふつうに見られるようになった。	苔類	平地の庭や畑に生育する。	本種の利用に関する情報は得られなかったが、近縁の在来種のウキゴケ(カズノゴケ) <i>R. fluitans</i> や、その変化した種であろうと考えられるリアールヘナナ <i>R. rhenana</i> は、観賞用の水草として利用される。			日本産のウキゴケ属 <i>Riccia</i> は8種とされる。同属の中で最大の植物体をしており、際立つ特徴を持つことから野外においても識別は容易である。繁殖力が強く、同属の在来種と競合している。生育地では地面を覆いつくすことも多く、今後更に拡大すると農業や園芸に被害を及ぼすことが危惧される。学名は広義の <i>lamellosa</i> であり、狭義の種としては別である。	その他: 日本蕨苔類学会	コケ316頁、USDA、古木達郎(2000.)蕨苔類研究7:314-316、園芸事典、水草、日本蕨苔類学会
102	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				ウキゴケ	サビヒロハタケゴケ	<i>Riccia nigrella</i>																北アメリカ原産。	2005年に初めて報告されたが、1990年代にも採集されている。	苔類	人為的な影響が強い立地に生育し、関東地方の公園や社寺の境内で急速に広がっている。	本種の利用に関する情報は得られなかったが、近縁の在来種のウキゴケ(カズノゴケ) <i>R. fluitans</i> や、その変化した種であろうと考えられるリアールヘナナ <i>R. rhenana</i> は、観賞用の水草として利用される。			同属の在来種と競合しており、今後も分布が拡大することが予測される。	その他: 日本蕨苔類学会	USDA、園芸事典、水草、日本蕨苔類学会、河清英子・古木達郎(2005.)蕨苔類研究9:6-11.
103	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				イワヒバ	コンテリクラマゴケ(レインボーファン)	<i>Selaginella uncinata</i>	温暖地の林床															中国原産、合衆国に分布。フロリダ州で雑草化。	園芸植物としてヨーロッパ経由で1966年頃に渡来。関東～九州、四国、琉球で逸出。	0.6m、常緑の多年草	温室等で栽培されてきたが、近年温暖地以西で、逸出、野生化している。人家近くの垣根の下等に生育する。明るい日陰を好む。耐寒性はそれほどない。	ヨーロッパ等で観賞用に栽培される。薬草としても利用される。	耐陰性があり、極相林への侵入が危惧されている。特に温暖な地域で生物多様性の保全上重要な環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	専門家: 極相6、各県、佐賀、河川:2.6,7.	便覧、写真図鑑、シダ、有用、園芸事典、JF、GCW、USDA		
104	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				タデ	シャクチリソバ(シュコンソバ、ヒマラヤソバ)	<i>Fagopyrum dibotrys</i>	河川敷			x												ヒマラヤ、中国西部原産。イギリスやニュージーランドに分布。	昭和初期に中国から導入。1960年代から野生化。北海道、本州、四国、九州に分布。	1.2m、多年草	林縁や川沿いなどの半陰地に生育する。関西の河川敷で急速に繁殖している。	種子は食用にされ、若芽や若葉は野菜として食べられる。日本では薬用植物として中国から導入され、近年も薬用として栽培されるが、作物としては栽培されていない。	種子と根茎で繁殖し、半陰地でも生育でき、河川を中心に分布を拡大していること等から、河川を通じて、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	村中: C、河川:17,35,43	便覧、帰化植物、藤井委員、写真図鑑、Ylist、有用、GCW		
105	定着初期/限定分布	その他の総合対策外来種				タデ	カライタドリ	<i>Fallopia forbesii</i>	イタドリやオオイタドリの生育地周辺															朝鮮、中国原産。	八甲田山の後藤伍長銅像のある銅像茶屋からみちのく深沢温泉までの車道を拡輪した法面緑化工事に種子吹き付けで群生地が発生した。	1.5m、多年草	別の車道沿いにも発生しているため、分布域が広がって来ていると推測出来る。	日本では、法面緑化工事に利用。	海外で侵略的な外来種とされている日本のイタドリと同様に、本種も日本で侵略的な可能性が高いと考えられる。生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	各県: 青森	Ylist		
106	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				タデ	ヒメツルソバ(カンイタドリ)	<i>Persicaria capitata</i>	海岸岩場															中国南部～ヒマラヤ原産。熱帯～温帯で栽培。	明治中期に渡来し、1960年代以降、野生化。本州(関東以西)、四国、九州、琉球に分布。	長さ0.5m、多年草	市街地や民家周辺の庭先や石垣、コンクリートの隙間に生育する。耐寒性はやや弱い。高温や乾燥に強い。雑草化し、伊豆半島など石垣や溶岩の間にはびこっている。自然の岩場でどこまで進出できるかは不明である。	観賞用に渡来した。現在も流通し、鉢物として販売されたり、ロックガーデン等で栽培される。	河川で分布を拡大しており、自然の岩場に侵入して雑草化する可能性があること等から、こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	各県: 奄美、河川:0.5,13	便覧、写真図鑑、帰化植物、勝山委員、JF、園芸事典、Ylist		
107	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				タデ	ヒメスイバ	<i>Rumex acetosella</i>	海岸砂浜、山地草原															ヨーロッパ原産。ヨーロッパ、アジア、アメリカ、南北アメリカ、オセアニアに分布。温帯～寒帯を中心に分布し、熱帯～亜熱帯の高地にも広がる。	明治初期に渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。	0.5m、多年草	芝地、牧草地、樹園地、路傍、荒地などに生育する。ときに亜高山帯まで侵入する。日当たりの良い湿潤～半湿潤を好む。pHの低い所に適応する。日陰地では生育が悪い。河川で増加しており、砂浜への侵入が危惧されている。	海外では、鉱業地域の緑化や食用にされる。国内での本種の利用に関する情報は得られなかった。	Ylistでは、標準名 <i>Rumex acetosella</i> ssp. <i>pyrenaeicus</i> 、別学名 <i>Acetosella angiocarpa</i> 、 <i>Rumex angiocarpus</i> 、種子と根茎により繁殖。種子の伝播は風、雨、動物等による。種子に休眠性がある。アレロパシー作用がある。シュウ酸を含む。	村中: C、対策: H20<4、専門家: 砂浜24、河川:43,82,86、海外: ISSG	世雑、便覧、写真図鑑、雑草、花粉、Ylist		
108	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				タデ	ナガバギシギン(チジミスイバ)	<i>Rumex crispus</i>	ノダイオウなどの在来のギシギン類の生育地周辺															ユーラシア原産。北アメリカ、南アメリカ、太平洋諸島など、温帯～熱帯に分布。オーストラリアで侵略的。	1891年頃に渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。	1.5m、多年草	牧草地、樹園地、畑地、路傍、荒地、草原、低木林、市街地などに生育する。低地から高地まで生える。日当たりのよい湿潤なところを好む。	外国では、薬用や花序がドライフラワーに利用される。国内での本種の利用に関する情報は得られなかった。	村中: C、専門家: 交雑11*、河川:39,77,90、海外: ISSG	世雑、便覧、写真図鑑、牧草、Ylist、園芸事典、IPSW			
109	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種			旧要注意	タデ	エゾノギシギン(ヒロバギシギン)	<i>Rumex obtusifolius</i> var. <i>agrestis</i>	亜高山帯の自然草原や湿地、ノダイオウなどの在来のギシギン類の生育地周辺															ヨーロッパ原産。北アメリカ、アジア、オセアニア、南北アメリカに分布。	明治中期頃に渡来。北海道、本州、四国、九州。	1.3m、多年草	牧草地、樹園地、芝地、畑地、路傍、川岸、荒地、林地に生育する。耐寒性が強いので、亜高山帯の自然公園などにも侵入する。	海外では薬用に利用される。国内での本種の利用に関する情報は得られなかった。	注意、村中: C、対策: H20<4、専門家: 草原43、交雑11*、各県: 青森、愛知、京都、河川:61,105,108、海外: ISSG、その他: 藤井委員	便覧、写真図鑑、雑草、外来生物、世雑			
110	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				ナデシコ	ムシトリナデシコ(ハエトリナデシコ、コマチソウ)	<i>Silene armeria</i>	河原															ヨーロッパ原産。各国で観賞用に栽培され、野生化。	江戸時代末期に観賞用植物として渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。	0.7m、一年草	河川敷、市街地、荒地、道端に生育する。病氣、害虫も丈夫である。日当たりと排水の良い肥沃な土壌を好む。	観賞用植物として花壇などで栽培される。玉咲きの園芸種などもある。	河川で分布を拡大しており、河原に生育する植物や景観への影響が懸念される。河川を通じて分布を拡大するおそれのある場所には、持ち込まない。	専門家: 河原17、河川:50,97,104	便覧、写真図鑑、有用、園芸事典、JF、帰化植物、藤井委員		
111	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				ナデシコ	マンテマ(マンテマ)	<i>Silene gallica</i> var. <i>quiquevulnera</i>	海岸砂地、河原、湖岸の砂地															ヨーロッパ原産。アジア、西アジア、オセアニア、南北アメリカ、太平洋諸島等、温帯～熱帯に分布。オーストラリア等で雑草化。	江戸時代に園芸植物として渡来。本州、四国、九州、屋久島に分布。	0.5m、一年草	海浜の砂地や森林、埋立地、路傍の草地、河川敷、畑地、荒地、市街地に生育する。海岸や湖岸の砂丘植生において侵略的である。	流通、市販される。	河川で分布を拡大しており、種子が風や動物により散布され、海浜の砂地に侵入すること等から、海岸や湖岸の砂丘植生への影響が危惧される。こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	河川:30,49,62	便覧、帰化植物、写真図鑑、藤井委員、JF、GCW、世雑		
112	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				アカザ	ホコガタアカザ	<i>Atriplex prostrata</i>	塩湿地															ヨーロッパ原産。北アメリカ、オーストラリアやニュージーランドで雑草化。	1940年渡来。北海道～九州の一部に分布。	0.8m、一年草	海岸の裸地や海岸埋立地に群生する。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	専門家: 砂浜での回答は外来ハマアカザ類、別学名 <i>A. hastata</i> 、河川:8,14,24	専門家: 砂浜5、塩湿7、河川:8,14,24	便覧、写真図鑑、Ylist、帰化植物、世雑、GCW		

No.	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件		特定外来/旧要注意	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目													原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等	
			被害の深刻度	実効性・実行可能性							定着可能性	生態系被害	分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害	逸出・拡散														
													生物	導入	競合	交雑				変異	散布	繁殖	気候										永續
113	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				メギ	ヒイラギナンテン	<i>Berberis japonica</i>	都市近郊の森林林床																中国～ヒマラヤ原産。イギリスやオーストラリアで雑草化している。	1681～1688年に庭園木として渡来。本州の一部で逸出。	3m、常緑低木	半日陰地で良く育ち、土質を選ばない。都市近郊の二次林に逸出している。	本属では日本で最も広く植栽されている。庭園や公園に普通に植栽される。	河川で分布がやや拡大傾向にあり、半日陰を好むことから、雑木林への影響が危惧されている。このような環境へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	別学名はMahonia japonica。近縁種のセイヨウヒイラギナンテンM. aquifoliumはヨーロッパで侵略的な植物とされている。鳥が種子を散布することから、いくつかの県で影響が危惧されている。実生、挿木などで繁殖。	専門家: 雑木 11、河川: 3,9,15	便覧、有用、木本、樹木、園芸事典、JF、GCW、IPSW、日本造園学会、服部(1996)
114	定着初期/限定分布	その他の総合対策外来種				ケシ	ハカマオニゲシ(ポタンゲシ)	<i>Papaver bracteatum</i>																	イラン原産。	千葉県では平成以前に侵入し、生育量はごく少ない。千葉県以外でも、誤って栽培されている可能性はある。	1.5m、多年草	近縁種のアオニゲシP. orientaleは一般的に栽培されているので、誤って混在している可能性がある。	本種の栽培は麻薬取締法で規制されているが、不正栽培または自生しているケシを発見した場合は、各地方厚生(支)局、麻薬取締部(支所)、都道府県薬務主管課、保健所、警察署へ連絡する。	麻薬取締法の対象種。園芸事典では、オニゲシP. orientaleの別名とされ、中間形があるため区別が困難とされている。	各県: 千葉	便覧、園芸事典、(西田委員)	
115	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				ケシ	アツミゲシ	<i>Papaver somniferum</i> ssp. <i>setigerum</i>																	北アフリカ原産。世界の各地に分布。	1964年頃に渡来。関東以南、九州、四国で逸出。	0.8m、越年草	線路や道路に沿った空地に散発的に生育する。	花が綺麗なため、麻薬取締法の規制対象であることを知らずに栽培されることがある。	本種の栽培は麻薬取締法で規制されている。不正栽培または自生しているケシを発見した場合は、各地方厚生(支)局、麻薬取締部(支所)、都道府県薬務主管課、保健所、警察署へ連絡する。	麻薬取締法の対象種。ケシP. somniferumと共通点が多く、同一種の亜種として扱われることもある。別学名Papaver setigerum。	対策: H20<4、各県: 千葉、広島、愛媛、河川: 0.1,3	世雑(母種)、便覧、樹木、園芸事典、西田委員、Ylist
116	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種			旧要注意	アブラナ	ハルザキヤマガラシ(セイヨウヤマガラシ)	<i>Barbarea vulgaris</i>	亜高山帯、河川敷																ヨーロッパ、アジア、オーストラリア、北アメリカなどに広く分布し、原産地は不明。	明治時代末年に渡来。1960年頃に野生化。北海道、本州、四国、九州に分布。	0.9m、越年草～短命な多年草	川岸、用水路端、畦畔、牧草地、畑地、水田、荒地、道端のほか、山地の林道沿いにもみられる。冷涼で日当たりがよく、湿った肥沃地を好み、標高1800m以上の亜高山帯に生育している事例もある。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	愛知県では、現在のところ自然生態系に大きな影響を与えるほどの量は生育していない。標高が高い地域にも侵入しているため、自然性の高い環境への影響が懸念される。	W100: 日本、村中: B. 6、対策: H20<4、H23.2、専門家: 河原30、各県: 青森、河川: 18,39,44	世雑、外来生物、便覧、帰化植物、写真図鑑	
117	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				アブラナ	セイヨウカラシナ(カラシナ)	<i>Brassica juncea</i>	河原																西アジア原産。アジア、ヨーロッパ、北アフリカ、オーストラリア、南北アメリカに分布。	奈良時代から平安時代初期頃に中国から渡来したらしいが、戦後分布を広げているのはヨーロッパ、北アメリカから入ったものと考えられる。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。	1.5m、一年草	河川敷、堤防、畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地などに生育する。日当たりのよい温暖地を好み、肥沃地ほど生育が良く、関西地方の河川敷などに大群落がある。	奈良時代から平安時代初期から栽培される。野菜として栽培されるカラシナの原種で、様々な品種が育成されている。種子からはカラシ油がとれ、良質の醤油植物である。中国では薬用にされる。	河川で分布を拡大しており、大繁殖することから、河原や草原に生育する植物との競合、駆逐が懸念される。河川を通じて分布を拡大するおそれのある場所には、持ち込まない。	群馬県では太い根が堤防に深く食い込み、堤防の強度低下を引き起こす。アブラナB. rapaとクロカラシB. nigraを合わせた複2倍体。多量に摂取すると中毒の原因になる物質を含む。アレロパシー作用がある。広島では特産野菜との交雑を防ぐために駆除される。	村中: C、対策: H23.1、専門家: 河原37、草原28、各県: 埼玉、愛媛、群馬、河川: 44,76,80	世雑、便覧、牧草、写真図鑑、有用、園芸事典、JF
118	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				アブラナ	オニハマダイコン	<i>Cakile edentula</i>	海岸砂浜																北アメリカ東岸中北部原産。オーストラリア等で雑草化。	1982年渡来。北海道、本州の一部に分布。	0.5m、一年～二年草	海岸砂丘に生える。	海外では、多肉質の莖葉を食用にする。	青森県では、在来種と競合している様子は見られない。千葉県では生育量は少ないとされている。絶滅危惧種のイソシメレのような砂丘地帯に生える。京都、利尻、島などでも駆除。裸地砂浜の地表を利用する海浜性昆虫等への植被の影響が懸念。	専門家: 砂浜 7、各県: 青森、河川: 7,8,15	便覧、帰化植物、浅井(1993)、GCW、藤井委員	
119	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				バラ	ピラカンサ類	<i>Pyracantha</i> spp.	河原の固有種の生育地																ヨーロッパ東南部からアジアにかけて6種が自生。トキワサンザシP. coccineaは南東ヨーロッパ～小アジアに分布。タチバナモドキP. angustifoliaは中国原産。ニュージーランドに分布。アフリカ南部、オーストラリア、ハワイで侵略的。ヒマラヤトキワサンザシP. crenulataはヒマラヤ原産。ニュージーランドに分布。アフリカ南部やオーストラリアで侵略的。	トキワサンザシとタチバナモドキは明治時代に渡来し、本州と九州の一部で逸出。ヒマラヤトキワサンザシは昭和初期に渡来し、本州の一部で逸出。	2～6m、常緑低木	草原、荒地、岩の多い尾根、川岸に生育する。耐寒性、耐暑性があり、日当たりさえあれば土壌を選ばない。一度定着すれば、耐陰性もある。萌芽により急速に広がる。日本の気候条件下で良く育つ。	花だけでなく果実も美しいので、生垣、庭園樹、鉢物用樹として栽培される。種間雑種から育成された多くの園芸品種がある。雑種の稔性は高い。	河川で増加傾向にあり、丈夫な性質で、鳥により種子が散布されることから、河原の植物への影響が危惧されている。こうした環境へ侵入するおそれのある場所では、利用を控える等の配慮が必要である。	河川ではトキワサンザシとタチバナモドキ、その他ヒマラヤトキワサンザシも逸出。実生や挿し木で増やす。刺がある。	専門家: 河原 7、河川: 7,14,37,72,74,44	便覧、樹木、帰化植物、有用、園芸事典、IPSW
120	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				マメ	エニシダ(エニシダ)	<i>Cytisus scoparius</i>	河川敷、海岸																ヨーロッパ原産。アフリカ南部、アジア、オーストラリア、北アメリカ、ハワイなどに分布。オーストラリア、ニュージーランド、合衆国西部で侵略的。	園芸植物として江戸時代に渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球で逸出。	3m、常緑低木	道路の法面や宅地造成による新開地などに生育する。海外では、草地、荒地、氾濫原、海岸の低木林、硬葉樹林に生育する。	様々な園芸品種が、観賞用に栽培されている。緑化植物として早期緑化(崩壊地やのり面等の緑化)の観点から非常に優れていることから、利用されている。	海外で侵略的な外来種とされ、種子が車、水、鳥によって散布され、急速に分布を拡大することから、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	影響は、イタチハギとほぼ同等と思われる。棘はない。海外では道路に沿って広がることから、種子が車両に付着して散布されると考えられる。種子は水や鳥により散布される。種子の寿命は長い。	海外: ISSG	便覧、帰化植物、環境省、勝山委員、JF、有用、IPSW
121	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				マメ	アレチヌスビトハギ	<i>Desmodium paniculatum</i>	河原、里草地																北アメリカ東南部原産。カナダで逸出。	1940年に大阪で確認。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。	1m、多年草	荒地、道端、市街地、空地、攪乱地に広がる。関東以西に多い。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	一度侵入されると、頑丈な根茎のため、駆除が困難。別学名Hedysarum paniculatum。付着しやすい果実で、種子の分散能力が高い。河川でも増加傾向にある。	対策: H23.1、各県: 京都、広島、河川: 21,49,57	便覧、写真図鑑、勝山委員、帰化植物、GCW	
122	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				カタバミ	オオキバナカタバミ(キイロハナカタバミ)	<i>Oxalis pes-caprae</i>	落葉樹の林床																南アフリカ原産。ニュージーランド、アメリカ合衆国、アジアに分布。ヨーロッパ南部、オーストラリア、合衆国西部で侵略的。	1890年代に入り、1961年に野生化が確認。関東～琉球で逸出。	0.2m、多年草	森林、草原、川岸、海岸、畑地、庭、牧草地、樹園地、荒地などに生育する。日当たりが良く、肥沃地を好み、鱗茎で繁殖。地中海沿岸の海岸地域で非常に多くみられる。冬に繁殖し、耐寒性がある。	観賞用に栽培される。	海外で侵略的な外来種とされ、本州太平洋側の雪の降らない地域で明るい落葉広葉樹林に侵入するおそれがあるため、こうしたおそれのある場所には、持ち込まない。	じわじわと広がっている。一度入り込むと駆除が難しい。家畜に有害。	海外: ISSG	世雑、便覧、写真図鑑、勝山委員、IPSW、園芸事典

No.	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件		特定外来/旧要注意	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目										原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等				
			被害の深刻度	実効性・実行可能性							定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散			重要地域	特に問題となる被害										逸出・拡散			
											生物	導入	競合	交雑	変異	散布	繁殖	気候													永續		
123	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				トウダイグサ	ナンキンハゼ	<i>Triadica sebifera</i>	照葉樹林																中国大陸の中南部の暖帯から亜熱帯原産。台湾にも広く野生化。アフリカ、アジア、ヨーロッパ、北アメリカに分布。	園芸植物として江戸時代に渡来、関東～琉球で逸出。	15m. 落葉(熱帯では常緑)高木	自然林、植林地、草原、攪乱地、湿地に生育する。土壌を選ばないが、排水の良い肥沃土壌で生長がきわめて早く、陽光を好む。関東以南の暖地に適する。様々な環境への耐性がある。	庭木、公園樹、街路樹として植栽される。盆栽にも利用される。種子の油脂は有毒だが、ろうそく、せっけん、薬用等に利用される。	海外で侵略的な外来種とされており、鳥や水により種子が散布され、土壌環境にも影響する。日本でも河川で分布を拡大しており、草原や雑木林等への影響が懸念されている。そのため、こうした環境に侵入するおそれのある場所や自然水域の周辺では、利用を控える等の配慮が必要である。	繁殖は実生で行う。別学名 <i>Sapium sebiferum</i> 。急速に分解する葉はタンニンを生産し、土壌中の窒素やリンを増加する。奈良公園春日山原始林で問題。シカが食べないため、今後増加する可能性が高い。	村中・C. 専門家: 草原23・専木10. 各県: 兵庫、河川: 23.50.64. 海外: ISSG	便覧、樹木、有用、Ylist、園芸事典、JF、農林・中坪川(2009)、MAESAKO5(2007)、服部
124	定着初期/限定分布	その他の総合対策外来種				ツリフネソウ	アカボシツリフネ(アカボシツリフネソウ、ケブツリフネソウ)	<i>Impatiens capensis</i>	湿地																北アメリカ原産。ヨーロッパでは、古くから逸出、野生化。	1992年渡来。千葉県野田市利根通河に大群落がある。	0.4～2m. 一年草	湿生植物への影響が懸念される。フランス、イギリスなど、ヨーロッパでは古くから逸出、野生化している。	本種の利用に関する情報は得られなかったが、花が美しいので栽培される可能性はある。	在来種のツリフネ <i>I. noli-tangere</i> によく似ているため、誤同定されている可能性がある。わが国には、ニリンツリフネ <i>I. biflora</i> の帰化の記録があるが、この学名は本種のシノニムとされており、検討を要する。	各県: 千葉	便覧、写真図鑑、帰化植物、GCW	
125	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				ウコギ	カミヤツデ(ツウソウ(通草)、ツウダツボク(通脱木))	<i>Tetrapanax papyrifer</i>	河川敷や林縁																中国南部、台湾原産。オーストラリア、ニュージーランド、合衆国で雑草化。	1935年以前に渡来。関東～九州、四国、琉球で逸出。	5m. 常緑低木	湿潤な土壌を好む。河川敷などで繁茂。関東地方では寒さで備んで落葉低木となる。	日本では暖地に觀賞用に栽培され、幹の髄は通草紙として造花の材料にされた。薬用にも利用される。	鳥により種子が散布され、河川敷等で繁茂。小型の在来種を被陰したり、景観的にも問題になっている。こうした問題を引き起こす恐れのある場所には、持ち込まない。	神奈川で増殖し駆除。地下に伸ばした根から新苗を作る。増殖は実生、挿木、株分けによる。生長は早い。別学名 <i>T. papyrifera</i> 、 <i>T. papyrifera</i> 、 <i>T. papyrifera</i> 。	各県: 愛媛 2.2.4. 河川: 2.2.4	便覧、写真図鑑、有用、JF、園芸事典、Ylist、GCW
126	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種			旧要注意	セリ	ドクニンジン	<i>Conium maculatum</i>																	ヨーロッパ原産。南北アメリカ、オーストラリア、アジアに分布。	1959年渡来。北海道、本州の一部に分布。	2m. 一年草	畑地、牧草地、路傍、荒地などに生育する。	海外では、古くから薬用植物として利用されたが、現在は使用されない。古代ギリシアの処刑の毒として利用された。本種が市販されているとの情報は得られなかった。	薬用に栽培する場合には、逸出したものが人や動物に誤って摂取されることのないよう、適切に管理する必要がある。	有毒植物で、家畜にも影響。野外に生育しているものを、山菜のジャク <i>Anthriscus sylvestris</i> 等と過って食べないよう注意する。	要注意、FAO: 7. 各県: 千葉、河川: 0.0.2	世雑、便覧、野草、有用、(黒川委員)
127	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種			旧要注意	アカネ	オオフトバムグラ	<i>Diodia teres</i>	海岸砂浜、河川敷																北アメリカ原産。アジア、オーストラリア、南アメリカなどに分布。	1927年に渡来。本州、四国、九州に分布。	0.5m. 一年草	砂地がかかった道端、河川敷、海岸に多く、芝生、時に林縁に自然植生の一部のように生育する。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	鳥取砂丘で防除の対象となった。三重県明和町の大淀海岸でも駆除が行われた。	要注意、村中・B. 対策: H20.4. 専門家: 河原28. 各県: 愛知、河川: 20.37.42	便覧、写真図鑑、外来生物	
128	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種			旧要注意	ヒルガオ	アメリカネシカズラ	<i>Cuscuta pentagona</i>	海浜植物の生育地																北アメリカ原産。アジア、ヨーロッパに分布。	1970年頃に渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。	つる性の一年草、寄生植物	畑地、樹園地、牧草地、道端、荒地、河原、海浜、栽培植物上に生育する。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	愛知県では希少種のハマネシカズラが生育するハマゴウ群落に侵入している。海浜の植物に影響がある場所では駆除が必要である。	要注意、7 各県: H20.4 対策: 愛知・京都・広島・愛媛 河川: 48.89.90	世雑、便覧、外来生物	
129	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				ヒルガオ	ホシアサガオ	<i>Ipomoea triloba</i>																	熱帯アメリカ原産。南北アメリカ、アフリカ、アジア、オーストラリアなど、温帯～熱帯に分布し、特に熱帯～亜熱帯に多い。	1945年以降に渡来。本州、四国、九州、琉球、小笠原に分布。	つる性の一年草	畑地、樹園地、路傍、荒地などに生育する。日陰に対する耐性もある。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	分布の中心は九州や東海で、大豆で甚大な被害が生じている。農耕地から非農耕地へへの拡散も著しい。作物への混入による品質低下も著しい。	村中・C. 河川: 8.33.46	世雑、雑管、便覧、黒川委員、写真図鑑	
130	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				クマツツサ	アレチハナガサ類(アレチハナガサ、ダキバアレチハナガサ、ヤナギハナガサ(サンジャクパーベナ)、ヒメクマツツサ(ハマクマツツサ))	<i>Verbena</i> spp. (<i>V. brasiliensis</i> , <i>V. incompta</i> , <i>V. bonariensis</i> , <i>V. littoralis</i>)	河川敷の湿地や草原																南北アメリカ原産。熱帯～温帯に分布。	1930年頃渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。	2m. 多年草	市街地の道端、荒地、河川敷、草原、湿地、裸地、礫地に生育する。	ヤナギハナガサ(サンジャクパーベナ)は觀賞用に栽培される。	近年増えているのはダキバアレチハナガサだが、アレチハナガサ等として記載されている文献もあから、こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	村中・C. 各県: 広島・愛知・宮崎・奄美、河川: アレチハナガサ 26.67.74. ヤナギハナガサ 23.52.75 海外: ISSG	便覧、写真図鑑、帰化植物、世雑	
131	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種			旧要注意	ナス	チョウセンアサガオ属	<i>Datura</i> spp. (<i>Brugmansia</i> spp.)																	熱帯アメリカ産のものが多い。	日本には8種が分布。北海道～九州、琉球に分布。	一年草～低木	畑地、樹園地、牧草地、芝地、道端、荒地、海岸等に生育する。	おもに薬用植物として利用される一年草をチョウセンアサガオ節、園芸植物として利用される多年草をキダチチョウセンアサガオ節またはキダチチョウセンアサガオ属 <i>Brugmansia</i> に分ける見解もある。	薬用に栽培する場合には、逸出したものが人や動物に誤って摂取されることのないよう、適切に管理する必要がある。	猛毒の神経毒を全草に含有するため、誤食による人体への影響が問題。少量の混入でも飼料全体を破壊せざるを得なくなる。ゴボウ(根)、オクラ(つぼみ)、モロヘイヤやアサガオ(葉)、ゴマ(種子)と誤って食べないよう注意する。愛知県では、ヨウシュチョウセンアサガオは被害が問題になるほど生育しておらず、増加もしていないとの記述。	要注意、FAO: 11. 各県: 愛知、河川: 3.0.1.2. ヨウシュチョウセンアサガオ: 3.7.10. キダチアサガオ: 0.1.2	世雑、雑管、便覧、写真図鑑、帰化植物、黒川委員、厚生労働省、園芸事典、JF、Ylist
132	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				ゴマノハグサ	ウキアゼナ(バコパ、ロトンディフォリア、カラカワクサ)	<i>Bacopa rotundifolia</i>	池沼や湿地																北アメリカ原産。東アジアに分布。	1954年に岡山県で確認後、北海道、本州、四国、九州の一部に分布。西南暖地のイグサ田の雑草となっている。	長さ0.6m. 浮遊性の一年草	池沼、河川、水路、水田などの水湿地に生育する。特に水田(休耕田)で旺盛に繁茂する。日当たりの良いところを好み、土壌の種類を選ばない。種子繁殖する。	觀賞用に販売、利用される。屋外の水鉢栽培に適する。水槽では強光下で水中栽培できる。	種子で繁殖し、絶滅危惧種の水車を駆逐し、水田雑草となることから、こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	群馬県ではトリゲモ類やミズマツバなどの絶滅危惧種との競合、駆逐の危険性が高い。アメリカの水田雑草である。	各県: 群馬、河川: 1.2.5	世雑、雑管、便覧、写真図鑑、水草、角野
133	定着初期/限定分布	その他の総合対策外来種				キク	ワタゲハナグルマ、ワタゲハナグルマ(アークトセカ・カレンジュラ)	<i>Arctotheca calendula</i> , <i>A. prostrata</i>	海岸砂浜																南アメリカ原産。地中海沿岸に分布。オーストラリアでは環境雑草。	ワタゲハナグルマは1992年渡来し、千葉、神奈川、新潟、宮崎に分布。ワタゲハナグルマは1966年に三重県で確認。関東～九州、四国に分布。	0.3m. 一年～多年草	砂丘や砂浜、草原、森林に侵入する。日本では市街地の路傍、荒地、埋立地でみられる。畦畔にも植えられるが、畑地に侵入すれば雑草化する。	アークトセカ・カレンジュラの名でワタゲハナグルマとして利用されているのは、ワタゲハナグルマである。	海外で侵略的な外来種とされており、海岸の砂浜や草原で蔓延し、急速に広がることから、こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	各県: 広島はワタゲハナグルマ、その他: 勝山委員はワタゲハナグルマ、ワタゲハナグルマは、ワタゲハナグルマの近縁品種なので種子散布は行わない。	各県: 広島、その他: 勝山委員	便覧、写真図鑑、帰化植物、勝山委員、JF、GCW、IPSW、IPCW、http://www.cal-ipc.org/ip/management/plant_profiles/Arctotheca_calendula.ph
134	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種			旧要注意	キク	ネバリノギク	<i>Aster novae-angliae</i>	半自然草地																北アメリカ原産。ヨーロッパ、ニュージーランドに分布。	大正時代に園芸植物として渡来。北海道～九州で逸出。	1.5m. 多年草	山村などで野生化している。	近年はあまり栽培されない。アスター属は、種間交雑などが行われ、多くの園芸品種が作出された。	北海道などで急速に分布を拡大し、草原への侵入が危惧されることから、こうしたおそれのある場所には、持ち込まない。	北海道のランクA3本道に定着しており、生態系等への影響が報告または懸念されている。北海道で道路法面を中心に急激に広がった。	要注意、W100: 日本、村中・C. 河川: 2.2.4	便覧、写真図鑑、園芸事典、勝山委員、GCW

No.	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件		特定外来/旧要注意	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目											原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等		
			被害の深刻度	実効性・実行可能性							定着可能性		生態系被害		分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害											逸出・拡散	
											生物	導入	競合	交雑	変異	散布	繁殖	気候		永續	人体										経済産業	利用
135	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				キク	ユウゼンギク	<i>Aster novi-belgii</i>	半自然草地															北アメリカ原産。ヨーロッパ、アジア、ニュージーランドに分布。	大正時代に園芸植物として渡来。北海道～九州で逸出。	0.7m、多年草	山野に生える。	アスター属は、種間交雑などが行われ、多くの園芸品種が作出された。	北海道などで急速に分布を拡大し、草原への侵入が危惧されることから、こうしたおそれのある場所には、持ち込まない。	北海道のランクA3本道に定着しており、生態系等への影響が報告または懸念されている。北海道で道路路面を中心に急激に広がった。	河川：2.6.11、その他：藤井委員	便覧、写真図鑑、園芸事典、勝山委員
136	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種			旧要注意	キク	アメリカセンダングサ	<i>Bidens frondosa</i>	湿地															北アメリカ原産。南ヨーロッパ、アジア、オセアニアに分布。	1920年頃に渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。	1.5m、一年草	湿った草地、水田、水路、休耕地、牧草地、樹園地、路傍、荒地などに生育する。一般に水辺や湿地に好む。	本種の利用に関する情報は得られなかった。		種子の寿命は16年に及ぶこともある。水田雑草として、イネや水辺の希少種と競合する。	要注意、村中：C、対策：H20<4、H23.1、各県：北海道・青森・埼玉・愛知・京都・広島・愛媛・富山、河川：77.117.121	世雑、便覧、帰化植物、写真図鑑、外来生物
137	定着初期/限定分布	その他の総合対策外来種				キク	栽培キク属	<i>Chrysanthemum (Dendranthema) cv.</i>	絶滅危惧種を含むキク属の生育地周辺															キク属(狭義)は約50種類あり、東アジアに多い。代表的な観賞用のイエギク(菊、キク) <i>C. x morifolium</i> は中国原産とされ、チョウセンノギク <i>C. zawadskii</i> ssp. <i>latilobum</i> とシマカンギク <i>C. indicum</i> の交雑により育成されたとされる。	キク属(狭義)は全国に分布するが、外来種としてはキクニギク(アワコガネギク)とリュウノウギクに国内帰化の記録がある。	多年草	自生種は種類によって、海岸、島嶼、山地に生育する。イエギクは、比較的耐寒性があり、関東以西では野外で越冬する。	イエギクは、日本の伝統的園芸植物のひとつとして多くの園芸品種が作出され、切り花、鉢物用として広く生産、栽培される。切り花全体の生産額では1/3以上を占め、花卉類の中では営利生産される量が最も多い。イエギクの一部は料理ギクとして、食用や料理の飾りに用いられる。観賞用の草花類として、キクニギク(アワコガネギク)、イワイチン、シオギク、サツマノギク、ノジギク、アズリノジギク、ナカガワノギク、コハマギク、シマカンギク(アブラギク、ハマカンギク)、リュウノウギク、イソギク、イワギク(ホソバチョウセンノギク)、モリイワギク、チョウセンノギクなどが流通、栽培される。	絶滅危惧種を含むキク属の遺伝的攪乱を引き起こすことから、絶滅危惧種で交雑が確認されているオオイワイチンやナカガワノギクをはじめ、野生キク属の生育場所の周辺では利用を控えるか、花粉をつけない品種を利用する等、花粉の散布を防止する。	キク属は交雑し易いことが古くから知られ、19世紀にはイエギク×イソギク(ハナイソギク(ウゴシオギク))が確認されている。その他に、イエギク×シマカンギク=サンインギク、サンインギク×ノジギク=ニジガハマギク、ナカガワノギク×シマカンギク=ワジキギク、シオギク×ノジギク、サツマノギク×シマカンギク、オオイワイチン×リュウノウギク=トクシギク、キイソギク×シマカンギク=ヒノミサキギク、アワコガネギク×リュウノウギク=シロバナアブラギク、イエギク×コハマギク=ミヤトジマギク、イエギク×シオギク、シオギク×リュウノウギク、キイソギク×リュウノウギク、シマカンギク×リュウノウギクの雑種が知られている。キク属には、絶滅危惧種として、イワギク(VU)、オオイワイチン(VU)、オオシマノジギク(VU)、キクニギク(NT)、チシマコハマギク(VU)、チョウセンノギク(EN)、トカラノギク(NT)、ナカガワノギク(NT)、ビレオギク(VU)、ウカサマハマギク(NT)が含まれる。ハナアブにより、お供えのキクの花粉が運ばれていることも指摘されている。	10 専門家：交雑	花粉、有用、園芸事典、いがり(2007)、中田(1997)
138	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種			旧要注意	キク	アメリカオニアザミ	<i>Cirsium vulgare</i>	自然草原															ヨーロッパ原産。北アメリカ、アフリカ南部、オーストラリアに分布。	1960年代渡来。北海道、本州、四国、琉球に分布。	1.5m、一～二年草	原野や河川敷に生える。肥沃で湿ったところを好む。	本種の利用に関する情報は得られなかった。		シカによる食害を受けにくく、駆除も困難が増加が危惧。国立公園の北海道利尻島など自然度の高い環境にも定着。住宅地等でもみられ、鋭い棘があることから駆除されている例もある。	要注意、対策：FAO:6、H20<4、H23.1、各県：北海道・愛知、河川：5.13.19、海外：ISSG	世雑、雑管、便覧、写真図鑑
139	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				キク	ケナシヒメムカシヨモギ(ケナシムカシヨモギ)	<i>Conyza parva</i>	海浜															北アメリカ原産。オーストラリア、ニュージーランドに分布。	1926年に牧野富太郎によって新変種として記載された。北海道、本州、四国、九州、琉球、西日本に多い。	1.5m、越年草	道端、空き地などの乾いた陽地に生える。	本種の利用に関する情報は得られなかった。		海浜環境で群落を形成する場合、コマツヨイゲサと同様に砂の安定化により植生遷移を進めようとする。ヒメムカシヨモギに似ている。別学名 <i>Conyza canadensis</i> var. <i>pusilla</i> 、 <i>Erigeron canadensis</i> var. <i>levis</i> 、 <i>Erigeron pusillus</i>	河川：11.21.20、その他：藤井委員	便覧、帰化植物、写真図鑑、藤井委員、Ylist、GCW
140	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				キク	ハルシャギク	<i>Coreopsis tinctoria</i>	湿地、河原															北アメリカ西部原産。ヨーロッパ、アジア、南アフリカ、ニュージーランドに分布。	明治初期に渡来。北海道～九州、琉球、小笠原で逸出。	1.2m、一年草	河川敷の草地、路傍、空地に生える。	ハルシャギクは園芸植物として渡来。コレオプシスの通称名で様々な園芸品種が流通、利用されている。特定外来生物に指定されたオオキケイギクの代わりに利用が増えている可能性がある。	河原の在来植物との競合、駆逐が懸念されている。近縁種のオオキケイギクは特定外来生物に指定されており、他の近縁種も同様の影響が懸念される。こうした影響を及ぼす場所には、持ち込まない。	村中：C、対策：H23.2、専門家：河原9、各県：埼玉、河川：24.39.52	便覧、帰化植物、写真図鑑、GCW	
141	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種			旧要注意	キク	ヒメジョオン	<i>Erigeron annuus</i>	山地や亜高山帯の草原															北アメリカ原産。ヨーロッパ、アジアに分布。	江戸時代末期に渡来。明治初年には広く分布。北海道～九州に分布。	1.5m、一年草	畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地などに生育する。土壌の種類を選ばない。低地から高山地帯まで生える。	若芽は食用にできる。海外では薬用利用もある。国内でも流通がある。		農耕地の雑草になるとともに、国立公園の亜高山帯のような自然性の高い環境にも侵入する。	要注意、W100：日本、村中：A、FAO：6、対策：H20.5、H23.1、専門家：草原51、各県：青森・埼玉・愛知・京都・滋賀・愛媛、河川：78.119.121	雑管、便覧、写真図鑑、帰化植物、世雑、JF、有用
142	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				キク	ベラベラヨメナ(ベラベラヒメジョオン、メキシコヒナギク、エリゲロン・カルピンスキアヌス、源平小菊、ゲンベコギク)	<i>Erigeron karvinskianus</i>	海岸や川岸の岩場															中央アメリカ原産。アフリカ、ニュージーランド、ハワイ、ヨーロッパに分布。	1949年渡来。本州、四国、九州、琉球に分布。	0.4m、多年草	農耕地、自然林、植林地、河川、撈乱地、市街地面、湿地に生育する。日本では、石垣の隙間や川沿いの崖などに生える。箱根や伊豆では、川岸などの自然の岩場にも侵入している。	花卉として栽培される。源平小菊、ゲンベコギク、エリゲロン・カルピンスキアヌスの名前が流通している。	海外で侵略的な外来種とされ、日本でも自然の岩場に侵入して在来植物への影響が懸念されている。こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	メキシコヒナギクは琉球でつけられた名前、別学名 <i>Vittadina triloba</i> 。	FAO:6、各県：広島、海外：ISSG	便覧、帰化植物、写真図鑑、勝山委員、Ylist、GCW
143	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				キク	マルバフジバカマ(ニューバトリウム・チョコレート)	<i>Eupatorium rugosum</i>	二次林やスギ林の林床															北アメリカ原産。アジア、南アフリカに分布。	1896年に渡来。1916年に逸出し、北海道、本州、四国、九州に分布。関東周辺に多い。	1m、多年草	市街地、路傍の石垣の間、日陰、特にスギ林の下に多く生える。	強羅自然公園の植栽品から逸出したと推定されている。ニューバトリウム・チョコレート等の名前が流通している。	耐寒性や耐陰性があり、樹林内へも侵入することから、林床に生育する在来植物への影響が懸念される。こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	その他：勝山委員	便覧、写真図鑑、勝山委員、Ylist、園芸事典、GCW	

No.	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件		特定外来/旧要注意	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目										原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等		
			被害の深刻度	実効性・実行可能性							定着可能性	生態系被害		分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害	逸出・拡散											
												生物	導入	競合	交雑	変異	散布													繁殖	気候
144	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				キク	コウリンタンボポ(エフデタンボポ)	<i>Hieracium aurantiacum</i>	寒冷地や亜高山帯の自然草原														ヨーロッパ原産。西アジア、北米にかけて広く分布。	明治中期に渡来。戦後定着した。北海道～九州で逸出。マット状に群生する。北海道にはサハリンから入った。	0.5m. 多年草	原産地では高山に生育する。山地の草地、畑地、牧草地、芝地、路傍、荒地などに生育する。乾いたところによく、土壌pHの低い所にも生育する。雪や霜に耐えられる。酸性の強い肥沃地では、他の雑草との競争力が弱い傾向にある。	園芸植物として渡来。花壇やロックガーデンに植えられる。	海外で侵略的な外来種とされ、風により種子が散布され、貴重な生態系である高山帯でも生育できる。そのため、こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	大雪山国立公園では山麓、林道に侵入。特別保護地区への侵入が懸念される。北米の一部では有害雑草になっている。	各県:北海道、河川:5,6,6,海外:ISSG	世雑、便覧、帰化植物、環境省、園芸辞典、有用、JF
145	定着初期/限定分布	その他の総合対策外来種				キク	キバナコウリンタンボポ(ノハラタンボポ、キバナノコウリンタンボポ)	<i>Hieracium caespitosum</i>	寒冷地や亜高山帯の自然草原														ヨーロッパ原産。北アメリカなどに分布。	1955年に確認され、北海道、岩手、福島、兵庫に分布。北海道では各地に広がっている。	0.5m. 多年草	草地、路傍、休耕地に生育する。	JFコードに掲載されているキバナコウリンタンボポが本種かどうか不明である。	近縁種のコウリンタンボポと同様に、風により種子が散布され、高地の草地に侵入し、繁殖している。そのため、こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	芝生などの種子に混入して拡大。根際からしばしば匍匐枝を出す。別学名YListは <i>Pilosella caespitosa</i> 、その他に <i>H. pratense</i> 、 <i>P. floribunda</i>	各県:北海道、河川:1,2,3,その他	便覧、写真図鑑、JF、帰化植物、YList
146	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				キク	フランスギク	<i>Leucanthemum vulgare</i>	亜高山帯														ヨーロッパ原産。アジア、南北アメリカ等、温帯に多く、一部は熱帯にも広がる。	江戸時代末期に渡来。北海道、本州、四国、九州で逸出。特に北海道に多い。	0.8m. 多年草	畑地、牧草地、路傍、空地に野生化する。近年は高山にまで侵入しつつある。	園芸植物として渡来。庭園で栽培される。	海外では畑地の雑草となっている。日本では高山地域にまで侵入しているため、各地の国立公園等で駆除の対象となっている。こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	別学名 <i>Chrysanthemum leucanthemum</i> 、マーガレット(モクシクギク) <i>Argyranthemum frutescens</i> と混同されている場合あり。種子と地下茎で繁殖する。芝生種子等に混入もある。種子の生産量は多く、寿命が39年に及ぶとの報告がある。各地の国立公園で駆除が行われている。	村中・B、対策:H206、H23:1、専門家:草原33、愛知・京道、河川:20,53,67	便覧、写真図鑑、帰化植物、JF、Ylist、世雑
147	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				キク	アラゲハンゴンソウ(キヌガサギク、ルドベキア・ヒルタ、グロリオサ・デージー)	<i>Rudbeckia hirta</i> var. <i>pulcherrima</i>	湿原、自然草原														北アメリカ原産。	1930年頃に渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球で逸出。	0.9m. 二年草	造成地、法面、牧場等に生育する。全国の山岳道路沿いにみられ、北海道の原生花園やアポイ岳の麓にも生育する。	園芸植物として渡来。グロリオサ・デージー'Gloriosa Daisy'をはじめ、様々な園芸品種が利用される。	山岳道路沿いに分布を拡大し、釧路湿原等の生物多様性の保全上重要な地域で駆除の対象になり、草原の在来植物との競合、駆逐が危惧される。こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	オオハンゴンソウの近縁種。アポイ岳の麓で採集、報告された。乗鞍など各地の重要地域で対策が行われている。牧草種子または家畜飼料に混入して分布を拡大したとされる。	対策:H20<4,27、河川:1,0,6	便覧、写真図鑑、帰化植物、JF、有用、園芸事典
148	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種			旧要注意	キク	オオオナモミ	<i>Xanthium canadense</i>	オナモミの生育地や河川敷														メキシコ原産。ヨーロッパ、アジア、オーストラリア、北アメリカ、南アメリカに分布。	1929年渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。	2m. 一年草	畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地等に生育し、飼料畑で問題になっている。	JFにはオナモミ <i>Xanthium strumarium</i> が掲載されている。オナモミは薬用や食用にされることがある。	オナモミ(絶滅危惧 類(VU))と競合、駆逐、交雑。埼玉ではキミノウ(絶滅危惧 類(VU))の生育地を圧迫。	要注意、W100:日本、村中:B、FAO:7、各県:埼玉、愛知・京都、広島・愛媛、河川:61,97,100	世雑、雑管、便覧、写真図鑑、JF、外来生物、有用	
149	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				ユリ	シンテッポウユリ(新鉄砲ユリ、タカサゴユリ)	<i>Lilium x formolagi</i>	絶滅危惧種のウケユリなど、交雑のおそれのあるユリ属の生育地周辺														在来種のテッポウユリ <i>L. longiflorum</i> と台湾産のタカサゴユリ <i>L. formosanum</i> の交雑種由来。タカサゴユリと呼ばれているものの中には雑種由来の本種が含まれると考えられる。	本州、四国、九州で逸出。タカサゴユリは1924(大正12)年に降種子が導入され、切り花用に栽培されたが、シンテッポウユリが普及するにつれて廃れた。シンテッポウユリは1939年頃に作出され、1970年代から増えてきた。	1.5m. 多年草	路傍、道路の法面、石垣の隙間などに生育する。タカサゴユリは、原産地の台湾では開けた草地から高山まで広く分布する。群馬県ではタカサゴユリが山間部へ分布を広げつつある。	シンテッポウユリ、タカサゴユリともに球根が流通している。	花が美しいため駆除の対象になり、繁殖力が強く、分布を拡大する傾向にある。近縁種のユリ属の中には、ウケユリ <i>Lilium alexandrae</i> などの絶滅危惧種が混入し、これらに対する遺伝的攪乱が危惧される。こうした種類と交雑する可能性のある場所には、持ち込まない。	希少種のウケユリが生育する電美への侵入が危惧される。JFや園芸事典では学名は <i>Lilium x formolago</i> 。タカサゴユリは種子繁殖が旺盛で、自家受粉で容易に結実して多数の種子がとれる。種子は軽いので遠方に散布されやすい。	対策:H20<4,各県:広島、愛媛、群馬、奄美、河川:0,1,3,9,24,24	便覧、帰化植物、Ylist、園芸事典、JF、比良松(2012)
150	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				ユリ	ハナニラ(セイヨウアマナ)	<i>Ipheion uniflorum</i>	里草地														アルゼンチン原産。世界各地で観賞用に栽培。ヨーロッパ、オーストラリア、ニュージーランド、北アメリカで逸出。	明治年間に花卉として導入。本州、四国、九州に分布。	0.2m. 多年草	旺盛に繁殖するため、植えられたものが各地で逸出して、野生化した。耐寒性がある。	様々な園芸品種が流通し、花壇等に植えられている。	旺盛に繁殖し、河川等で分布を拡大している。土手に繁殖した場合、在来の春植物(アマナやスミレ類など)との競合が懸念される。こうした影響を及ぼすおそれのある場所には、持ち込まない。	別学名 <i>Brodiaea uniflora</i> 。増殖は小球を母球からはずして行う。オーストラリアでは環境雑草とされている。	河川:2,3,10	便覧、写真図鑑、藤井委員、Ylist、JF、有用、GCW
151	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				アヤメ	ヒメヒオウギスイセン(ヒメヒオウギスイセン、モントブレチア)	<i>Crocsmia x crocosmiliflora</i>	河川敷、海岸や山地の草原、二次林、林床														南アフリカ原産。フランスで19世紀に、ヒメヒオウギスイセン <i>C. aurea</i> とヒメトウショウブ <i>C. pottsii</i> と交雑によって作られた園芸品種群。アメリカやアジアに分布。	明治中期(1890年頃)に渡来。北海道、本州、四国、九州で逸出。	0.8m. 多年草	花壇の付近や廃屋の庭跡などに逸出し、海岸の草地などに大群落をなして野生化している。極めて強健で、ときには荒地や山野で半野生状態になっている。耐寒性は強い。	様々な園芸品種が、花壇等で観賞用に栽培される。	海外で環境雑草となり、日本でも野生化し、河川では分布を拡大。海岸の草地にも繁殖している。このような環境に生育する在来種との競合、駆逐が危惧されることから、こうした影響を及ぼすおそれのある場所には、持ち込まない。	別学名 <i>Tritonia x crocosmiliflora</i> 。ハワイでは一般的な雑草とされる(GAWW)。オーストラリアやニュージーランドでは環境雑草とされる。ストロンの先に球根が球茎により急速に増殖する。	各県:佐賀、河川:35,68,76	便覧、帰化植物、写真図鑑、Ylist、JF、園芸事典、GAWW、GCW、naturplant3752
152	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種			旧要注意	イネ	メリケンカルカヤ	<i>Andropogon virginicus</i>	雑木林、草地、河川敷														北アメリカ原産。南アメリカ、東アジア、オーストラリア、太平洋諸島に分布。	1940(昭和15)年頃に入り、本州(関東以西)、四国、九州に分布。	1m. 多年草	畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地などに生育する。日当たりが良く、土壌が乾いた所に多い。酸性土壌や岩山にも生育する。	海外では砂防や牧草に利用される。日本での本種の利用に関する情報は得られなかった。	埼玉では雑木林にも侵入し、センブリ群落を駆逐。愛知県では希少種のウツクメ絶滅危惧 類(VU)やウツクメトドギ絶滅危惧 類(NT)と競合。在来植物が生育困難な酸性土壌にも侵入し、裸地環境を改変する。	要注意、村中:C、対策:H23:1、専門家:草原45、湿地10、各県:栃木、埼玉、愛知・鳥取・広島、愛媛、河川:44,81,93、海外:ISSG	世雑、外来生物、有用	
153	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				イネ	ハルガヤ(スイートバーナルグラス)	<i>Anthoxanthum odoratum</i>	里草地や山地草原														ヨーロッパ-シベリア原産。アフリカ、アジア、オセアニア、南北アメリカ等、温帯に分布。オーストラリア、南米等で侵略的。	明治初年に入り、北海道～九州、四国に分布。寒冷地に多い。	0.7m. 多年草	牧草地、放牧地、路傍、荒地、草地、河原、森林に生育し、山地にまでみられる。日当たりの良い所を好み、土壌の種類を選ばない。耐寒性、耐草性が強い。春先の生育が早い。	牧草として導入されたが、生産性は低くあまり重要視されていない。緑化に利用される。甘みや香りを利用してハーブとして流通、利用されている。	海外で侵略的とされ、日本でも河川等で分布を広げている。耐寒性があり、山地にまでみられることから、自然性の高い草原へ侵入し、在来種と競合し、駆逐することが懸念される。こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	甘いクマリンの芳香がする。世界的には牧草地の雑草とされる。	村中:B、FAO:7、専門家:草原40、各県:青森・広島、河川:28,62,70	世雑、便覧、帰化植物、花粉、牧草、IPSW、JF
154	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				イネ	シロガネヨシ(パンバグラス)	<i>Cortaderia selloana</i>															南米(アルゼンチン)原産。アフリカ南部に分布。ヨーロッパ南部、オーストラリア、合衆国西部で侵略的。	明治時代の中頃に渡来。関東、四国、琉球で逸出。	3m. 多年草	海岸砂丘、攪乱地、荒地、低木林、草原、川岸、水路、湿地に生育する。日本では庭園や道路沿いに各地で栽植され、ときに逸出する。東北、北海道での露地越冬は不可能。	園芸品種を含めて流通、利用されている。法面緑化への利用も確認されている。切り花、ドライフラワーにも利用。	海外で侵略的な外来種とされ、風による種子散布で分布を拡大し、様々な環境に侵入して巨大な株を作ることから、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	公園内で逸出したものが、管理上の問題となっている。増殖は株分けで行う。実生もできるが、花序の大きさ等に变异が出やすい。葉縁が鋭いので皮層が切れることがあり、生育場所はレクリエーション等に利用できなくなる。	海外:ISSG	便覧、写真図鑑、小林委員、園芸事典、JF、IPSW

No.	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件		特定外来/旧要注意	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目												原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等					
			被害の深刻度	実効性・実行可能性							定着可能性	生態系被害				重要地域	特に問題となる被害	逸出・拡散	分布拡大・拡散	繁殖	気候	永續										人体	経済産業	利用	付着	混入
												生物	導入	競合	交雑																					
155	分布拡大期-まん延期	その他の総合対策外来種				イネ	オオクサキビ	<i>Panicum dichotomiflorum</i>	湿地や河川敷															北アメリカ原産。南アメリカ、ヨーロッパ、アジア、ニュージーランド等、温帯を中心に亜熱帯にまで分布。	1927年に千葉県に入り、北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。	1m、一年草	畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地、河川敷、湿地に生育する。日当たりの良い、湿った所を好む。水田周辺、道端などに普通な雑草となっている。	1970年代には転換畑での飼料作物として盛んに試作された。水田転換畑に好適な草種とされる。生草、乾草、サイレージに利用される。	河川敷への侵入が問題となっている。湿った場所を好むことから、希少種等が生育する湿地への侵入も懸念される。こうした場所に侵入しないよう、種子の逸出を防止する配慮が必要である。牧草利用の際には、牧草地外への種子の逸出を防止するために、結実前に刈り取り、周縁部の草刈りを適切に行うとともに、利用しない種子については放置せずに適切に処分する。	関西の河川では、攪乱後に大群落を形成して他植物を圧倒する。湿地でも旺盛に生育することから、水田での雑草化が懸念される。	村中・B、各県：広島 河川：63,105,107	世雄、写真図鑑、粗飼料、牧草、藤井委員				
156	分布拡大期-まん延期	その他の総合対策外来種			旧要注意	イネ	キシウスズメノヒエ(カリマタスズメノヒエ)	<i>Paspalum distichum</i> var. <i>distichum</i>	湿地や池沼															北アメリカ原産。南アメリカ、太平洋諸島、南ヨーロッパ、アジア、オセアニアに分布。	1924年渡来、1945年以来急速に分布を拡大、本州、四国、九州、琉球に分布。	0.5m、多年草	水田、溝、湿地、河川、水路、湖沼、ため池、砂浜に生育する。日当たりの良い所、肥沃な水湿地を好む。	かつて転換畑での飼料作物として試作されたことがある。近年の利用に関する情報は得られなかった。	水田の強害雑草。	要注意、村中・B、FAO：H23.2、専門家：水生31、各県：愛知・広島・愛媛、河川：43,72,79	世雄、便覧、写真図鑑、帰化植物、牧草、角野					
157	分布拡大期-まん延期	その他の総合対策外来種				イネ	セイバンモロコシ(ジョンソングラス)	<i>Sorghum halepense</i>	河川敷、草原															地中海沿岸のアフリカ原産。ヨーロッパ、アジア、オセアニア、北アメリカ、南アメリカに分布。	飼料植物として1943(昭和18)年に渡来、本州、四国、九州、琉球、小笠原に分布。	2m、多年草	畑地、樹園地、牧草地、路傍、堤防、灌漑路の周辺に生育する。温暖、湿潤、多雨地帯で日当たりの良い所を好む。	牧草として利用されることがあるが、若い茎葉や生育不良の新鮮葉は青酸を含むことがあり、家畜が中毒を起こすことがあるので注意が必要である。モロコシ <i>S. bicolor</i> との交雑が試みられ、耐寒性がある二倍体の多年草が牧草として育成されている。	世界的な強害雑草とされており、日本でも河川で分布を拡大し、草原に生育する在来種との競合、駆逐が危惧されている。牧草利用する際には、牧草地外への種子の逸出を防止するために、結実前に刈り取り、周縁部の草刈りを適切に行うとともに、利用しない種子については放置せずに適切に処分する。	芒のない型をヒメモロコシ(ノギンセイバンモロコシ) <i>S. muticum</i> といい、群馬と「ノギンセイバンモロコシ」世界的に知られた畑の強害雑草。	村中・B、FAO：6、対策：H23.1、専門家：草原32、各県：埼玉・広島・群馬、河川：47,71,74 3.8.26* 海外：ISSG	世雄、便覧、帰化植物、写真図鑑、牧草、JF、有用				
158	分布拡大期-まん延期	その他の総合対策外来種				カヤツリグサ	アメリカヤガミスゲ	<i>Carex scoparia</i>	湿地															北アメリカ原産。ニュージーランド、オーストラリアに分布。	1986年に香川県丸亀市で探知、北海道(石狩川下流の湿地、勇払原野等)、本州の一部、香川で確認。	0.6m、多年草	湿地や湿った草地に生える。	本種の利用に関する情報は得られなかった。		その他：勝山委員	帰化植物、便覧、勝山委員、GCW					
159	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種				タデ	ツルトクダミ(カンショウ、何首烏)	<i>Fallopia multiflora</i>																台湾原産、合衆国、ハンガリーに分布。	江戸時代(享保5(1720)年)に長崎を経由して江戸で栽培。北海道、本州、四国、九州で逸出。	3m、つる性の木質の多年草	市街地周辺の路傍や生け垣などに生える。	乾燥した塊根は何首烏(かしゅう)と呼ばれ、漢方薬として用いる。	台湾での圧倒的に旺盛な生育状況から、南西諸島に侵入した場合、生態系に多大な悪影響を与えることが危惧される。生物多様性の保全上重要なこうした地域には、持ち込まない。	別学名 <i>Polygonum multiflorum</i> , <i>Pleuropterus multiflorus</i> ,	その他：横田委員	便覧、帰化植物、写真図鑑、横田委員、有用、園芸事典、Ylist, GCW				
160	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種				ヤマゴボウ	ジュズサンゴ	<i>Rivina humilis</i>	林床															南アメリカ原産。北アメリカ、アジア、オーストラリア、アフリカ、ヨーロッパ、太平洋諸島に分布。	明治時代後期に移入植物に侵入して小笠原の父島に侵入。沖縄へは復帰後観賞用に導入。岡山、宮崎に分布。	1m、常緑の多年草	小笠原では湿り気のあるやや暗い林内で純群落を形成する。沖縄では庭園を中心に雑草化。	観賞用に流通し、栽培される。果期が長いので、温室内で鉢物とするか地植えにする。南米のコロンビアでは染料を採取するために栽培される。	結実までの生長期が短い上に、果期が長く、鳥により散布されるため分布を拡大しやすい。小笠原では、在来の下層植生、林床の草本、シダ類を駆逐し、樹木の発生発芽も抑制されている。生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	10-12 で越冬、株元に落ちた果実は自然に良(発芽し、4-5月で結実する。鳥により種子が散布される。実生または挿し木でふやす。春に種子をまくと秋から冬に結実するので、一年草としても扱われる。	各県：小笠原	便覧、帰化植物、観賞、写真図鑑、有用、JF、園芸事典、GCW				
161	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種				ツルムラサキ	ツルムラサキ	<i>Basella rubra</i>																東南アジア原産ともされるが明らかではない。熱帯地域で広く栽培。	明治時代、食用植物として渡来。本州(関東以西)、四国、九州、琉球、小笠原諸島に分布。沖縄県の特産大東諸島、宮古島で蔓延している。	4m、つる性の多年草(日本では一年草)	人家の近くで見られる。高温多湿を好む。発芽適温は25℃、十分日の当たる。排水の良いところで土質をあまり選ばない。性質は強健、病気や害虫はほとんどなく栽培は容易とされる。	日本では、観賞用に鉢植えや垣根に利用される。海外では広く野菜として利用されており、日本でも健康野菜としても販売される。製紙用の糊、染料、薬用にも利用される。	熱帯地域が原産で、日本でも大東諸島、宮古島で蔓延していることから、生物多様性の保全上重要な地域には、持ち込まない。	花が白色、葉がやや狭長になる系統 <i>B. alba</i> (<i>B. alba</i> "Rubra") や、葉が大きく基部が心形になる系統 <i>B. cordifolia</i> が別種とされることもあるが、種を分けるような違いはない。	その他：横田委員	便覧、帰化植物、横田委員、Ylist、有用、園芸事典、JF				
162	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種				ムクロジ	コフウセンカズラ	<i>Cardiospermum halicacabum</i> var. <i>microcarpum</i>																汎熱帯原産。基本種のフウセンカズラ <i>C. halicacabum</i> は北アメリカ南部原産。	渡来年代不明だが1961年には記載がある。神奈川、鹿児島、琉球で逸出。	2m以上、つる性の一年草	沖縄県(特に大東諸島、宮古諸島)では、かなり蔓延している。基本種のフウセンカズラは日当たりと排水の良い場所なら土質は特に選ばない。	基本種のフウセンカズラは海外で環境雑草等とされている。日本でも大東諸島、宮古諸島で蔓延していることから、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	果実が径1.5cmたらずの変種として基本種のフウセンカズラからは区別されている。フウセンカズラは海外では環境雑草等とされている。性質は強く、栽培が容易、病気、害虫はほとんどいない。	その他：横田委員	便覧、写真図鑑、JF、有用事典、園芸事典、横田委員、GCW					
163	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種				アオイ	フヨウ	<i>Hibiscus mutabilis</i>	サキシマフヨウの生育地周辺															中国中部原産。太平洋諸島、北アメリカ、オーストラリア、ニュージーランドに分布。	古くから栽培され、本州(関東以西)、四国南部、九州南部、琉球、小笠原諸島で逸出。	4m、落葉低木	日当たりの良いところを好み、海岸に近い谷沿いの林縁に生育する。	観賞用に流通、栽培されており、庭木、公園樹、街路樹、鉢植え等に利用される。	日本固有種のサキシマフヨウとの交雑が確認されていることから、サキシマフヨウの自生地周辺には、持ち込まない。	日本固有種のサキシマフヨウは、福江島、鹿島、種子島以南)、沖縄に生育し、鹿児島県RB種で分布重要種とされる。サキシマフヨウは鹿久島、種子島などの自生地で、フヨウとの間に総性のある種間雑種ができるため、浸透交雑個体群が形成される。	各県：奄美	便覧、木本、JF、園芸事典、樹の花4、GCW				
164	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種				トケイソウ	クサトケイソウ(パッションフルーツ)	<i>Passiflora foetida</i>																南アメリカ原産。太平洋諸島などの熱帯-亜熱帯に分布。	渡来年代不明。千葉、琉球(沖縄県、大東島)、小笠原(硫黄島)で逸出。特に大東諸島、宮古諸島で蔓延。	つる性の一年草	路傍や河原等の攪乱地に生育する。湿った場所を好む。	果実を食用したり、薬用にするために栽培される。アフリカやマレーシア地域では地被植物としても利用される。日本でも流通、販売されている。	熱帯地域が原産で、日本でも大東諸島、宮古島で蔓延していることから、生物多様性の保全上重要な地域には、持ち込まない。	腺毛の量や、和名の由来である臭気の変異が多い。	海外：ISSG、その他：横田委員	便覧、写真図鑑、横田委員、有用、園芸事典				
165	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種				フトモモ	フトモモ	<i>Syzygium jambos</i>	山地の溪流沿い															イラン、インド-インド洋諸島原産。アフリカ、北アメリカ、南アメリカ、インド洋諸島、太平洋諸島に分布。温帯域にも分布を広げつつある。	1935年以前に渡来、琉球(屋久島、種子島)以南で野生化。	10m、常緑高木	自然林、植林地、河川敷、海岸の低木林に生育する。日本では、低地-山地の溪流沿いの水辺に生える。	沖縄には果樹として古い時代に導入されたが、食味が淡白であることからあまり普及しなかった。現在は、観賞植物として流通、栽培される。	海外で侵略的な外来種とされ、日本でも琉球の山地の溪流沿いにまで侵入している。こうした場所は、生物多様性の保全上重要な地域の中で、希少種等も生育する環境である。こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	海外：ISSG	便覧、写真図鑑、有用、琉球、IPSW、JF、園芸事典					

No.	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件		特定外来/旧要注意	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目														原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等	
			被害の深刻度	実効性・実行可能性							定着可能性				生態系被害				分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害										逸出・拡散
											生物	導入	競合	交雑	変異	散布	繁殖	気候	永續	重要地域	特に問題となる被害	逸出・拡散												
176	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種	/	/		ショウガ	ハナシユクシャ(シユクシャ、バタフライジンジャー)	<i>Hedychium coronarium</i>																	インド-マレーシア原産。オーストラリア、南アメリカ、アゾレス諸島、マスカリン諸島、太平洋諸島に分布。アフリカ南部、ハワイ諸島で侵略的。	園芸植物として江戸時代に渡来。沖縄への渡来年不明。山口、宮崎、琉球、小笠原に分布。	2m, 多年草	湿性林、湿地、川岸など、やや湿度のある場所を好む。自生地では林内に生育する。熱帯では周年、日本では夏から初秋にかけて開花する。	切り花や観賞用に広く栽培される。根茎や花の精油を薬用や香水に利用する。根茎のデンプンを食用にする。多くの種間雑種が作られている。	奄美地域では、国の天然記念物、国立公園特別保護地区である瀬戸島の頂上に植えられて問題とされている。海外で侵略的な外来種とされ、林内でも生育できるため、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	めったに結実しないため、主に根茎による栄養繁殖で増える。	各県:奄美、海外:ISSG	写真図鑑、便覧、有用、JF、園芸事典、IPSW	
適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種)																																		
177	分布拡大期-まん延期	産業管理外来種	/	/		マタタビ	キウイフルーツ(シナサルナン)	<i>Actinidia chinensis</i> var. <i>deliciosa</i>	森林															中国原産で、ニュージーランドで改良された品種が渡来。	北海道、本州、四国の一部で逸出。	8m, つる性の落葉木	幼木時代には寒害を受けやすいが、樹齢が進めば休眠中の耐寒性は相当に強くなる。凍害、風害には弱い。土壌条件は乾燥、過湿にも弱い。カンキツ類の栽培適地にはほぼ一致する。	1969年に実生苗と導入苗から初結実をみて、近年栽培面積が増えている。様々な品種がある。	河川で増加傾向にあり、鳥により種子が散布されることから、雑木林への影響が危惧されている。こうした環境へ侵入するおそれのある場所では栽培を中止する場合には、つるが周囲に伸びたり、種子が運ばれることのないよう、適切な処置が望まれる。	耕作放棄地等からつるが伸びだして周囲の植生を圧迫する可能性がある。種子をつけ始める急速に分布拡大の危険性がある。雌雄異株なので、結実には両性の株が必要。別学名 <i>Actinidia deliciosa</i> 、オニサルナン(広義) <i>Actinidia chinensis</i>	専門家:雑木、各県:埼玉・愛媛、河川:7, 8, 10	便覧、木本、有用、JF、Ylist、園芸事典		
178	分布拡大期-まん延期	産業管理外来種	/	/		バラ	ビワ(ヒワ)	<i>Eriobotrya japonica</i>	石灰岩質の岩崖地															中国四川省、湖北省原産。北アメリカ、太平洋諸島、レユニオン島に分布。	奈良時代からあり、本州(関東以西)、四国、九州で野生化。	10m, 常緑高木	日本では、暖地の石灰岩地に生える。海外では、農耕地、自然林、植林地、河岸、荒地、撈乱地に生育する。	様々な品種が食用に栽培される。薬用にも利用される。海外でも食用や観賞用に栽培される。	ビワが生育する石灰岩地は、特有な植物群落が生ずる貴重な環境である。そのため、そうした場所に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	太平洋諸島やレユニオンでは侵略的な外来種となっている。	専門家:岩場、海外:ISSG	便覧、木本		
179	分布拡大期-まん延期	産業管理外来種	/	/	旧要注意	マメ	ハリエンジュ(ニセアカシア)	<i>Robinia pseudoacacia</i>	河原、海岸林、リンゴ園の周辺															北アメリカ合衆国原産。ヨーロッパ、アジア、オーストラリア、南アメリカに分布。	明治8年の渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。	25m, 落葉高木	市街地や海岸から低山地までの荒地、土手、野原などにしばしば群生する。	庭木、街路樹、砂防林、肥料木、薪炭材等に利用される。アカシア蜂蜜として単花蜜で高品質な蜂蜜が生産されるため、養蜂業においては最重要蜜源植物のひとつ。アカシア蜂蜜は国産蜂蜜では最も高価で取引されている。特に長野県、秋田県等のアカシア蜂蜜主産県では、開花状況によって年度変動はあるもの、8割から9割がアカシア蜂蜜であり、代替となる種は現在のところ存在しない。	河川を中心に分布を拡大しており、北海道他9県で、生態系に影響を及ぼす種類等にあげられている。種子が風や水で拡散されていると考えられている。こうした拡散のおそれに対応するほか、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある地域では利用を避けることが望ましい。リンゴ畑も病は高温多湿の梅雨時に、ニセアカシアの花弁が果実に付着することで伝播するとの報告があり、リンゴ園周辺では、一定の距離を置く等の管理が望ましい。海岸林については、倒伏による危険や、クロマツに悪影響を及ぼさない管理が必要である。	H24に改正された養蜂振興法第六条では「蜜源植物を植栽、除去、又は伐採しようとする者は、その目的に反しない限りにおいて、蜜源植物の増大を旨としてこれを行なうべきでない」とされ、国・地方公共団体に蜜源植物の保護・増殖に対する必要な施策を講ずることが求められている。	FAOと、各県、群馬で対象となっているのはナヨクサフジ。特定の系統の牛では中毒例がある。在来のクサフジ系、長(似た種類が多い)、種子は風、動物により分散、アレロパシー作用がある。	注意、W100:日本、村中:A、FAO:10、対策:H20<4、H23:4、専門家:河原50、各県:北海道・青森・埼玉・兵庫・愛媛・鳥取、河川:56,89,97,三省:国道、海外:ISSG	便覧、帰化植物、雑管、牧草、農林水産省	
180	分布拡大期-まん延期	産業管理外来種	/	/		マメ	外来クサフジ類(ビロードクサフジ(ヘアリーベッチ、シラゲクサフジ)、ナヨクサフジ(スムズベッチ))	<i>Vicia villosa</i> ssp. <i>villosa</i> , <i>V. villosa</i> ssp. <i>varia</i>	河川敷や山地草原															ビロードクサフジはヨーロッパ-西アジア原産。アフリカ、オーストラリア、南北アメリカに分布。ナヨクサフジはヨーロッパ原産。西アジアに分布。	ビロードクサフジは1941年に野生化が確認。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。ナヨクサフジは1943年に野生化が確認。本州、四国、九州、琉球に分布。	1.5m, つる性の一年草	河川敷、畑地、牧草地、樹園地、荒地、河川敷、草地などに生育する。山地まで生え、熱帯では高地にみられる。	ヘアリーベッチの名で、飼料や緑肥として栽培される。	河原で繁茂することから、カワラヨモギ、メハギ等の河科植物と競合し、駆逐するおそれがある。群馬県では、県の絶滅危惧II類のレンリソウ自生地に繁茂している。河川に侵入して種子が拡散される場所へは、持ち込まない。	FAOと、各県、群馬で対象となっているのはナヨクサフジ。特定の系統の牛では中毒例がある。在来のクサフジ系、長(似た種類が多い)、種子は風、動物により分散、アレロパシー作用がある。	FAO:6、専門家:河原32、各県:群馬、河川:9,16,27,4,4,2	世雑、便覧、帰化植物、牧草、群馬県RDB、GCW		
181	分布拡大期-まん延期	産業管理外来種	/	/		イネ	コヌカグサ(レッドトップ)、クロコヌカグサ	<i>Agrostis gigantea</i> , <i>Agrostis nigra</i>	河川敷、絶滅危惧種のアカボウライの生育地周辺															ヨーロッパ原産。北アメリカ、アジア、オセアニア、南北アメリカ等、温帯-亜寒帯に分布。合衆国やカナダで侵略的。	明治初年に導入され、北海道、本州、四国、九州、琉球(奄美大島)に分布。	1m, 多年草	畑地、牧草地、樹園地、路傍、草原、湿地、水辺などに生育する。日当たりの良い所を好む。耐寒性が強く、強酸性土壌にも生え、耐旱性もある。湿潤であれば土壌の種類を選ばないが、一般に粘質土壌-壤土に多く、やせた土地にも適応する。	飼料用、特に放牧用として利用されている。種子流通量は多くはないが、国内の種苗会社から販売されている。牧草としては、生産性や栄養価はあまり高くないものの、やせた土地などの条件不利地や林間放牧等での利用においては、代替となる種はほとんどない。いくつかの県の奨励品種に登録されており、生産が奨励されている。緑化植物として早期緑化(崩壊地やのり面等の緑化)の観点から非常に優れていることから、広く利用されている。	河川での分布拡大のほか、三省調査でも法面緑化地周辺で逸出が確認されている。青森県や栃木県では自然草原に侵入し、問題となっている。国立公園や草原に特有な希少種等が生育する自然草原の周辺では可能な限り利用を控えるか、このような場所では利用する場合には、種子の逸出を防止する配慮が必要である。牧草利用の際には、牧草地外への種子の逸出を防止するために、結実前に刈り、周縁部の草刈りを適切に行うとともに、利用しない種子については放置せず、適切に処分する。その他の非意図的な外来種の混入を防止する観点から、種子証明のある種子の利用が望ましい。法面緑化に利用する場合には、樹木の植栽、導入と併用することで植生遷移を促し、外来種の衰退を早めることができる。	種子、地下茎および匍匐茎で繁殖する。1穂当たりの生存種子数は約1,000個。休眠期間が短く、湿潤な土壌表面で容易に発芽する。土壌中の種子の寿命は5年以上。アレロパシー作用を持つ。世界的に温帯-亜寒帯地域にみられる畑地雑草で、コムギ、オムギ、エンバク、牧草類、果樹類の減収や品質低下をもたらす。日本でもコムギ、パインシヨ、テンサイの雑草とされる。在来種が再生するような環境では、コヌカグサを緑化につかうべきではないとされる(ISSG)。コヌカグサの別学名 <i>Agrostis alba</i> 、コヌカグサとクロコヌカグサの間には中間型もあり、同種として扱う見解もあるため、両種を含む。	村中:B、各県:青森・栃木・愛媛、河川:52,87,93、三省:環・農・林・園道、海外:ISSG	便覧、イネ、世雑、雑管、牧草、粗飼料、花粉、農林水産省、林野庁、Ylist、GCW、帰化植物、イネ、藤井委員		
182	分布拡大期-まん延期	産業管理外来種	/	/	旧要注意	イネ	カモガヤ(オーチャードグラス)	<i>Dactylis glomerata</i>	山地草原															地中海-西アジア原産。ヨーロッパ、アジア、オセアニア、南北アメリカ等の温帯に分布。	1861-1864年(文久年間)に渡来。1868年(明治初年)にアメリカから導入。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。	1.5m, 多年草	畑地、樹園地、路傍、荒地、土手、草地、河川敷、林縁、湿地、沿岸域等に生育する。日当たりの良い温暖地で、肥沃な所を好む。	飼料用(主に採草用)としてチモシーと並び最も広く利用されており、沖縄を除く全国で栽培されており、特に北海道-東北地方では基幹となる草種。世界的に利用されている牧草種のひとつ。牧草として利用する際は、種子が飛散して繁殖する可能性は通常はない。多くの種苗会社から販売されており、公的機関及び民間種苗会社での品種開発も行われている。生産性・永續性・栄養価等の観点から、代替となる牧草種はない。多くの県の奨励品種に登録されており、生産が奨励されている。緑化植物として早期緑化(崩壊地やのり面等の緑化)の観点から非常に優れていることから、広く利用されている。	海外で侵略的な外来種とされ、日本でも河川で分布を拡大し、三省調査でも法面緑化地周辺で逸出が確認されている。特に、北海道や本州の亜高山帯にある国立公園の自然草原へ侵入し、草原に特有な希少種等への影響が問題となっている。このような場所では利用する場合には、種子の逸出を防止する配慮が必要である。牧草利用の際には、牧草地への種子の逸出を防止するために、結実前に刈り取り、周縁部の草刈りを適切に行うとともに、利用しない種子については放置せず、適切に処分する。その他の非意図的な外来種の混入を防止する観点から、種子証明のある種子の利用が望ましい。法面緑化に利用する場合には、樹木の植栽、導入と併用することで植生遷移を促し、外来種の衰退を早めることができる。	(独)家畜改良センターの業務(飼料作物の増殖に必要な種苗の生産・配布)家畜改良センター法第11条(三)として、増殖を行っている。トウモロコシ、モロコシ、コムギ、果樹の雑草。	注意、W100:日本、村中:A、FAO:10、専門家:草原42、各県:青森・埼玉・愛媛、河川:57,104,105,三省:環・農・林・園道	便覧、帰化植物、写真図鑑、世雑、雑管、花粉、外来生物、IPSW、農林水産省、林野庁		

No.	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件		特定外 来/旧 要注意	科名	和名(別名、流通 名)	学名	特に問題となる地 域や環境	選定理由	評価項目											原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等		
			被害の深刻 度	実効性・実 行可能性							定着可能性	生態系被害			分布拡大・拡散				重要 地域	特に問題 となる被害											逸出・拡散	
												生物	導入	競合	交雑	変異	散布	繁殖		気候	永續											人体
183	分布拡大 期～まん延 期	産業管 理外来 種			旧要注 意	イネ	オニウシノゲサ (トルフェスク、ケ ンタッキー31フェス ク)	<i>Festuca arundinacea</i>	里草地、河川堤防 などの半自然草 地、亜高山帯の草 原															ヨーロッパ、北ア フリカ、西アジア原 産。アフリカ南部、 オーストラリア、北 アメリカ、南アメリ カ、体制四諸島の 亜寒帯～暖帯に分 布。	1905(明治38)年に導入、北 海道、本州、四国、九州、琉 球に分布。亜高山帯の自然 公園にも侵入。	2m、多 年草	牧草地、市街地、運動場、庭、 路傍、荒地、河原、林縁等に生 育する。日当たりの良い、肥沃 で水分の豊富な所を好む。	チモシーやオーチャードグラスと比 較すると栄養価は劣るが、環境変 異に強いため飼料用(主に放牧用) や緑化用として全国で利用され ている。特に、寒地型の永年生の牧 草としては、関東以西の温暖地で 利用可能な種が非常に少なく、代 替品種はない。世界的に利用され ている牧草種のひとつ。 牧草として利用する際は、種子が 結実する前に収穫するため、種子 が飛散して繁殖する可能性は通常 はない。 多くの種苗会社から販売されてお り、公的機関及び民間種苗会社 での品種開発も行われている。 多くの県の奨励品種に登録され ており、生産が奨励されている。 生態系環境配慮型「トルフェス ク」として、農研機構及び畜産種 苗センター(無花粉トルフェスク)と して、生産が奨励されている。 「ボンサイ3000(矮性トルフェス ク)」という品種が開発されている が、種子の価格が高いことや生産 性が低いこと等から、緑化用とし ての利用に限定されており、代替は 非常に困難。 緑化植物として早期緑化(崩壊地 やのり面等の緑化)の観点から非 常に優れていることから、広く利用 されている。 奄美地域では、要注意外来生物に 選定される等利用されなくなっ た。	海外で侵略的な外来種とされ、日 本でも河川で分布を拡大し、三省 調査で法面緑化地周辺で逸出が 確認されている。特に、北海道や 本州の亜高山帯にある国立公園 の自然草原へ侵入し、草原に特 有な希少種等への影響が問題と なっている。このような場所で利 用する場合には、種子の逸出を 防止する配慮が必要である。 牧草利用する際には、牧草地へ の種子の逸出を防止するために、 結実前に刈り取り、周縁部の草刈 りを適切に行うとともに、利用し ない種子については放置せずに適 切に処分する。その他の非意図的 な外来種の混入を防ぐ観点から、 種子証明のある種子の利用が望 ましい。 法面緑化に利用する場合には、 樹木の植栽、導入と併用すること で植生遷移を促し、外来種の衰退 を早めることができる。	(独)家畜改良センターの業務 (飼料作物の増殖に必要な種苗 の生産・配布 家畜改良センター 法第11条三)として、増殖を行っ ている。 オーストラリア、ニュージーラン ド、合衆国の一部地域で侵略的 となっている。	要注意、村 中:A、FAO:8、 専門家:草原 43、各県:青 森・栃木・埼玉 ・愛知・広島・佐 賀・徳島、河 川:61,99,112、 三省:環・農・林 ・国 道	世雑、花粉、 外来生物、 IPSW、農林水 産省・林野庁
184	分布拡大 期～まん延 期	産業管 理外来 種			旧要注 意	イネ	ドクムギ属(イタリ アンライグラス、ペ レニアルライグラス 等)	<i>Lolium spp.</i>	河原や自然草原、 ボウムギは海岸砂 地															ヨーロッパ原産。世 界の温帯～暖帯に 分布。	明治時代に入り、北海道、本 州、四国、九州、琉球に分 布。	1m、一 年～多 年草	畑地、樹園地、路傍、空地、荒 地に生育する。日当たりの良 い、温暖肥沃地を好む。	飼料用(主に採草用)として全国で 利用されており、関東以西の単年 生牧草としては、(おそらく)最も利 用されている草種。北海道・沖縄を 除く地域では、基幹となる草種。 牧草として利用する際は、種子 が結実する前に収穫するため、種子 が飛散して繁殖する可能性は通常 はない。 多くの種苗会社から販売されてお り、公的機関及び民間種苗会社 での品種開発も行われている。 多くの県の奨励品種に登録され ており、生産が奨励されている。 比較的耐湿性を有することから水 田裏作での栽培に適していること や、さらに生産性・栄養価・嗜好性 等非常に優れており、代替となる種 はない。 緑化植物として早期緑化(崩壊地 やのり面等の緑化)の観点から非 常に優れていることから、利用され ている。	河川での分布拡大のほか、三省 調査でも法面緑化地周辺で逸出 が確認されている。特に、河川敷 への侵入が問題となっている。国 立公園や、特有な希少種等が生 育している河川敷周辺では可能 な限り利用を控えるか、このよう な場所で利用する場合には、種子 の逸出を防止する配慮が必要で ある。牧草利用する際には、牧草 地外への種子の逸出を防止する ために、結実前に刈り取り、周縁 部の草刈りを適切に行うととも に、利用しない種子については放 置せずに適切に処分する。その他 の非意図的な外来種の混入を防 ぐ観点から、種子証明のある種子 の利用が望ましい。 法面緑化に利用する場合には、 樹木の植栽、導入と併用すること で植生遷移を促し、外来種の衰退 を早めることができる。	(独)家畜改良センターの業務 (飼料作物の増殖に必要な種苗 の生産・配布 家畜改良センター 法第11条三)として、増殖を行っ ている。 ネズミムギ(イタリアンライグラス) <i>L. multiflorum</i> 、やホムムギ(ペレニ アルライグラス) <i>L. perenne</i> 、これ らの雑種であるハイブリッドライ グラス <i>L. x hybridum</i> 等が利用され る。家畜に食べられて糞に混入し て運ばれることが多い。アレロパ シー作用がある。ボウムギ <i>L. rigidum</i> は海岸砂地に群生する。	要注意、村 中:B、FAO: 8、対策: H23.2、専門 家:河原37、各 県:青森・栃木 ・埼玉・愛知・兵 庫・広島・徳島 ・河川:42,66,82、ネズミ ムギ 56,100,108、ネズミ ムギ 8,19,22、イグ ア ムギ 0,0,3、 ムギ 3,6,5、三 省:環・農・国 道、 藤井委員	世雑、雑管、 花粉、粗飼料、 農林水産省・林 野庁、藤井委員 、写真図鑑
185	分布拡大 期～まん延 期	産業管 理外来 種			旧要注 意	イネ	オオアワガエリ(チ モシー)	<i>Phleum pratense</i>	亜高山帯や山地の 草原															ヨーロッパ・シベリ ア原産。ヨーロッ パ、アジア、オセア ニア、北アメリカ、 南アメリカの温帯 に分布。	明治初期に入り、北海道、本 州、四国、九州に分布。	1m、多 年草	畑地、樹園地、路傍、荒地に生 育する。冷涼で多湿の気候を 好み、肥沃な日当たりの良いと ころに多い。	牧草として優れた性質を持ち、栽培 品種も多い。 飼料用(主に採草用)としてオー チャードと並び最も広く(利用(沖縄 県を除くほぼ全国)されており、北 海道～東北地方では基幹となる草 種で、北海道で利用される牧草の うち最も面積が広い、世界的に利用 されている牧草種のひとつ。 牧草として利用する際は、種子 が結実する前に収穫するため、種子 が飛散して繁殖する可能性は通常 はない。 多くの種苗会社から種子が販売さ れており、公的機関及び民間種苗 会社での品種開発も行われている。 多くの県の奨励品種に登録され ており、生産が奨励されている。 生産性・持続性・栄養価等の観点 から、代替となる草種はない。 緑化植物として早期緑化(崩壊地 やのり面等の緑化)の観点から非 常に優れていることから、利用され ている。	自然草原への侵入が問題となっ ている。国立公園や、特有な希少 種等が生育している自然草原の 周辺では可能な限り利用を控える か、このような場所で利用する場 合には、種子の逸出を防止する 配慮が必要である。牧草利用す る際には、牧草地外への種子の 逸出を防止するために、結実前に 刈り取り、周縁部の草刈りを適切 に行うとともに、利用しない種子 については放置せずに適切に処分 する。その他の非意図的な外来 種の混入を防ぐ観点から、種子 証明のある種子の利用が望ましい。 法面緑化に利用する場合には、 樹木の植栽、導入と併用すること で植生遷移を促し、外来種の衰退 を早めることができる。	(独)家畜改良センターの業務 (飼料作物の増殖に必要な種苗 の生産・配布 家畜改良センター 法第11条三)として、増殖を行っ ている。 ミヤマアワガエリとの交配可能。	要注意、村 中:B、FAO: 9、対策: H20<4、専門 家:草原38、各 県:愛知、河 川:24,39,34、 三省:国 道	世雑、農林水 産省・林野庁
186	分布拡大 期～まん延 期	産業管 理外来 種				イネ	モウソウチクなど の竹類	<i>Phyllostachys edulis, Phyllostachys spp.</i>	二次林、自然林															モウソウチクは中 国原産。マダケ <i>P. reticulata</i> やは中 国原産説もあつた が日本原産らしい。 ハチク <i>P. nigra var. henonis</i> は中 国原産説と日本原 産説がある。	モウソウチクは江戸時代に渡 来。北海道南部から九州で栽培 、逸出。マダケは本州、四 国、九州、沖縄で栽培。ハチ クは北海道中部以南から沖 縄で栽培。	約20m、 木本	植林地、里山の二次林や自然 林にも侵入し、林床の環境も 変えてしまう。	筍としての食用、竹材、物を包むの に皮が利用される。	既にある竹林については、放棄す ることなく適切に利用、管理され ることが望ましい。適切な管理が持 続できない場所へは、新たに持ち 込まない。	広島県では、竹類のうちマダケと ハチクが特に二次林等に侵入、 拡大し、環境を改変することで問 題になっている。	村中:B、FA O:7、対策: H23.1、専門 家:雑木47、各 県:埼玉・愛知・ 広島	便覧、樹の花5
187	分布拡大 期～まん延 期	産業管 理外来 種				イネ	ナギナタガヤ(ネズ ミノシツゴ)	<i>Vulpia myuros</i>	海岸砂地、草原															ヨーロッパ～西ア ジア原産。アフリ カ、アジア、オース トラリア、南北ア フリカ、大西洋諸島、 太平洋諸島などの 温帯～暖帯に分 布。オーストラリア では侵略的。	明治初年に入り、北海道、本 州、四国、九州、琉球に分 布。	0.6m、一 年草	畑地、牧草地、庭、路傍、荒地 などに生育する。日当たりの良 い砂質土壌を好む。海辺の砂 地、乾いた草地に多い。	密な群落を作って他の雑草を抑え るため、近年は果樹園や道端の雑 草防除剤の一つとして、改良品種 を含むナギナタガヤが、流通、販売 され、栽培されている。	海外で侵略的な外来種とされ、日 本でも河川等で分布を拡大してい る。大量に利用されるようになるこ とで、生物多様性の保全上重要な 地域にも侵入するおそれがある。 果樹園等で利用する際には、利 用しない種子を放置せずに適切 に処分する。	これまでナギナタガヤはそれほど 大きな問題にはなっていないが、 大量に種子が撒かれることにより、 周辺への影響が心配される。温 帯域の畑地、牧草地の雑草とな っている。	村中:B、各 県:徳島、河 川:52,91,98	世雑、勝山委 員、便覧、写真 図鑑、IPSW

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報) <植物>

【国内由来の外来種】

対策優先度の要件は緊急対策外来種・重点対策外来種のみ記入

2015.03.26

No.	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件			科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目														分布	形態	生育環境など	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等			
			被害の深刻度	実効性・実行可能性	特定外来種/旧要注意						定着可能性				生態系被害				分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害									逸出・拡散		
											生物	導入	競合	交雑	変異	散布	繁殖	気候	永続	人体	経済産業	利用		付着混入											
定着を予防する外来種(定着予防外来種)																																			
侵入予防外来種																																			
191	国内由来の外来種	侵入予防外来種	/	/		イワツタ	変異種のイチイツタ(キラハ海藻)	<i>Caulerpa taxifolia</i>				()	-	()														イチイツタは南西諸島に分布しているが、世界的に問題となっているのは地中海の変異型で、変異型の日本での定着は確認されていない。	28m、海藻	熱帯～亜熱帯海域に分布するものは20以下では生存できないが、地中海に生育するものは10以下でも死滅しない。	本種の流通、販売は確認されなかったが、水族館で展示されていたこともあり、観賞用の海藻として熱帯魚店などで販売される可能性がある。	海外で侵略的な外来種とされ、日本でも利用されている可能性がある。栽培に用いた水を含め、自然海域に持ち込まない。	緑藻植物門	W100: IUCN・日本、各県・佐賀、海外:ISSG、その他:岩崎委員	H16第1回G会合植物資料、海洋産業研究会(2003)
総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種)																																			
緊急対策外来種																																			
192	国内由来の外来種	緊急対策外来種	/	/		トウダイグサ	小笠原諸島・奄美諸島などのアカギ	<i>Bischofia javanica</i>	小笠原諸島や奄美諸島			/	/	x														琉球(沖縄諸島、八重山列島)に分布。	25m、半常緑性高木	森林に広くみられるが、野生化どうか不明な所も多い。	庭木、街路・防風樹、市販品が流通、販売されている。	温暖な地域では分布拡大の可能性が高いため、可能な限り利用を控えるか、種子の逸出を防止する配慮が必要である。	首里金城の大アカギは文化財保護法で天然記念物に指定。	W100: 日本、村中:A、対策:H20<4、専門家:海洋島25、各県:小笠原、海外:ISSG	木本、樹木、JF
重点対策外来種																																			
193	国内由来の外来種	重点対策外来種	/	/		マツ	小笠原諸島などのリュウキュウマツ(オキナワマツ)	<i>Pinus luchuensis</i>	小笠原諸島			/	/	x														吐噶喇列島以南の琉球に分布。	25m、常緑高木	暖地の森林に生える。	庭木、防風・防潮樹に利用される。市販品が流通、販売されている。	温暖な地域では分布拡大の可能性が高いため、小笠原諸島など自然分布域でない場所では可能な限り利用を控えるか、種子の逸出を防止する配慮が必要である。	母島・父島の松枯れの原因のマツノダラカミキリがグリーンノールに被害されて、再繁殖。落葉層による他種の発芽抑制。	対策:H20<4、専門家:海洋島25、各県:小笠原	木本、樹木、JF
194	国内由来の外来種	重点対策外来種	/	/		クワ	小笠原諸島などのガジュマル	<i>Ficus microcarpa</i>	小笠原諸島の父島			/	/	x														屋久島以南・琉球、台湾・中国大陸南部・東南アジア・インド・ニューギニア・オーストラリアに分布。	20m、常緑高木	海岸近くに生える。	南西諸島では防風、防潮用のほか木陰樹としても植えられる。市販品が流通、販売されており、観葉植物としても利用される。	温暖な地域では分布拡大の可能性が高いため、可能な限り利用を控えるか、種子の逸出を防止する配慮が必要である。	果実は食べられる。ISSGの表題は <i>Ficus microcarpa</i>	専門家:海洋島6、各県:小笠原、海外:ISSG	木本、JF、観葉植物
195	国内由来の外来種	重点対策外来種	/	/		クワ	小笠原諸島などのシマグワ	<i>Morus australis</i>	小笠原諸島のオカサワラグワの生育地			/	/	-														九州南部、南西諸島から中国大陸・インド東部に分布。	10m、落葉高木	低山地の林内に生える。	養蚕用に栽培される。市販品が流通、販売されている。	クワ属の在来種の生育場所の周辺では、可能な限り利用を控えるか、花粉の散布を防止する配慮が必要である。	シマグワ <i>M.austaralis</i> とヤマグワ <i>M.bombycis</i> を分ける見解と、ヤマグワ(シマグワ)、 <i>M.austaralis</i> として同種と見解がある。	専門家:海洋島24、交雑24、各県:小笠原	木本、有用、園芸事典、樹木、JF
196	国内由来の外来種	重点対策外来種	/	/		ケシ	白山などの高山帯のコマクサ	<i>Dicentra peregrina</i>	白山、北海道の樽前山・羊蹄山・前天塩岳、白山、日光白根山			/	/	-														北海道・本州中北部、千島・カムチャッカ・樺太・シベリア東部に分布。	0.1m、多年草	高山の砂礫地に点々と生える。	市販品が流通、販売されている。	産地が異なるものや不明なものは、遺伝的攪乱を引き起こすので持ち込まない。高山帯は、自然公園法等により植物の植栽が規制されている。	自然公園法の指定植物。	専門家:高山22、その他:白山で駆除	草本、JF
197	国内由来の外来種	重点対策外来種	/	/		トウダイグサ	屋久島などのアブラギリ(ドクエ)	<i>Vernicia cordata</i>	屋久島			/	/	-														本州(中部地方以西)、四国、中国、九州、朝鮮半島、中国、台湾に分布。	15m、落葉高木	山地に生えるほか、栽培される。強健で生長は比較的早く、湿潤な土壌、日当たりを好む。剪定、移植に耐える。	種子からとった桐油は有毒だが、乾性油としてすくね、印刷用インクやペンキ、油紙などに利用。昔は和傘との競合、駆逐が危惧される。生物多様性の保全上重要な地域へは、持ち込まない。	強健で生長は比較的早く、シカの食害を受けにくいことから急激に増加し、在来種との競合、駆逐が危惧される。生物多様性の保全上重要な地域へは、持ち込まない。	別学名 <i>Aleurites cordata</i> 。中国の広東省と福建省が原産で日本には約300年前に渡来したとされたが、中国には自生しないことから、現在は日本が原産と考えられている。種子が原因の食中毒の事例がある。増殖は実生による。	その他:日本生態学会	便覧、千葉県植物誌、Ylist、目録、樹花4、木本、有用、園芸事典
198	国内由来の外来種	重点対策外来種	/	/		オオバコ	高山帯のオオバコ	<i>Plantago asiatica</i>	ハクサンオオバコが生育する白山や立山			/	/	-														千島・樺太、北海道・琉球、朝鮮、中国に分布。	0.5m、多年草	日当たりの良い道端や荒地に普通。	市販品が流通、販売されている。薬に斑が入る園芸品種が栽培される。	高山植物であるハクサンオオバコとの交雑が確認され、遺伝的攪乱が危惧されている。こうした問題は野生品の非意図的な持ち込みによると思われるが、栽培品についてもこうした問題を引き起こさないよう、オオバコ属の希少種の生育場所の周辺には持ち込まない。		対策:H20:14	草本、雑管、事典
その他の総合対策外来種																																			
199	国内由来の外来種	その他の総合対策外来種	/	/		タデ	山地のギンギシ	<i>Rumex japonicus</i>	北海道、早池峰、立山など、希少種のギンギシ属の生育場所			/	/	-														日本全土、朝鮮・中国、千島・樺太に分布。	1m、多年草	原野や道端の湿地に多い。	市販品が流通、販売されている。薬用や染色に利用される。	ギンギシ属の植物は雑種を作りやすく、希少種の遺伝的攪乱が懸念される。ギンギシ属の生育場所の周辺には持ち込まないが、花粉の散布を防止するよう配慮する。	日本では最近報告はないが、シュウ酸を含むので中毒を起こす。	対策:H20<4	草本、雑管、花粉、牧草、JF、園芸事典、世継
200	国内由来の外来種	その他の総合対策外来種	/	/		ヤシ	九州北部以北の森林内などのシュロ類	<i>Trachycarpus</i> spp.	温暖な地域の森林			/	/	-														シュロ <i>T.fortunei</i> は南九州の原産で中国にも分布。トウシュロ <i>T.wagnerianus</i> は中国原産。本州以南に分布。	7m、常緑高木	市街地を中心に野生状態のものがみられる。	市販品が流通、販売されている。	二次林にも自然林にも侵入するので、特に温暖な地域では、可能な限り利用を控えるか、種子の逸出を防止する配慮が必要である。	シュロとトウシュロの識別はやや困難。ISSGはシュロ <i>T.fortunei</i>	専門家:雑木38、楳相25、各県:埼玉、海外:ISSG	便覧、木本、JF

<種の抽出に利用した既存の文献等>

作業量の限界から、全体で数百種類程度となるよう、かつできるだけ異なる観点から抽出を行った。

特定外来生物(12種)と要注意外来生物 (84種)

IUCNのワースト100のうち植物27種(在来種を除く全種が既に　に含まれている)。http://www.issg.org/database/species/search.asp?st=100ss&fr=1&str=&lang=EN

日本の侵略的外来種ワースト100のうち植物26種(既に全種が　に含まれている)。日本生態学会(2002)外来種ハンドブック . 地人書館 .

村中ら(2005)掲載の108種(　河川重視の評価)。

村中孝司・石井潤・宮脇成生・鷲谷いづみ(2005)特定外来生物に指定すべき外来植物種とその優先度に関する保全生態学的視点からの検討 . 保全生態学研究10: 19-33 .

F A O方式による雑草性リスク評価の結果、6点以上の特に注意すべき外来植物 (* は今後導入される可能性のある外来植物)

外来生物のリスク評価と蔓延防止策(文部科学省科学技術振興調整費・重要課題解決型プロジェクト)による雑草性リスク評価、日本農学会(2008)外来生物のリスク管理と有効利用 . 養賢堂 .

地方公共団体や民間団体により、対策の対象となっている種(数字は対策事例数)

環境省自然環境局野生生物課(2009)平成20年度外来種対策事例等に関する調査報告書 .

環境省自然環境局野生生物課(2012)平成23年度外来種問題調査検討業務報告書 .

専門家アンケートで、ハビタットや在来種への影響が大きい(74人中5名以上があげた)種(数字は回答者数)

ハビタットの種類:海洋島、水生植物群落、河原・崩壊地の貧栄養砂礫地、里山の二次草原、貧栄養湿地、砂浜海岸、高山植生、塩性湿地、雑木林・都市林、極相林、低地岩場、海岸の岩場

小池文人・小出可能・西田智子・川道美枝子(2010)専門家アンケートによる在来植物の脅威となる外来生物の重要度評価　http://vege1.kan.ynu.ac.jp/lecture/invasiveness2010.pdf

都道府県などで特に侵略的または優先的に対策すべきとされる種

北海道ブルーリスト2010 , http://bluelist.hokkaido-ies.go.jp/

カテゴリーA2：本道の生態系等へ大きな影響を及ぼしており、防除対策の必要性について検討する外来種17種(カテゴリーA1はなし、A3は106種が掲載)

青森県(2006)青森県外来種対策学術調査報告書 - 青森県外来種リスト - . http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kankyo/shizen/files/2008-0607-1553-a.pdf

カテゴリーA(侵略的定着外来種)：本県に定着している外来種のうち、生物多様性への影響が報告されている又は懸念される種のうち、代表的な選定種30種

栃木県、長谷川順一(2008)栃木県の自然の変貌，自然の保全はこれよりのか(自刊) .

近年増加が顕著な帰化植物

群馬県、石川真一・清水義彦・大森威宏・増田和明・柴宮朋和(2009)外来植物の脅威 - 群馬県における分布・生態・諸影響と防除方法 - . 上毛新聞社事業局出版部 .

県内で生育が確認され、生態系等への被害が想定される「県内危険外来種」11種

埼玉県環境防災部みどり自然課(2005)埼玉県内において在来の植生に悪影響を及ぼすおそののある侵入的外来植物について . 改訂・埼玉県レッドデータブック2005植物編299-306pp .

危険度5　極めて危険・すでに在来植生に侵入し、在来種と競合して在来種を駆逐しているもの。コカナダモ、オオフサモなど17種

・すでに在来の種と交雑し、雑種に繁殖力があるもの。セイヨウタンポポなど

危険度4　非常に危険・すでに在来植生に侵入し、近い将来、在来種を駆逐する危険の高いもの。オニマタビなど25種

・すでに在来種との交雑が確認されているが、現時点では雑種に繁殖力がないもの

侵入した植生のタイプ:河川敷、池沼・湿地、落葉樹林、林縁、路傍等

千葉県外来種対策(植物)検討委員会(2010)千葉県の外来種(植物)の現状等に関する報告書 .　http://www.bdcchiba.jp/alien/bdc-alien/alienplantsreport2009.pdf

「影響度」および「緊急度」、「容易性」がともにAランクの23種

愛知県環境部自然環境課(2012)愛知県の移入動植物ブルーデータブックaiti2012(STOP!移入種　守ろう！あいちの生態系～愛知県移入種対策ハンドブック～付属資料抜刷)

http://www.pref.aichi.jp/kankyo/sizen-ka/shizen/gairai/handbook/pdf/10_shiryou3-plants.pdf

環境影響が大きい、あるいは今後大きくなることが予想される植物78種

愛知県、上記のうち「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」(以下「条例」という。)において、生態系に著しく悪影響を及ぼすおそののある移入種13種

http://www.pref.aichi.jp/kankyo/sizen-ka/shizen/gairai/jorei.html

滋賀県で注意すべき外来生物、10種　http://www.lbm.go.jp/emuseum/zukan/gairai/shiga.html

ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例、**指定外来種**　http://www.pref.shiga.lg.jp/d/shizenkankyo/kyoseijourei.html#kisyo_gairai

京都府外来生物情報、京都府外来生物リスト

被害甚大種(京都府内における被害が大きく、又は大きくなる可能性が強く緊急に策が必要な外来種) 5種　http://www.pref.kyoto.jp/gairai/list/spermatophyta.html

被害危惧種(京都府内における被害があり、又は被害が生じる可能性が強く対策が必要な外来種)のうち特に被害が大きいと認められる種37種　http://www.pref.kyoto.jp/gairai/data/index.html

兵庫県(2010)生物多様性に悪影響を及ぼす外来生物への対応，兵庫県生物多様性に悪影響を及ぼす外来生物リスト(ブラックリスト)(2010)

2警戒種(生物多様性への影響が大きい、または今後影響が大きくなることが予測される32種)

鳥取県生物学会(2007)鳥取県の外来性動植物のリスト(2007) . 山陰自然史研究3:37-45 .

本県への影響大とされる10種

岡山県、外来食虫植物の除去(岡山県自然保護センター) http://opnacc.eco.coocan.jp/chosa-kenkyu/gairai-shokuchu-shokubutsu.html

広島県、吉野由紀夫・太刀掛優・関太郎(2007)広島県における外来植物の現状とその問題点 . 比婆科学224:1-18 .

ランクA:広島県の自然生態系に重大な影響をおよぼすおそののある種64種

愛媛県野生動植物の多様性の保全に関する条例に基づく侵略的外来生物の公表について http://www.pref.ehime.jp/h15800/gairaiseibutu/index.html、侵略的外来生物40種

佐賀県環境の保全と創造に関する条例、移入規制種18種、http://www.pref.saga.lg.jp/web/kurashi/_1262/_33058/_33943/jourekiseishu.html

宮崎県版レッドデータブック改訂検討委員会(2011)改訂・宮崎県版レッド - データブック宮崎県の保護上重要な野生生物、宮崎県環境森林部自然環境課、植物のブラックリスト11種類

小笠原諸島、延島冬生(2010)小笠原諸島に侵入している外来植物の現状、植調44(1)5-13 . 侵略的外来樹木9種、侵略的外来草本8種

奄美、環境省九州地方環境事務所那覇自然環境事務所(2010)平成21年度奄美地域における国立公園特別地域内放出規制植物種検討調査業務報告書 .

多くの河川で確認されている種と、確認される河川数が急激に増えている種(表の数字は3回の調査での確認河川数で、下記に該当する種は太字で示した)

河川水辺の国勢調査1・2・3巡回調査結果総括検討(河川版)(生物調査編)平成20年3月　国土交通省河川局河川環境課　http://www3.river.go.jp/gaiyou.htm

a.多くの河川で確認されている

1 1 巡目から3 3 巡目までのいずれかで、出現率(出現河川数 / 対象河川数)が50%を超えるもの(史前帰化植物を除く)。

b.確認される河川数が急激に増えている

1 1 巡目から3 3 巡目までに確認河川が4倍以上、または2 2 巡目から3 3 巡目までに確認河川数が2倍以上になった種

(各回の対象河川数の違いは出現率として補正して算出、1 1 巡目や2 2 巡目の出現河川数が0の種類も含む、3 3 巡目の確認河川数が10以上を対象)

1 1 巡目: H 2 ~ H 7 に78河川で実施、2 2 巡目: H 8 ~ H12に119河川で実施、3 3 巡目: H13 ~ H17に121河川で実施

緑化植物に関する三省調査で、法面緑化地周辺において逸出が確認された種(括弧内は調査実施主体の略)

環境省自然環境局・農林水産省農村振興局・林野庁・国土交通省都市・地域整備局・国土交通省河川局・国土交通省道路局・国土交通省港湾局(2006)平成17年度外来生物による被害の防止等に配慮した緑化植物取扱方針検討調査委託事業報告書 .

なお、生態系への影響に対応した望ましい取扱方向(案)の対象種は、イネ科植物、ハリエンジュ、(外国産)在来緑化植物とされている。

海外の評価

ISSG掲載の在来種以外: Lists of Invasive Alien Species (IAS) , http://www.issg.org/database/reference/Index.asp

その他

検討委員からの情報提供

【主な参考文献と略称】

Bossard, C. C., J. M. Randall and M. C. Hochovsky. 2000. Invasive Plants California's Wildlands. University of California, Berkeley. 360pp.(IPCW)

Global Compendium of Weeds, <http://www.hear.org/gcw/index.html>(GCW)

橋本梧郎(1996)ブラジル産薬用植物事典. アポック社. (ブラジル)

林弥栄(1985)山溪カラー名鑑日本の樹木. 山と溪谷社. (樹木)

Holm, L. G., J. V. Pancho, J. P. Herberger, and D. L. Plucknett (1991) A Geographical Atlas of World Weeds. Krieger Publishing Company, Malabar, Florida.(GAWW)

堀田満・緒方健・新田あや・星川清親・柳宗民・山崎耕宇(1989)世界有用植物辞典. 平凡社. (有用)

星野卓二・正木智美・西本眞理子(2011)日本カヤツリグサ科植物図譜. 平凡社. (カヤツリグサ)

岩槻邦男(1992)日本の野生植物シダ. 平凡社. (シダ)

岩月善之助(2001)日本の野生植物コケ. 平凡社. (コケ)

JFコード(日本花き取り引きコード)センター <http://www.jfcode.jp/TOP.aspx>(JF)

角野康郎(2014)ネイチャーガイド日本の水草. 文一総合出版. (角野)

草薙得一・近内誠登・芝山秀次郎(1994)雑草管理ハンドブック. 朝倉書店. (雑管)

邑田仁・米倉浩司(2012)日本維管束植物目録. 北隆館. (目録)

長田武正(1989)増補日本イネ科植物図鑑. 平凡社. (イネ)

大野昭好・片野田逸朗(1999)琉球弧・野山の花. 南方新書. (琉球弧)

尾崎章・河瀬晃四郎・山中雅也(1991)山溪カラー名鑑観葉植物. 山と溪谷社. (観葉)

Institute of Pacific Islands Forestry, Pacific Island Ecosystems at Risk (PIER) Plant threats to Pacific ecosystems. <http://www.hear.org/pier/index.html> (PIER)

斎藤洋三・井出武・村山眞司(2006)新版・花粉症の科学. 化学同人. (花粉)

坂崎信之(1998)日本で育つ 熱帯花木植栽事典. アポック社. (熱帯花木)

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(1982)日本の野生植物草本 単子葉類. 平凡社. (草本)

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(1982)日本の野生植物草本 離弁花類. 平凡社. (草本)

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(1982)日本の野生植物草本 合弁花類. 平凡社. (草本)

佐竹義輔・原寛・亙理俊次・富成忠夫(1989)日本の野生植物木本 . 平凡社. (木本)

佐竹義輔・原寛・亙理俊次・富成忠夫(1989)日本の野生植物木本 . 平凡社. (木本)

清水建美(2003)日本の帰化植物. 平凡社. (帰化植物)

清水矩宏・宮崎茂・森田弘彦・廣田伸七(2005)牧草・毒草・雑草図鑑. 全国農村教育協会. (牧草)

清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七(2001)日本帰化植物写真図鑑. 全国農村教育協会. (写真図鑑)

自然環境研究センター(2008)日本の外来生物. 平凡社. (外来生物)

鈴木基夫・横井政人(1998)山溪カラー名鑑園芸植物. 山と溪谷社. (園芸)

太刀掛優・中村慎吾(2007)改訂増補帰化植物便覧. 比婆科学教育振興会. (便覧)

高橋秀男・勝山輝男(2000)山溪ハンディ図鑑3 樹に咲く花、離弁花 . 山と溪谷社. (樹の花3)

高橋秀男・勝山輝男(2000)山溪ハンディ図鑑4 樹に咲く花、離弁花 . 山と溪谷社. (樹の花4)

高橋秀男・勝山輝男(2000)山溪ハンディ図鑑5 樹に咲く花、合弁花・単子葉・裸子植物. 山と溪谷社. (樹の花5)

高野信雄(1989)粗飼料・草地ハンドブック. 養賢堂. (粗飼料)

竹松哲夫・一前宣正(1987)世界の雑草 合弁花類 . 全国農村教育協会. (世雑)

竹松哲夫・一前宣正(1993)世界の雑草 離弁花類 . 全国農村教育協会. (世雑)

竹松哲夫・一前宣正(1993)世界の雑草 離弁花類 . 全国農村教育協会. (世雑)

塚本洋太郎(1994)園芸植物大事典全3巻. 小学館.

豊田武司(2003)小笠原植物図譜(増補改訂版). アポック社. (小笠原)

植村修二・勝山輝男・清水矩宏・水田光雄・森田弘彦・廣田伸七・池原直樹(2010)日本帰化植物写真図鑑第2巻. 全国農村教育協会. (写真図鑑)

United States Department of Agriculture, Natural Resources Conservation Service, plants Database. <http://plants.usda.gov/java/> (USDA)

山崎美津夫・山田洋(1994)世界の水草 . 八口ウ出版社. (水草)

山崎美津夫・山田洋(1994)世界の水草 . 八口ウ出版社. (水草)

山崎美津夫・山田洋(1994)世界の水草 . 八口ウ出版社. (水草)

米倉浩司・梶田忠(2003-)BG Plants 和名・学名インデックス. (YList) http://bean.bio.chiba-u.jp/bgplants/ylist_main.html

Weber, E. 2003. Invasive Plant Species of the World, A Reference Guide to Environmental Weeds, CABI Publishing.(IPSW)